授業科目名	担当者
基礎ゼミナール	西本裕子・水鶏口陽一・井上美佳・鷲﨑公彦

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業概要】
・社会的・職業的自立に向けた就業力を育成するため、「自主性・主体性・迅速な行動力」の3つの力の育成をする。
・保育者としての専門性を理解し、基礎的な知識や技能の習得する。
・「お店屋さんごっこ」で協働実践力を養う。
【履修上の注意事項】
①報連相を行うことや社会人としてのマナーやスケジュールの管理などの基礎的な能力を身につけること。
②体調管理に留意し、欠席のないように心がけること
③提出物の期限を守ること
【フィードバックについて】
・実践した活動後に、それぞれの課題について振り返り、フィードバックを行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがある。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	オリエンテーション（提出物について、学生生活の留意点） 2年間の学習を記録していく目的／情報機器等の利用方法	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 就職の手引き（30分）	4月5日	出・欠
2	社会人としてのマナー 保育者として知っておきたいマナーについて	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 新入生研修会（20分）	4月12日	出・欠
3	「絵本百冊読み」／「絵本の読み聞かせ」について／ 図書館司書による「絵本の読み聞かせ」の実演と図書館利用について		4月19日	出・欠
4	客員教授 岩国市長による特別講義		4月26日	出・欠
5	「お店屋さんごっこ」準備①　ねらいと計画・役割分担 （グループワーク）ルーブリック	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 就職ナビについて①(ねらいと意義）20分	5月10日	出・欠
6	「お店屋さんごっこ」準備②　企画書・景品および招待状の作成（グループワーク）	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 就職ナビについて②(参加と方法）20分	5月17日	出・欠
7	ハラスメント研修40分/絵本百冊読み冊子について		5月24日	出・欠
8	幼稚園児を招いての「お店屋さんごっこ」準備③　景品・看板等準備（グループワーク）		5月31日	出・欠
9	漢字基礎講座：保育現場でよく使う漢字 幼稚園児を招いての「お店屋さんごっこ」準備④　景品・看板等製作（グループワーク）		6月7日	出・欠
10	幼稚園児を招いての「お店屋さんごっこ」準備⑤ 景品・看板等製作と確認（グループワーク）		6月14日	出・欠
11	幼稚園児を招いての「お店屋さんごっこ」準備⑥ お店の全体像の確認（グループワーク）全体リハーサル		6月21日	出・欠
12	幼稚園児を招いての「お店屋さんごっこ」本番　園児とのふれあい（グループワーク）		6月28日	出・欠
13	「お店屋さんごっこ」の振り返り 漢字基礎講座：保育現場でよく使う漢字　　練習①	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 暑中見舞いの書き方20分	7月5日	出・欠
14	定期試験に向けて・マナー、ルール 漢字基礎講座：保育現場でよく使う漢字　　練習②	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 夏休みのインターンシップについて 進路希望調査① 20分	7月12日	出・欠
15	基礎ゼミナールの振り返り 反省と気づき		7月19日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・絵本の種類（年齢別、季節別など）を調べて読む【30分/週】 ・「保育現場でよく使う漢字150題」の練習【30分/週】 ・お店屋さん作品制作【30分/週】	レポート等課題提出物の提出状況40%、 授業や行事への積極的な参加および授業態度60% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 適宜指示していきます。
【 持参物 】「スリムファイル」
岩国短期大学学生部・キャリア支援センター『令和6年度キャンパスガイドブック』
キャリア支援センター『令和6年度就職の手引き』

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C11syh01	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	◎	○	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	社会人としての確かな人生観とマナーなどの基礎的な能力を身につけていく習慣をつけることができる。
到達目標(2)	絵本百冊読みを丁寧に行い、読書記録にまとめ、期日までに提出することができる。
到達目標(3)	「お店屋さんごっこ」の立案と、実行していく過程を通して、保育専門職への自覚を高めることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【社会人としての確かな人生観とマナーなどの基礎的な能力を身につけていく習慣をつけることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【絵本百冊読みを丁寧に行い、読書記録にまとめ、期日までに提出することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【「お店屋さんごっこ」の立案と、実行していく過程を通して、保育専門職への自覚を高めることができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
クリエイティブ・ムーブメントⅠ	朝倉 なぎさ

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目は、演劇的な手法を用いた表現教育（＝ドラマ教育）である。保育者に必要な創造性やコミュニケーション能力について体験的に学び、他者との関係を深める。具体的な授業内容は、手遊びやコミュニケーションゲームを中心としたウォーミングアップ、諸感覚や想像力に焦点をあてたワーク、「テーマ」を設定し、自分を見つめ表現につなげていくワーク、多様な視点を持つための振り返り等である。
・幼児の表現を受けとめ、育んでいくためには、保育者自らが自己を解放し、ありのままを表現できることが必要です。クラスの仲間と共感しあいながら積極的にかかわり、自らの表現の可能性を探ってみてください。
・課題についてのフィードバックについては、最終発表会後、講評を行うとともに、これまでの授業についての解説を行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	クリエイティブ・ムーブメントとは	月　日	出・欠
2	イメージング・エクササイズを中心に（1）－新聞紙を使って－	月　日	出・欠
3	イメージング・エクササイズを中心に（2）－ブラインド・ウォーク－	月　日	出・欠
4	イメージング・エクササイズを中心に（3）－コラージュ－	月　日	出・欠
5	イメージング・エクササイズを中心に（4）－記憶の風景－	月　日	出・欠
6	感情開発ワークを中心に（1）－伝承遊び－	月　日	出・欠
7	感情開発ワークを中心に（2）－言葉で気持ちを伝える①詩のワーク－	月　日	出・欠
8	感情開発ワークを中心に（3）－言葉で気持ちを伝える②本のワーク－	月　日	出・欠
9	感情開発ワークを中心に（4）－私の心の一冊－	月　日	出・欠
10	身体表現グループ発表に向けて（1）　起案	月　日	出・欠
11	身体表現グループ発表に向けて（2）　練習・構成	月　日	出・欠
12	身体表現グループ発表に向けて（3）　練習・動き	月　日	出・欠
13	身体表現グループ発表に向けて（4）　練習・小道具	月　日	出・欠
14	身体表現グループ発表に向けて（5）　演出と仕上げ	月　日	出・欠
15	発表会とまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、小テストなど）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、即興劇など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・子ども向けの劇やシアターの映像を観る【30分/週】 ・身体表現に関する書籍を読む【30分/週】	受講態度と課題提出30％、表現技能40％、 発表の完成度（発表後、解説30分）30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　小林由利子他『ドラマ教育入門』図書文化社　絹川友梨『インプロゲーム』晩成書房　その他、必要に応じて資料を配付する。
【持参物】　筆記用具。授業は動きやすい服装で行う（スカート不可）。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C11syh04	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	◎		◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	創造性、即興力を意識しながら、ワーク等に参加できる。
到達目標(2)	表現力のスキル(言葉、身体性、声、表情など)の向上に取り組むことができる。
到達目標(3)	コミュニケーションを意識しながら、他者と協力できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【創造性、即興力を意識しながら、ワーク等に参加できる。】	(A・B・C・D)
(2)【表現力のスキル(言葉、身体性、声、表情など)の向上に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【コミュニケーションを意識しながら、他者と協力できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
情報処理演習Ⅰ	竹野 博信

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・日本語文書処理ソフト(マイクロソフトワード)を使用して、情報機器の操作技能およびレイアウトなどの表現力を養い、保育現場で必要な文書作成能力を身につけていきます。また、ネットワーク社会における情報モラルやWebコミュニケーションのあり方等について、事例を取り上げながら理解を深めていきます。
・10分間に350字以上の文字入力ができることを目標とし、日ごろからタイピング練習をしておきましょう。
・課題については、適宜解説を行います。試験については試験終了後、解説を行います。方法は口頭またはオンライン等で行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

※実務教員による授業科目。担当者はIT関連企業の勤務経験があり、初級システムアドミニストレータほかコンピュータに関するさまざまな資格を取得しており、その経験と資格を生かして本授業を担当し,受講者は学習成果に掲げる「保育現場で求められる文書作成能力、情報モラル、Webコミュニケーションのあり方」について獲得・理解することができる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション(概要説明、教室ガイダンス、Windows概論)	月　日	出・欠
2	Microsoft Word概論(1)－画面構成、文節変換、ページ設定等の基本操作	月　日	出・欠
3	Microsoft Word概論(2)－編集機能①(基本的な文章作成・編集、表の作成等)	月　日	出・欠
4	Microsoft Word概論(3)－編集機能②(ページ罫線、ワードアート等の利用)	月　日	出・欠
5	Microsoft Word概論(4)－編集機能③(図形、画像、テキストボックス等の利用)	月　日	出・欠
6	保育現場で作成される文書の作成(1)－クラスだより①(学習した機能を使って)	月　日	出・欠
7	保育現場で作成される文書の作成(2)－クラスだより②(1ページに収めるテクニック)	月　日	出・欠
8	保育現場で作成される文書の作成(3)－給食だより	月　日	出・欠
9	保育現場で作成される文書の作成(4)－運動会プログラム	月　日	出・欠
10	保育現場で作成される文書の作成(5)－行事案内プリント	月　日	出・欠
11	情報モラルと個人情報－著作権とプライバシー権を中心に	月　日	出・欠
12	ネットワーク社会に潜む危険と対策－ウイルス対策を中心に	月　日	出・欠
13	Webコミュニケーションのあり方①－SNSを中心に	月　日	出・欠
14	Webコミュニケーションのあり方②－クラウドサービスを中心に	月　日	出・欠
15	保育に活かすICT活用－スクリーン投影方法等(グループワーク)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(演習)・協同学習(グループワーク)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・課題に取り組む。【40分/週】 ・雑誌、インターネット等で保育現場で作成されているクラスだよりなどを見つけて考察する。【20分/週】　　≪合計 1 時間/週≫	定期試験(試験60分・解説30分)60%、課題(提出後、解説10分)40%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】『30時間でマスター Office2019 (Windows10対応)』実教出版、『改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ』FOM出版
【参考文献】『保育者のためのパソコン講座』萌文書林
『情報処理テキスト～幼稚園・保育所の保育実践とメディアの活用～』みるめ書房
『情報リテラシー　入門編　Windows 10 / Office 2019対応』FOM出版
【持参物】　筆記用具、ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C11syh06	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎						

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育現場で扱う文書(クラスだより、行事プログラム、案内文等)の作成ができる。
到達目標(2)	情報モラル、情報セキュリティ(個人情報、プライバシー保護、著作権、セキュリティ対策等)について理解する。
到達目標(3)	Webコミュニケーションのあり方について理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育現場で扱う文書(クラスだより、行事プログラム、案内文等)の作成ができる。】	(A・B・C・D)
(2)【情報モラル、情報セキュリティ(個人情報、プライバシー保護、著作権、セキュリティ対策等)について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【Webコミュニケーションのあり方について理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
日本国憲法	河本 豊彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・授業は、ほぼテキストに沿って、15の章を1授業で1章ずつ順に進めていきます。各章の小見出し（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ…）に質問がありますが、それらの質問に自分の言葉で答えられるようになることを目指してみてください。
・授業では、テキストの内容説明だけでなく、具体的な事件や事例、裁判例にも触れたいと思います。理解を深めるためにも、テキストに目を通してから授業に臨んでください。予習の段階では、理解できないところがあって当然です。わからないところはおいておき、その章の最後まで目を通してみてください。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・定期試験については、試験終了直後に、正解や出題意図等の解説を行います。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	憲法の基礎－立憲主義	月　日	出・欠
2	選挙と参政権	月　日	出・欠
3	統治機構（1）－国会の役割	月　日	出・欠
4	統治機構（2）－行政権と議院内閣制	月　日	出・欠
5	統治機構（3）－司法権と裁判制度	月　日	出・欠
6	天皇制	月　日	出・欠
7	平和主義	月　日	出・欠
8	人権総論（1）－人権の理念・歴史・特質	月　日	出・欠
9	人権総論（2）－人権とは誰のものか，誰に対するものか	月　日	出・欠
10	精神的自由（1）－信教の自由と政教分離	月　日	出・欠
11	精神的自由（2）－表現の自由	月　日	出・欠
12	経済的自由	月　日	出・欠
13	人身の自由，社会権①	月　日	出・欠
14	社会権②	月　日	出・欠
15	幸福追求権と平等	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・問答法、コメントを求める

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習：テキストを読む。その際、各章の小見出し（Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ…）の質問を意識して読む【2時間/週】 ・復習：テキストの目次を見て、小見出しの質問に答えられるか確認し、テキストや講義内容を確認する【2時間/週】	定期試験（試験60分・解説30分）80％、受講態度20％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　駒村圭吾編『プレステップ憲法〈第3版〉』弘文堂
【参考文献】　イラストも楽しい異色の入門書として、木村草太『ほとんど憲法　小学生からの憲法入門』上・下　河出書房新社。テキストや授業より一歩深く学びたいときは、長谷部恭男『憲法講話　24の入門講義』有斐閣。どちらも本学図書館にあります。その他、池上彰『超訳　日本国憲法』新潮選書、池上彰『君たちの日本国憲法』集英社も読みやすい。高校時代の『現代社会』『政治・経済』の教科書・図表も有益。
【持参物】　テキスト

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	前期	卒幼保	C11syh08	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○		○	○		○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	憲法とは何のために、どんなことを定めているのかを理解する。
到達目標(2)	世の中の出来事について、憲法の観点から考えることができるようになる。
到達目標(3)	一人一人の人間、とりわけ子どもの幸せと権利について敏感になる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【憲法とは何のために、どんなことを定めているのかを理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【世の中の出来事について、憲法の観点から考えることができるようになる。】	(A・B・C・D)
(3)【一人一人の人間、とりわけ子どもの幸せと権利について敏感になる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育の英語Ⅰ	西村 久美子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・テキスト、補助教材等を通して日常英会話に必要な会話表現を身につけるとともに、保育園や幼稚園で必要となる語彙の強化を図る。また、多様な表現活動（朗読、ペアワーク、English Songs等）を通して、正しい発音の仕方を身につけ、コミュニケーションに必要な英語力を養うことを目指す。講義に集中することは基本であるが、「英語の勉強をしなければ」と構えるのではなく、英語に慣れるという姿勢で積極的に参加し、楽しもう。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・課題についてのフィードバックについては、別途指示します。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション / Pre-unit Please Speak More Slowly	月　日	出・欠
2	Unit1 Hi, I'm Yuri Tanaka	月　日	出・欠
3	Unit2 Where Is the Multi-purpose Room?	月　日	出・欠
4	Unit3 Good Morning. How Are You Today?	月　日	出・欠
5	Unit4 What color Do You Like?	月　日	出・欠
6	Unit5 There's a Ladybug on the Leaf	月　日	出・欠
7	Unit6 It's Time to Play Outside	月　日	出・欠
8	Movie English	月　日	出・欠
9	Unit7 She Is Allergic to Eggs / Reading Aloud①	月　日	出・欠
10	Unit8 You Should Go to the Bathroom / Reading Aloud②	月　日	出・欠
11	Unit9 We Made Masks Today / Reading Aloud③	月　日	出・欠
12	Reading Aloud Test	月　日	出・欠
13	Unit10 If It Rains, What Happens?	月　日	出・欠
14	Unit11 What Shall We Do Today?	月　日	出・欠
15	Review (Unit1-11)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（ペアワーク、グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
毎回講義で学んだ語彙を覚える【30分/週】 テキストの音読トレーニング【30分/週】 予習よりも復習を十分にすること。	朗読試験・筆記試験(試験60分・解説30分)　60% 課題・受講態度　40% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　『Happy　English for Childcare 保育のための基礎英語』金星堂
【参考文献】　Super Simple Songs Vol.2(DVD)、『保育英語の練習帳～単語＆フレーズを覚えよう！』萌文書林
【持参物】　辞書または電子辞書、筆記用具

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C11syh09	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	○	○	○	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	基本的な日常英会話表現を用いて、コミュニケーションをとることができる。
到達目標(2)	正しい英語の発音の仕方を身につけ、保育園・幼稚園等で必要な語彙を覚える。
到達目標(3)	課題の指示や期限等をきちんと守り、積極的な態度で講義に臨むことができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【基本的な日常英会話表現を使って、コミュニケーションをとることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【正しい英語の発音の仕方を身につけ、保育園・幼稚園等で必要な語彙を覚える。】	(A・B・C・D)
(3)【課題の指示や期限等をきちんと守り、積極的な態度で講義に臨むことができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
体育理論	水鶏口 陽一

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・生涯にわたって豊かなスポーツライフを送るためには、運動やスポーツについての幅広い知識を身に付けておくことが必要になる。しかし、現代の社会は、それに逆行し科学技術の飛躍的な発展などにより、生活が便利になり、体を動かす機会を減少させる状況である。
本講義では、身体運動と健康の関係を運動生理学やスポーツ科学から考え、生涯スポーツにおける身体運動と健康の関連において、健康寿命を延ばす手立てとして大切なことを学ぶ。また、幼児期において、遊びを中心とする身体運動を十分に行うことによる効果や期待に触れ、保育者としての身体運動の意味と意義を考えたい。
・安全面の配慮や怪我の対処の仕方、応急処置などの基本を身に付けることは、必ず覚えて実践していかなければならないので、授業中メモを取るなど心がけること。
・課題についてのフィードバックは提出後、試験内容のフィードバックは、試験終了後に解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てることがある。
※実務教員による授業科目。担当者は、元中学校保健体育教諭であり、その経験を生かして受講者は「他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる」を獲得することができる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、身体運動の意味と意義	月　日	出・欠
2	身体運動と健康①（健康と体力、高齢化社会の健康問題について）	月　日	出・欠
3	身体運動と健康②（地球環境・生命論理、発育と発達について）	月　日	出・欠
4	運動生理学①（筋・呼吸循環器について）	月　日	出・欠
5	運動生理学②（脳・神経について）	月　日	出・欠
6	スポーツ医学①（生活習慣病とスポーツ医学について）	月　日	出・欠
7	スポーツ医学②（肥満と食生活、運動と健康について）	月　日	出・欠
8	幼児を取り巻く社会の現状と課題	月　日	出・欠
9	幼児期における身体運動の意義	月　日	出・欠
10	幼児期の身体運動の在り方	月　日	出・欠
11	幼児の身体運動能力の測定①（測定内容とその意義）	月　日	出・欠
12	幼児の身体運動能力の測定②（実践と測定結果）	月　日	出・欠
13	救急法と怪我の応急処置	月　日	出・欠
14	安全面の配慮	月　日	出・欠
15	薬物乱用と学習内容についてのまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・実験、実技、実習 ・問答法、コメントを求める ・振り返り（振り返りシート）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・一週間に3日以上(一日1時間以上)の運動をするよう心がける【4時間/週】 ・健康的な生活習慣や運動習慣を身に付ける【日々を通して】	受講態度20%、課題20% 定期試験(試験60分・解説30分)60% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 必要に応じて、資料配付または資料を紹介する。
【参考文献】東京大学身体運動科学研究室編『教養としての身体運動』東京大学出版会
幼児期運動指針策定委員会『幼児期運動指針』文部科学省

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	講義	1年次	前期	卒幼保	C11syh11	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○	○	◎	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	生涯スポーツにおける身体運動と健康について理解することができる。
到達目標(2)	幼児期の身体運動の効果や期待について理解することができる。
到達目標(3)	救急法や怪我の対処法の知識を身に付ける。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【生涯スポーツにおける身体運動と健康について理解することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【幼児期の身体運動の効果や期待について理解することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【救急法や怪我の対処法の知識を身に付ける。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
体育実技	西本 裕子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業の概要】
・健康の保持増進及び疾病予防における運動の必要性を教授し、自己管理ができる基礎能力を養う。
・保育者としての体力維持と共に運動を通して、コミュニケーション力やマナーや礼儀に心配りができる能力を養う。
・進んでリーダーになりみんなの意見を聞き、練習を積極的に行っていることや協調性なども評価に入れる。
【注意事項】
・装飾品（ピアス・ネックレス・金属の髪留め）は身につけない。
・長い髪は後ろで束ねる。爪を伸ばさない。
【フィードバック】
・各運動種目で確認テストを実施する。また、ルーブリックを用いて自己評価をする。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション・保育者としての体力の重要性・ラジオ体操　（ルーブリック作成）	月　日	出・欠
2	体つくり運動（リズムトレーニング）・リズムダンス　（グループワーク）	月　日	出・欠
3	体力テスト	月　日	出・欠
4	縄跳び運動　（確認テスト）	月　日	出・欠
5	リズムダンス発表	月　日	出・欠
6	ソフトバレーボール（基礎練習試合）	月　日	出・欠
7	ソフトバレーボール（試合）　（ルーブリック）	月　日	出・欠
8	器械体操（マット）　（確認テスト）	月　日	出・欠
9	器械体操（マット・鉄棒）　（確認テスト）	月　日	出・欠
10	バドミントン（練習）	月　日	出・欠
11	バドミントン（試合）　（ルーブリック）	月　日	出・欠
12	創作ダンス（振付の考案）　（グループワーク）	月　日	出・欠
13	創作ダンス（練習）　（グループワーク）	月　日	出・欠
14	創作ダンス（隊形移動の考案）　（グループワーク）	月　日	出・欠
15	創作ダンス（発表）　（グループワーク）（ルーブリック）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・創作ダンスを考え練習する【2時間】 ・ストレッチなど自分の体を動かす【30分/週】 ・Google Classroomの参考ビデオで予習をしておく【30分/週】	定期試験60％、確認テスト20％、受講態度20％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 必要時にプリントを配付する。
【持参物】 体操服（シャツ・パンツ）、体育館シューズを各自準備する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	実技	1年次	前期	卒幼保	C11syh12	レクリエーションインストラクター資格（必修）

学習成果（4つの資質・能力）との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)（②保育現場で活かす実践力が身についている）「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)（④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)（⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている)）「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる）「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
○	○	○	◎	◎	◎		

到達目標（この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度）	
到達目標(1)	保育者として、必要な体力と礼儀を身につける。
到達目標(2)	意欲的な態度で取り組み、周囲を元気にさせる雰囲気が作り出せる。
到達目標(3)	スポーツや運動を通して、協調性を身につけることができる。

学習記録　（授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標（この授業を通して獲得した知識・技能・態度）についての自己評価

(1)【保育者として、必要な体力と礼儀を身につける。】　(A・B・C・D)

(2)【意欲的な態度で取り組み、周囲を元気にさせる雰囲気が作り出せる。】　(A・B・C・D)

(3)【スポーツや運動を通して、協調性を身につけることができる。】　(A・B・C・D)

A：よくできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
特別活動Ⅰ	西本裕子・水鶏口陽一・井上美佳・鷲﨑公彦（講師：浜桐陽子）

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業概要】
・さまざまな行事や取り組みを通じて、協働実践力をはかる。
・どんなことにも責任を持って行う。社会人としてのマナーを身につける。
・地域社会と関わりを持つことにより、将来の職業人としての資質を高める。
【注意事項】
・体調管理に留意し、欠席のないように心がける。
【フィードバック】
・各行事や取り組みの終了後に振り返りを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	新入生研修会への参加①（学長講話・建学の精神・学生生活について）	4月13日	出・欠
2	新入生研修会への参加②（保育者になるための基礎・クラス懇談会）	4月13日	出・欠
3	新入生研修会への参加③（AFPY講習会・グループワーク（つながる）-1）	4月13日	出・欠
4	新入生研修会への参加④（AFPY講習会・グループワーク（深める）-2）	4月13日	出・欠
5	第1回1・2年合同集会への参加	4月19日	出・欠
6	避難訓練への参加	5月14日	出・欠
7	就職ナビへの参加（就職先を知る）	5月18日	出・欠
8	学生交流会①（競技参加）	5月25日	出・欠
9	学生交流会②（レクリエーション参加）	5月25日	出・欠
10	第2回1・2年合同集会への参加	6月21日	出・欠
11	第1回保育者対象研修会への参加	7月26日	出・欠
12	クリーンプロジェクトへの参加	9月27日	出・欠
13	第3回1・2年合同集会への参加	10月4日	出・欠
14	第4回1・2年合同集会への参加	11月16日	出・欠
15	大学祭への参加①前日祭（クラス発表）	11月16日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（グループワーク）・発表

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・幼児教育に関連する情報誌から新しい情報を得る【30分/週】 ・ボランティア活動への情報収集【30分/週】	活動状況50％、参加態度50％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【 持参物 】　適宜指示します。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	実習	1年次	前・後期	卒幼保	C11syh14	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
○	◎	○	◎	◎	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	それぞれの行事に参加することで、グループメンバーとの協調性を身につけることができる。
到達目標(2)	研究発表会・研修会に参加し、教養を高める。
到達目標(3)	それぞれの行事で、計画・実行・振り返りができる。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

次のページに記入すること

授業科目名	担当者
特別活動Ⅰ	西本裕子・水鶏口陽一・井上美佳・鷲﨑公彦（講師：浜桐陽子）

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業概要】
・さまざまな行事や特色的な取り組みを通じて、協働実践力の醸成を図。
・1・2年生合同集会を通して、全学生が協力し、活気ある短大をめざすという校風を作るとともに、連帯感を高め、集団（職業人）の一人であることを自覚し、どんなことにも責任を持って事に当たる社会人としてのマナーを身につける。
・学校行事では、協調性や実践力の向上を図るとともに、地域社会と関わりを持つことにより、将来の職業人としての資質を高める。
【注意事項】
・学校行事や地域での行事に自ら積極的に参加し、様々な知見を広げ、人と人との関わりを深めること。
・欠席をしないこと
【フィードバック】
・各行事や取り組みの終了後に振り返りを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
16	大学祭への参加②前日祭（キッズルーム設営）	11月16日	出・欠
17	大学祭への参加①当日祭（キッズルーム運営）	11月17日	出・欠
18	大学祭への参加②当日祭（来場者と関わる）	11月17日	出・欠
19	大学祭への参加③当日祭（大学祭を楽しむ）	11月17日	出・欠
20	大学祭への参加④当日祭（後片付けと振り返り）	11月17日	出・欠
21	異文化交流	月　日	出・欠
22	ウィンターコンサートへの参加	12月20日	出・欠
23	保育・教職実践演習(幼稚園)研究発表会への参加	月　日	出・欠
24	第2回保育者対象研修会への参加	1月25日	出・欠
25	Iwatan 親子フェスタへの参加　①前日準備（什器、ブース部材搬入）	3月8日	出・欠
26	Iwatan 親子フェスタへの参加　②前日準備（ブース設置と確認）	3月8日	出・欠
27	Iwatan 親子フェスタへの参加　③前日準備（全体リハーサル）	3月8日	出・欠
28	Iwatan 親子フェスタへの参加　①当日参加（ブース点検と来場者お出迎え）	3月9日	出・欠
29	Iwatan 親子フェスタへの参加　②当日参加（来場者と関わる）	3月9日	出・欠
30	Iwatan 親子フェスタへの参加　③後片付け（ブース解体・什器の搬出、現状復帰）と振り返り	3月9日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（グループワーク）・発表

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・幼児教育に関連する情報誌から新しい情報を得る【30分/週】 ・ボランティア活動への情報収集【30分/週】	活動状況50％、参加態度50％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【 持参物 】　適宜指示します。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	実習	1年次	前・後期	卒幼保	C11syh14	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	○	◎	◎	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	それぞれの行事に参加することで、グループメンバーとの協調性を身につけることができる。
到達目標(2)	研究発表会・研修会に参加し、教養を高める。
到達目標(3)	それぞれの行事で、計画・実行・振り返りができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【それぞれの行事に参加することで、グループメンバーとの協調性を身につけることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【 研究発表会・研修会に参加し、教養を高める。】	(A・B・C・D)
(3)【それぞれの行事で、計画・実行・振り返りができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
日本文化の理解	宮下 小百合

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・ひとことで日本文化といっても、時代・ジャンル共に幅広いものがあります。春夏秋冬の四季に恵まれた日本では、古来から人々は「自然に寄り添ってその恵みをいただく」という考え方で暮らしてきました。そうした素朴な自然信仰といえるものから、それぞれの節目に恵みに感謝し、幸せを祈る気持ちが生まれ、それを形にしたのが年中の行事です。「伝統行事」や「しきたり」というと、ちょっと堅苦しいイメージがありますが、保育の現場では、折に触れ、様々な伝統行事を行っています。
・本授業では、日本の伝統的な行事について、その謂われや内容について学ぶことで、日本の文化・伝統に興味を持ち、理解するきっかけになってもらいたいと考えています。また、日本文化の中でも「華道」や「伝承遊び」に焦点を当てて、グループ学習を行い理解を深めていきます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業後の振り返りやレポート提出、学生の予習、復習に役立てます。
・発表・課題、小テストについてのフィードバックは、課題提出後、発表後、小テスト後に解説を行います。

		実施日	出欠
1	日本文化について	月　日	出・欠
2	日本文化の概要①　季節のめぐりと暦	月　日	出・欠
3	日本文化の概要②　和暦と十二支	月　日	出・欠
4	子どもたちに伝えたい文化・伝統行事①　テーマ決め・情報収集	月　日	出・欠
5	子どもたちに伝えたい文化・伝統行事②　資料作成	月　日	出・欠
6	子どもたちに伝えたい文化・伝統行事③　発表	月　日	出・欠
7	日本文化にふれる①　和食の文化　一汁三菜	月　日	出・欠
8	日本文化にふれる②　華道の歴史	月　日	出・欠
9	日本文化にふれる③　華道体験　花を生けてみよう	月　日	出・欠
10	日本文化にふれる④　華道体験　生け花の鑑賞	月　日	出・欠
11	伝承遊びについて①　資料要約・情報収集	月　日	出・欠
12	伝承遊びについて②　かるたの製作　計画・準備	月　日	出・欠
13	伝承遊びについて③　かるたの製作	月　日	出・欠
14	伝承遊びについて④　かるたで遊ぼう	月　日	出・欠
15	まとめ　日本文化と行事について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（小テスト、レポート）、問答法、コメントを求める、協同学習（グループワークなど）、発表（プレゼンテーションなど）

実技（華道、伝承遊び）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・日本の伝統文化についての文献を読む【90/週】 ・授業後ノートをまとめ復習する【90分/週】 ・授業後Google Classroomへ投稿する【60分/週】	授業での発表・課題提出　50％（解説各10分）、 小テスト30％、　受講態度（積極的な取り組み）20％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　橋本裕之監修『心をそだてる　子ども歳時記12ヶ月』講談社
広田千悦子監修『12ヶ月の親子で楽しむ和の行事』日東書院
三浦康子著『子どもに伝えたい春・夏・秋・冬　和の行事を楽しむ本』永岡書店
【持参物】　・A4ファイル　　・生け花材料費：1000円程度

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	前期	卒幼保(選)	C11syh16	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	○		○	◎	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	日本の文化について興味をもち、調べることができる。
到達目標(2)	日本の四季と伝統行事を関連づけて考えることができる。
到達目標(3)	「日本」や「文化」についての認識をもつことができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【日本の文化について興味をもち、調べることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【日本の四季と伝統行事を関連づけて考えることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【「日本」や「文化」についての認識をもつことができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
音楽作品研究	川畑 由紀子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・私たちの身のまわりは音楽があふれている。本授業では音楽作品について、様式、特徴を理解し、どのように表現に結び付くかを学ぶ。
・様々な作品の背景や歴史、作曲家について学び、音楽の知識を身につける。作曲家の意図や解釈なども探る。
・音や音楽の良さに触れ、教育現場でどのように使うかを研究し、音楽活動に結びつけることができるようになることを目指す。作品についての考えを自分の言葉で表現できるようにする。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
・課題についてのフィードバックは、提出後に解説を行います。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション　音楽史の基本　現代の楽譜ができるまで	月　日	出・欠
2	バロック時代までの音楽①　J.S.バッハとその他の作曲家	月　日	出・欠
3	バロック時代までの音楽②　バロック音楽の特徴	月　日	出・欠
4	古典派について①　日本の音楽との関わり	月　日	出・欠
5	古典派について②　交響曲を聴く	月　日	出・欠
6	古典派について③　形を変える音楽	月　日	出・欠
7	歌と音楽①　いろいろな国の音楽を聴く	月　日	出・欠
8	歌と音楽②　歌劇の歴史	月　日	出・欠
9	ロマン派の音楽①　西洋と日本	月　日	出・欠
10	ロマン派の音楽②　感情の表現	月　日	出・欠
11	ロマン派の音楽③　歴史的な背景	月　日	出・欠
12	近代の音楽①　印象派とは	月　日	出・欠
13	近代の音楽②　フランスとロシア	月　日	出・欠
14	現代の音楽の形　様々なジャンルから	月　日	出・欠
15	作曲家・演奏家　まとめ、振り返り	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（レポート、小テスト）、協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・授業後にレポートを作成する【4時間/週】	受講態度30%、課題・レポート提出（提出後解説10分）40%、小テスト30% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　必要に応じて資料を配付する。
【持参物】　筆記用具

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	前期	卒幼保(選)	C11syh24	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	◎		○	○	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	音楽作品の様式や特徴を把握し、説明することができる。
到達目標(2)	音楽と社会、文化の関係性について考えることができる。
到達目標(3)	レポート作成を通して、作曲家・楽曲への興味や理解を深める。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【音楽作品の様式や特徴を把握し、説明することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【音楽と社会、文化の関係性について考えることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【レポート作成を通して、作曲家・楽曲への興味や理解を深める。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子どもに教える科学実験	水鶏口 陽一

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・主に、物理学、化学的実験を、身近な物を使って製作した物で実施し、そのメカニズムを考える。
・興味・関心を高め、大人から子どもまで参加でき、楽しめ、感動する内容を考える。
・物づくりに挑戦し、つくりあげる体験を積むことにより、物づくりの楽しさを実感する。
・最近、子どもたちの理科離れが指摘されている。それは、子どもの驚きや発見を演出する科学実験を体験していないことに起因している。それを解消するためには、周囲の大人がその面白さを体験し、伝えていくことが必要である。そのきっかけになる実験を体験し、子どもに提示することができるようにする。
・課題、作品についてのフィードバックは提出後、試験内容のフィードバックは、試験終了後に解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション 人間生活と科学の進歩について考える	月　日	出・欠
2	空気の特性について 【ペットボトルや段ボールを使った空気砲を製作】	月　日	出・欠
3	揚力について 【ペットボトルの飛行体やヒモコン飛行機を製作】	月　日	出・欠
4	慣性力について 【コインサーカスやバルーンアートを製作】	月　日	出・欠
5	慣性の法則について 【太陽の熱を利用した熱気球を製作】	月　日	出・欠
6	気流について①大気大循環について 【太陽の熱を利用して熱気球を飛ばす】	月　日	出・欠
7	気流について②コリオリ力について 【スライム作りの製作と実験】	月　日	出・欠
8	気流について③最新家電の仕組みについて 【身近なものでフリスビーを製作】	月　日	出・欠
9	気流について④吹き玉の仕組みについて 【気流を使った風船遊びの製作と実験】	月　日	出・欠
10	表面張力について 【大きなシャボン玉づくりに挑戦】	月　日	出・欠
11	防災について 【マッチの使い方　さまざまな火おこしに挑戦】	月　日	出・欠
12	浮力について 【浮沈子の製作】	月　日	出・欠
13	伝承遊びについて 【身近な物を使った鉄砲を製作】	月　日	出・欠
14	物質の状態変化について 【状態変化を利用した製作と実験】	月　日	出・欠
15	音の仕組みについて　【糸電話や缶笛の製作と実験】 学習内容についてのまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・実験、実技、実習・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート、リアクションペーパーなど）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、ポスターセッション、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
昔からの遊びや子供のおもちゃに興味を持ち、実際に遊び、その仕組みについて考える機会を多く持つ。【4時間/週】	受講態度20％、課題・作品20％ 定期試験(試験60分・解説30分)60％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　米村でんじろう『おもしろ実験』講談社
米村でんじろう『うちでもこんな実験ができるんだ！！』主婦と生活社
今野道裕『作ってあそべる製作ずかん』学研
【持参物】　指示された工作材料

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	前期	卒幼保(選)	C11syh21	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎		◎	○	◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	実験をするための準備が、計画を立てて安全に進行する。
到達目標(2)	製作した物で、楽しく遊ぶ工夫を考えることができる。
到達目標(3)	物理的あるいは化学的な変化の原理が理解できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【実験をするための準備が、計画を立てて安全に進行する。】	(A・B・C・D)
(2)【製作した物で、楽しく遊ぶ工夫を考えることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【物理的あるいは化学的な変化の原理が理解できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
声楽	赤川 優子

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・リズム、拍子、旋律、ハーモニー等から形成される音楽はその組み合わせにより、世界中に多種多様な音楽文化を生み出してきた。音楽の美しさや面白さ、色彩などを感受することは人間の感性や創造性を豊かに育む。また、歌う・楽器を演奏する・音楽に合わせて踊るなど、表現することは自己の内面と深い繋がりがあり、喜びや悲しみ、不安、怒りなどの感情を言葉や行動で表したりコントロールする能力や、相手の気持ちをくみ取るなどの想像力を育て、人との関係性を柔軟にする力となることは脳科学等、様々な分野で研究、証明されてきた。幼児教育における音楽の重要性がますます高くなる中で、子どもが初めての音楽に触れる瞬間、この魅力をどれだけ伝えられるかは、教師自身の知識、技術、感性に委ねられるといっても過言ではない。
本授業では、発声のしくみと声楽について学び、歌唱技能の向上を目指すと共に、世界で愛される様々な歌の世界を通じて、歌うことの楽しさを感じ取り、豊かな表現力を身につけることを目標とする。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション　発声のしくみと歌唱法	月　日	出・欠
2	歌唱表現技術①～言葉を伝える～	月　日	出・欠
3	歌唱表現技術②～様々なリズムの種類とその特徴～	月　日	出・欠
4	歌唱表現技術③～身体を使って歌う～	月　日	出・欠
5	童謡・唱歌・日本歌曲～美しい日本語で歌おう～①発声と譜読み	月　日	出・欠
6	童謡・唱歌・日本歌曲～美しい日本語で歌おう～②表現を深める	月　日	出・欠
7	歌唱実技テスト①（童謡・唱歌・日本歌曲より）	月　日	出・欠
8	世界の歌曲（カンツォーネ、イタリア古典歌曲、リート、シャンソン）①原語で歌おう　発声と譜読み	月　日	出・欠
9	世界の歌曲（カンツォーネ、イタリア古典歌曲、リート、シャンソン）②原語で歌おう　言葉の意味	月　日	出・欠
10	世界の歌曲（カンツォーネ、イタリア古典歌曲、リート、シャンソン）③原語で歌おう　表現を深める	月　日	出・欠
11	歌のアンサンブル「合唱」について～ハーモニーを楽しもう～①発声と譜読み、パート別音取り	月　日	出・欠
12	歌のアンサンブル「合唱」について～ハーモニーを楽しもう～②ハーモニーの響きを楽しみながら歌う	月　日	出・欠
13	オペラアリア、ミュージカルソング～役になりきって歌おう～①発声と譜読み　原語の意味	月　日	出・欠
14	オペラアリア、ミュージカルソング～役になりきって歌おう～②表現を深める	月　日	出・欠
15	歌唱実技テスト②（カンツォーネ、イタリア古典歌曲、リート、シャンソン、オペラアリア、ミュージカルソングより）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（ペアワーク、グループワーク）・発表（歌唱表現）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
授業で習った曲の復習【4時間/週】	実技テスト・・・60％（①30％、②30％） 授業態度　40％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト・参考文献】『保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト』カワイ出版
『幼児のための音楽教育』教育芸術社
その他、適宜資料を配付。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	前期	卒幼保(選)	C11syh25	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	○	◎	○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	歌唱の基本を理解し、歌唱表現することができる。
到達目標(2)	楽典を理解し、楽譜を読み解き表現することができる。
到達目標(3)	演技の基本を学び、自ら表現することができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【歌唱の基本を理解し、歌唱表現することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【楽典を理解し、楽譜を読み解き表現することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【演技の基本を学び、自ら表現することができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
フリーアート	鷲﨑 公彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目では「ステンドグラスと秘密の家」をテーマに、カラーセロファンと段ボールを用いた造形活動を行う。
・ステンドグラス等の工作をもとにえがく・つくるの楽しさや面白さを再発見し、童心と遊び心を呼び起こす。また、造形表現に関する知識と技能、創造力などを養い、保育に活かせる能力を育むことをねらいとする。
・フィードバックの方法については授業の各回で解説を加え、活動の節目ごとに発表、振り返りカードの提出と添削などを行う。学内展示による相互鑑賞にも取り組む。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	教材研究1【カッターナイフの使い方】	月　日	出・欠
3	教材研究2【画用紙を用いた秘密の家（模型作り）】	月　日	出・欠
4	教材研究3【カラーセロファンを用いたステンドグラス（模型作り）】	月　日	出・欠
5	制作活動1【段ボールを用いた秘密の家①（長辺の外壁）】	月　日	出・欠
6	制作活動1【段ボールを用いた秘密の家②（短辺の外壁）】	月　日	出・欠
7	制作活動1【段ボールを用いた秘密の家③（屋根）】	月　日	出・欠
8	制作活動1【段ボールを用いた秘密の家④（組み立て）】	月　日	出・欠
9	制作活動2【カラーセロファンを用いたステンドグラス①（下描き）】	月　日	出・欠
10	制作活動2【カラーセロファンを用いたステンドグラス②（切り抜き）】	月　日	出・欠
11	制作活動2【カラーセロファンを用いたステンドグラス③（貼り付け）】	月　日	出・欠
12	制作活動3【秘密の家の着彩①（外壁）】	月　日	出・欠
13	制作活動3【秘密の家の着彩②（内装）】	月　日	出・欠
14	制作活動3【秘密の家の着彩③（屋根）】	月　日	出・欠
15	発表、まとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習）、振り返り（振り返りシート、リアクションペーパー）、協同学習（グループワーク）、発表（プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として次回授業の事前学習・事前準備を行う。【2時間/週】 ・復習としてスケッチブック整理と制作活動の補填を行う。【2時間/週】	平常点（学習態度20%、振り返りカード20%）、成果物（スケッチブック30%、作品30%）（提出後、解説10分）、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】【参考文献】 授業内で必要に応じて資料プリントを適宜配付する。
【持参物】 授業内で必要に応じて準備物を適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	前期	卒幼保(選)	C11syh26	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	ステンドグラス等の工作に関する基礎的な知識と技能を身につけ、制作活動に取り組むことができる。
到達目標(2)	ステンドグラス等の工作を通して造形表現の喜びを感じ取り、感性やコミュニケーション力を豊かに高めることができる。
到達目標(3)	スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【ステンドグラス等の工作に関する基礎的な知識と技能を身につけ、制作活動に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【ステンドグラス等の工作を通して造形表現の喜びを感じ取り、感性やコミュニケーション力を豊かに高めることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
現代のマナー	小枝 加代子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・社会人として必要とされる基本的なビジネスマナーを習得します。
・卒業後に関わるいろいろな人との対応ができるように実践力を身に付けることを目指します。
・新聞発表やプレゼンテーションを通して人前で話す経験を重ね、話し方・伝え方のレベルアップを図ります。
・学んだことを積極的に日常生活で活かしていくことを望みます。（特に話し方、立ち居振る舞い）
・発表についての振り返り、フィードバック、指導については、各自に行います。筆記試験終了後解答の解説を行います。試験答案の返却については、授業の中で指示します。
・課題についてのフィードバックについては、レポート・課題提出後各自に行います。
・オフィス・アワーとして、授業の前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
＊実務教員による授業科目。担当者はビジネスマナー・サービスマナー・キャリア開発等を主業務とする人材育成の会社の代表であり、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「社会人として求められるコミュニケーション能力や基本的な礼儀作法」を獲得することができる。

		実施日	出欠
1	オリエンテーション・立ち居振る舞い（あいさつ・立ち姿・お辞儀等）実技演習	月　日	出・欠
2	ビジネスマナーの基本	月　日	出・欠
3	組織内でのマナーとルール	月　日	出・欠
4	電話応対のマナー①（電話応対の基本、電話の受け方・かけ方：ロールプレイング）	月　日	出・欠
5	電話応対のマナー②（電話の取次ぎ方、伝言の受け方、携帯電話等のマナー：ロールプレイング）	月　日	出・欠
6	来客応対のマナー①（来客応対の基本：受付～お見送りまで：ロールプレイング）	月　日	出・欠
7	来客応対のマナー②（面会予約、名刺交換、茶菓接待のマナー：グループワーク）	月　日	出・欠
8	話し方①（言葉遣い、敬語）	月　日	出・欠
9	話し方②（接客用語：ロールプレイング）	月　日	出・欠
10	プレゼンテーション（企画、準備、進行、後片付け・・・立ち居振る舞い、話し方の実践）	月　日	出・欠
11	交際のマナー①（慶事のマナー）	月　日	出・欠
12	交際のマナー②（弔事のマナー）	月　日	出・欠
13	交際のマナー③（贈答のマナー、食事のマナー）	月　日	出・欠
14	ビジネス文書の基本①（社内・社外文書）	月　日	出・欠
15	ビジネス文書の基本②（社交文書）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習）・問答法・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）
・シミュレーション型学習（ロールプレイング）、発表（スピーチ・プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・新聞でスピーチ等の情報収集を行う 【2時間/週】 ・スピーチ等の原稿作成、練習 【2時間/週】《合計4時間/週》	定期試験（試験60分、解説30分）50% 課題・プレゼンテーション・ロールプレイング（各自に指導）30% 受講態度20% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】『ビジネスマナー基本テキスト』（日本能率協会マネジメントセンター）
その他、必要に応じてプリント配付。
【持参物】 授業中に連絡する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	前期	卒幼保(選)	C11syh08	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	◎	○	○	◎	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	ビジネスマナーの基本が理解できる。
到達目標(2)	感じのよいあいさつができる。
到達目標(3)	人前での話し方が身につく。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【ビジネスマナーの基本が理解できる。】	(A・B・C・D)
(2)【感じのよいあいさつができる。】	(A・B・C・D)
(3)【人前での話し方が身につく。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
社会的養護Ⅰ	上栗 明男

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・社会的養護の対象となる児童に対しての「かわいそうな子」というイメージを払しょくする。そして課題を持つ親や家族を理解し、子どもの心を癒し、さらに積極的に人格形成を行っていくための姿勢や感覚を醸成する。
・評価は主にレポートで行うが、その評価ポイントを事前に説明しておく。
・オフィス・アワーとして授業後に質問を受け付けるが、ない場合は担当者から質問する場合がある。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがある。

※実務教員による授業科目。児童養護施設47年間の実務経験があり、現在は児童心理治療施設の施設長をしている。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	社会的養護とは何か・入所施設児童からの訴え（作文集『続・泣くものか』）	月　日	出・欠
2	映画「石井のお父さんありがとう」前編（石井十次の実践）	月　日	出・欠
3	映画「石井のお父さんありがとう」後編（石井十次の実践評価）	月　日	出・欠
4	我が国の施設養護の歴史～近代児童福祉の礎を築いた人々と現在の制度～	月　日	出・欠
5	子ども虐待の増加とその背景	月　日	出・欠
6	社会的養護の対象児童と児童福祉施設	月　日	出・欠
7	社会的養護の基本原理①（個別化・エンパワメント・社会復帰）	月　日	出・欠
8	社会的養護の基本原理②（自立支援・施設の社会化）	月　日	出・欠
9	子ども集団の治療的・教育的活用	月　日	出・欠
10	家庭養護（里親制度）と家庭的養護（小規模化）	月　日	出・欠
11	施設養護の機能と指導内容①（基本的生活習慣）	月　日	出・欠
12	施設養護の機能と指導内容②（躾・マナー・一般常識）	月　日	出・欠
13	望ましい保育者像①（資質）	月　日	出・欠
14	望ましい保育者像②（チームワーク）	月　日	出・欠
15	まとめとフィードバック	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・問答法、コメントを求める・発表（感想、意見）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・「子ども虐待事案」「児童福祉制度の改正」等のニュースに関心を持っておくこと。【4時間/週】	レポート（事前に設題し評価ポイントを説明する）90％・授業への参加状況10％・合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 櫻井慶一編著『社会的養護Ⅰ』北大路書房
【参考文献】 参考資料を配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	前期	保	C12h03	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○			○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	社会的養護の対象児童に対する正しい認識と理解をする。
到達目標(2)	施設養護の積極的意義を認識する。
到達目標(3)	保育者は「人間性」を介して児童とかかわっていることを理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【社会的養護の対象児童に対する正しい認識と理解をする。】	(A・B・C・D)
(2)【施設養護の積極的意義を認識する。】	(A・B・C・D)
(3)【保育者は『人間性』を介して児童とかかわっていることを理解する。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
社会福祉	正長 清志

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・日本の社会福祉制度は社会福祉基礎構造改革にみられるように、多くの社会福祉サービスの利用のしくみが、行政が管理してきた措置制度から、利用者がサービス提供事業者を自ら選択し、そのサービス内容に応じて契約したサービスを利用するしくみへと転換した。そこには費用負担にともなう、提供されるサービスの質の保証、利用者の権利擁護、さらに成年後見制度のすすめ方などの課題が存在している。そこで、これまでの社会福祉のパターナリズムに基づくサービス提供のあり方を考察することで、利用者本位のサービス提供が地域社会との連携による新たなシステムの創造と、自助努力だけでは解決が困難なリスクへ備えるセーフティネットが現在の福祉施策が応えているのかを吟味していく。
・履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返り、提出に備えてください。
・課題についてのフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。
・オフィス・アワーとして、授業後に質問を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	社会福祉の概念と意義－慈善事業から今日へ受け継がれているものに気づく－	月　日	出・欠
2	社会福祉従事者が専門職としての倫理観を理解する。（保育士資格が生かせる分野の展望）	月　日	出・欠
3	日本の社会保障制度－所得保障・医療保障を公的扶助制度を中心に考察する－	月　日	出・欠
4	高齢者の医療・保健・福祉－介護保険制度を中心に理解する－	月　日	出・欠
5	児童福祉と父子・母子及び寡婦福祉の関連について－社会的養護を中心に考察する－	月　日	出・欠
6	身体障害者福祉と知的障害者福祉－新たな施策の現状について－	月　日	出・欠
7	欧米の社会福祉の歴史的展開①イギリス・ドイツ・アメリカ合衆国を中心に	月　日	出・欠
8	欧米の社会福祉の歴史的展開②スウェーデン・デンマークを中心に	月　日	出・欠
9	日本の社会福祉の歴史的展開①古代から近世まで	月　日	出・欠
10	日本の社会福祉の歴史的展開②明治以降から現代まで	月　日	出・欠
11	社会福祉施設の運営管理とその組織および自治体との連携に注目する	月　日	出・欠
12	日本の社会福祉の動向①現在の社会保障政策を中心に生活課題を焦点に考察する	月　日	出・欠
13	日本の社会福祉の動向②子ども・子育て支援新制度を中心に幼児教育の無償化を考察する	月　日	出・欠
14	アジア諸国の社会福祉の動向と日本の社会的役割	月　日	出・欠
15	講義のふり返り　課題レポートの作成とプレゼンテーションの実施	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（レポートなど）・協同学習（グループワーク）・発表（プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
①次回の単元に向けて課題を提示するので、必ず考察して本授業で各自の見解が述べられるように臨むこと。　予習【2時間/週】 ②社会福祉制度の用語を忘れないようにする。　復習【2時間/週】	①定期試験（試験60分・講評30分）80％ ②課題レポートの提出10％ ③講義への積極的な参加状況10％　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　西村昇・日開野博・山下正國編（2024）『七訂版 社会福祉概論-その基礎学習のために-』中央法規出版2,600円
その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付していく。
【持参物】　記録ファイル

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	前期	保	C12h11	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	○		○			○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	社会保障および社会福祉関連制度の成立過程について、各自の見解を他の学生の発言から考察する。
到達目標(2)	社会福祉サービスにおける公的な役割と、私的な役割について理解する。
到達目標(3)	医療・保健分野の専門職とのコンサルテーションの興味を深め、併せて社会福祉専門職としての倫理観を理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【 社会保障および社会福祉関連制度の成立過程について、各自の見解と他の学生の発言から考察する。】	(A・B・C・D)
(2)【 社会福祉サービスにおける公的な役割と、私的な役割について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【 医療・保健分野の専門職とのコンサルテーションの興味を深め、併せて社会福祉専門職としての倫理観を理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
児童文化Ⅰ	朝倉 なぎさ

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育における「児童文化」の意義について理解する。幼児の豊かな感性と表現力を育むための「児童文化財」をいくつか取り上げ、製作を通して保育技術を修得する。また、演習を通して表現者としての素養を身につける。
・児童文化財には多様のものがありますが、前期では特に「遊び・おもちゃ・絵本」を取り上げます。製作の際は私語をせず集中して取り組みましょう。
・課題についてのフィードバックについては、小テスト後、振り返りを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	児童文化の世界を知ろう(1)－ことばと表現力を育む－	月　日	出・欠
2	児童文化の世界を知ろう(2)－近代的子ども観と児童文化－	月　日	出・欠
3	児童文化の歴史	月　日	出・欠
4	幼児の発達とおもちゃ	月　日	出・欠
5	おもちゃ作り(1)　デザイン・構成	月　日	出・欠
6	おもちゃ作り(2)　下地の作成	月　日	出・欠
7	おもちゃ作り(3)　人形部分の作成	月　日	出・欠
8	おもちゃ作り(4)　キューブの作成と貼り付け	月　日	出・欠
9	おもちゃ作り(5)　発表と振り返り	月　日	出・欠
10	児童文化財としての絵本	月　日	出・欠
11	オリジナル絵本作り(1)　下書き	月　日	出・欠
12	オリジナル絵本作り(2)　彩色	月　日	出・欠
13	オリジナル絵本作り(3)　彩色仕上げ	月　日	出・欠
14	オリジナル絵本作り(4)　文字入れ	月　日	出・欠
15	オリジナル絵本作り(5)　発表と振り返り	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(演習、小テストなど) ・問答法、コメントを求める・振り返り(振り返りシート)・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬シアターなど)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・児童文化財を製作する【30分/週】 ・多様な絵本を読む【30分/週】	製作・表現技能60%、小テスト20%(終了後解説10分) 提出物10%、受講態度10%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 川勝泰介他編著『児童文化』萌文書林
その他、必要に応じてプリントを配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C12syh13	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○					

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育における「児童文化財」について、理解する。
到達目標(2)	製作及び演習に、課題意識を持って取り組むことができる。
到達目標(3)	発表の際、保育者に求められる表現力が身についている。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育における「児童文化財」について、理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【製作及び演習に、課題意識を持って取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【発表の際、保育者に求められる表現力が身についている。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
音楽Ⅰ	赤川優子・井上美佳・竹内佳代・中村桂子・東尚子

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

保育者として自分自身が楽しむことを大切にしながら個人に合わせた実技指導を行う。間違いの有無だけでなく練習方法についてもフィードバックする。

一斉授業;子どもの歌を60曲以上知り、楽典の基礎を理解する。 授業形態;一斉授業(歌唱・楽典)⇔グループレッスン(ピアノ実技指導)

実技到達目標;ピアノ初心者・・・試験でピアノ曲1曲が弾け、弾き歌いを10曲以上合格する。(楽譜:ステップⅠ程度)

実技到達目標;ピアノ経験者・・・試験でピアノ曲1曲が弾け、弾き歌いを20曲以上合格する。(楽譜:ステップⅠ・Ⅱ程度)

実技到達目標;ピアノ上達者・・・試験でピアノ曲1曲が弾け、弾き歌いを30曲以上合格する。(楽譜:ステップⅡ・Ⅲ・原曲)

＊試験で弾くピアノ曲については、進度に合わせて担当講師が選択。

・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
※実務教員による授業科目。担当者赤川優子は元中学校、及び高等学校教諭、井上美佳は元中学校教諭であり、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「音楽の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる」を獲得することができる。

授業内容・計画(一斉　赤川)		ピアノ初心者		ピアノ経験者		ピアノ上達者		実施日	出欠
1	オリエンテーション・ピアノ実技目標達成について	課題確認		課題確認		課題確認		月　日	出・欠
2	音楽基礎知識①楽譜の読み方・音名 歌唱(発声)について	ピアノテキスト1・2	カエルの合唱(ポジション移動)	ピアノテキスト1～7	ぶんぶんぶん・ちょうちょ	ピアノテキスト1～10	ぶんぶんぶん・ちょうちょ・チューリップ	月　日	出・欠
3	音楽基礎知識②変化記号 歌唱(子どもの歌　4月)	ピアノテキスト3・4	メリーさんのひつじ(不等リズム)	ピアノテキスト8	こいのぼり・おつかいありさん	ピアノテキスト15(バイエル48番)	こいのぼり・おつかいありさん・こどりのうた	月　日	出・欠
4	音楽基礎知識③音符と休符 歌唱(子どもの歌　5月)	ピアノテキスト3・4	かっこう(両手奏・ドソ)	ピアノテキスト9	あめふりくまのこ	ピアノテキスト16(バイエル59番)	おはよう・おかえりのうた・おべんとう	月　日	出・欠
5	音楽基礎知識④-1拍子とリズム 歌唱(子どもの歌　6月)	ピアノテキスト5	むすんでひらいて(ドファソ)	ピアノテキスト10	かたつむり・とけいのうた	ピアノテキスト17(バイエル66番)	あめふりくまのこ・あまだれぽったん・かたつむり	月　日	出・欠
6	音楽基礎知識④-2拍子とリズム　練習問題 歌唱(子どもの歌　7月)	ピアノテキスト6	ぶんぶんぶん	ピアノテキスト15(バイエル48番)	たなばたさま・きらきらぼし	ピアノテキスト19(バイエル86番)	たなばたさま・きらきらぼし・しゃぼんだま	月　日	出・欠
7	音楽基礎知識⑤音程 歌唱(子どもの歌　8月)	ピアノテキスト7	ちょうちょ	ピアノテキスト16(バイエル59番)	うみ・しゃぼんだま	ピアノテキスト29(バイエル90番)	うみ・おばけなんてないさ・アイスクリームのうた	月　日	出・欠
8	音楽基礎知識⑥-1音階 歌唱(子どもの歌　9月)	ピアノテキスト8	かたつむり(タッカタンタンのリズム)	ピアノテキスト17(バイエル67番)	おばけなんてないさ	ピアノテキスト34(バイエル78番)	とんぼのめがね・大きな古時計・大きな栗の木の下で	月　日	出・欠
9	音楽基礎知識⑥-2音階 練習問題 歌唱(子どもの歌　10月)	ピアノテキスト9	おべんとう(タッカタンタンのリズム)	ピアノテキスト19(バイエル86番)	アイスクリームの歌	ピアノテキスト39(バイエル96番)	さようならのうた・おててをあらいましょう・はをみがきましょう	月　日	出・欠
10	音楽の基礎知識⑦-1調と調号 歌唱(子どもの歌　11月)	ピアノテキスト10	おはよう(増子とし詞)(タッカのリズム)	ピアノテキスト29(バイエル90番)	とんぼのめがね・どんぐりころころ	ピアノテキスト44(バイエル80番)	どんぐりころころ・まつぼっくり・山の音楽家	月　日	出・欠
11	音楽の基礎知識⑦-1調と調号 練習問題 歌唱(子どもの歌　12月)	ピアノテキスト15(バイエル48番)	おかえりのうた(タッカのリズム)	ピアノテキスト34(バイエル78番)	まつぼっくり・大きな栗の木の下で	ピアノテキスト46(バイエル91番)	はたけのポルカ・やきいもグーチーパー・きのこ	月　日	出・欠
12	音楽の基礎知識⑧-1省略記号 歌唱(子どもの歌　1月)	ピアノテキスト16(バイエル59番)	さようならのうた(高すすむ詞)(臨時記号)	ピアノテキスト39(バイエル96番)	ジングルベル・ゆき	バイエルNo.100	あわてんぼうのサンタクロース・ジングルベル・ゆき	月　日	出・欠
13	音楽の基礎知識⑧-2省略記号　練習問題 歌唱(子どもの歌　2月)	ピアノテキスト17(バイエル67番)	おててをあらいましょう(16分音符)	ピアノテキスト44(バイエル80番)	お正月・まめまき	アラベスク	ありがとうさようなら・せんせいとおともだち	月　日	出・欠
14	音楽の基礎知識⑨強弱記号と速度記号 歌唱(子どもの歌　3月)	ピアノテキスト19(バイエル86番)	チューリップ(ステップⅠ)	ピアノテキスト46(バイエル91番)	うれしいひなまつり	ソナチネop.36-1	お正月・まめまき・一年生になったら	月　日	出・欠
15	振り返りと試験対策	試験曲	チューリップ(ステップⅡ)	試験曲	思い出のアルバム	試験曲	おはながわらった・うれしいひなまつり・思い出のアルバム	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習(ペアワーク、グループワーク)・発表(歌唱表現等)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
各自の課題を1日20分以上【120分以上/週】	筆記試験・・・ 20%(音楽の基礎知識・曲名理解) 実技試験・・・ 30%(ピアノ曲1曲、弾き歌い1曲) 取り組み ・・・ 50%(授業内課題・課題リスト達成率・授業態度)　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 全国大学音楽教育学会九州地区学会編『保育士・幼稚園教諭　小学校教諭養成のためのピアノテキスト』カワイ出版社
大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1巻』Gakken出版社
大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻』Gakken出版社
神原雅之他『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』教育芸術社
【持参物】 上記テキスト、五線ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C12syh15	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子どもの曲を60曲以上知る。
到達目標(2)	楽譜を読む基礎的能力を身につけることができる。
到達目標(3)	試験で　　が弾け、弾き歌いレパートリーが　　曲以上ある。(空欄はグループごとに各自で記入する)

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【子どもの曲を60曲以上知る。】	(A・B・C・D)
(2)【楽譜を読む基礎的能力を身につけることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【試験で　　が弾け、弾き歌いレパートリーが　　曲以上ある。(空欄はグループごとに各自で記入する)】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
図画工作Ⅰ	鷲﨑 公彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目では「ペーパークラフトとスケッチブック制作」をテーマに、各種の紙を用いた造形活動を行う。
・ペーパークラフトに関する材料や道具の特徴および使用方法を学び、表現方法や指導方法を学習する。また、造形表現の喜びや感性、表現力などの美的情操を養い、保育現場で活かせる能力の育成をねらいとする。
・フィードバックの方法については授業の各回で解説を加え、活動の節目ごとに発表会、振り返りカードの提出と添削などを行う。学内展示による相互鑑賞にも取り組む。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	制作活動1【タイムカプセルをつくろう（メッセージカード作り）】	月　日	出・欠
3	教材研究1【ICTを活用した発想あそび】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
4	制作活動2【折り紙①（導入、制作）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
5	制作活動2【折り紙②（スケッチブック制作）】	月　日	出・欠
6	教材研究2【はさみの使い方】	月　日	出・欠
7	制作活動3【ポップアップカード①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
8	制作活動3【ポップアップカード②（制作）】	月　日	出・欠
9	制作活動3【ポップアップカード③（発表）】	月　日	出・欠
10	制作活動4【切り紙①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
11	制作活動4【切り紙②（制作）】	月　日	出・欠
12	制作活動4【切り紙③（発表）】	月　日	出・欠
13	制作活動5【お面作り①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
14	制作活動5【お面作り②（制作）】	月　日	出・欠
15	制作活動5【お面作り③（発表）】	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習）、振り返り（振り返りシート、リアクションペーパー）、協同学習（グループワーク）、発表（プレゼンテーション）、eラーニング

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として次回授業の事前学習、事前準備を行う。【30分/週】 ・復習としてスケッチブック整理と制作活動の補填を行う。【30分/週】	平常点（学習態度20%、振り返りカード20%）、成果物（スケッチブック30%、作品30%）（提出後、解説10分）、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】【参考文献】 授業内で必要に応じて資料プリントを適宜配付する。
【持参物】　授業内で必要に応じて準備物を適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C12syh19	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	ペーパークラフトに関する基礎的な知識と技能を身につけ、制作活動に取り組むことができる。
到達目標(2)	ペーパークラフトを通して造形表現の喜びを感じ取り、感性やコミュニケーション力を豊かに高めることができる。
到達目標(3)	スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【ペーパークラフトに関する基礎的な知識と技能を身につけ、制作活動に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【ペーパークラフトを通して造形表現の喜びを感じ取り、感性やコミュニケーション力を豊かに高めることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
レクリエーション実技	三原 善伸

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業においては、レクリエーションの各種種目の基本のルールや対象に合わせた指導技術、応用と展開、指導上の安全確保について学ぶとともに、レクリエーションの楽しさ、意義を知る。
①レクリエーション指導者として必要なホスピタリティーの示し方とコミュニケーションスキルを学ぶ。
②各種レクリエーション種目を体験するとともにルールや指導方法を学び、自らが活用し指導できるようにする。
③対象に合わせた指導方法と指導の展開力を養う。
④レクリエーションプログラムに合わせた機材の準備、マネージメント、環境整備を学ぶ。
⑤課題についての振り返り、フィードバックについては、課題やレポート提出後に講評と解説を行います。
又、授業前、授業後、休憩時間等において質問等にも応じます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション　/　種目の概要と仲間づくりのためのアイスブレーキング	月　日	出・欠
2	コミュニケーションを深める仲間づくりのレクリエーション	月　日	出・欠
3	信頼関係づくりのためのホスピタリティーの示し方	月　日	出・欠
4	楽しいを作るレクリエーション(1)　アイスブレーキングを取り入れたレクリエーションソング指導	月　日	出・欠
5	楽しいを作るレクリエーション(2)　段階的に成功体験するアレンジ方法を使った楽しいゲーム指導	月　日	出・欠
6	楽しいを作るレクリエーション(3)　意思疎通を生み出す楽しいダンスの指導	月　日	出・欠
7	楽しいを作るレクリエーション(4)　CSSプロセスを使った楽しいクラフトの指導	月　日	出・欠
8	楽しいを作るレクリエーション(5)　主体的・自主的に楽しむ「モルック」「ラダーゲッター」の指導	月　日	出・欠
9	レクリエーション支援の実施(1)　ニュースポーツ「ペタンク」「チャレンジ・ザ・ゲーム」の指導	月　日	出・欠
10	レクリエーション支援の実施(2)　ハンディキャップがある方々と楽しむレクリエーション健康体操	月　日	出・欠
11	レクリエーション支援の実施(3)　受動的に楽しむレクリエーション実技「マジック・腹話術」の体験	月　日	出・欠
12	レクリエーション支援の実施(4)　小スペースの場所やテーブルで行うレクリエーション	月　日	出・欠
13	レクリエーション支援の実施(5)　心とからだを元気にするレクリエーション　自然を活かした「ネイチャーレク」	月　日	出・欠
14	レクリエーション支援の実施(6)　自然を活かしたレクリエーション「ウォークラリー」	月　日	出・欠
15	レクリエーション支援の実施(7)　伝承遊び「竹とんぼ」「コマ回し」「けん玉」「シャボン玉」/　授業総括	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、調査、体験）・日常で発見したことを記録する・振り返り（振り返りシート）・協同学習（グループワークなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・【月1回程度で不規則に開催】 自治体や体育協会、レクリエーション連盟等が開催するレクリエーション・スポーツ事業に参加し、レクリエーション活動の運営や指導の実際を体験することで運営方法・指導技術のスキルアップを図る。（1回2時間程度）	個人レポート提出（提出後に解説する）20%、 授業参加態度30%、実技試験（試験 60 分・終了後解説30分）50%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　公益財団法人　日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり』
【持参物】　授業では運動のできる服装、タオルを準備すること。授業8,13,14,15は屋外で行うので帽子を必ず準備すること。
【その他】　必要に応じてプリントを配付するので必ずファイリング保存すること。また授業の間に適宜水分を補給すること。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	1年次	前期		C12n30	レクリエーションインストラクター資格(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	○	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	レクリエーション指導者としての基本的な心構え、態度を身につける。
到達目標(2)	指導種目ごとのルールを知り、知識を深める。
到達目標(3)	指導種目ごとの指導技術を身につける。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【レクリエーション指導者としての基本的な心構え、態度を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【指導種目ごとのルールを知り、知識を深める。】	(A・B・C・D)
(3)【指導種目ごとの指導技術を身につける。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
レクリエーション実習	水鶏口 陽一

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

地域で行われているレクリエーション事業の現場実習をとおして、レクリエーション支援者としての実践力を身に付ける。
レクリエーション科目で学習した理論と実技をもとに、レクリエーション協会主催の事業や地域の子ども、高齢者、障がい者へのボランティア活動などに積極的に参加し、人々と交流を重ね、スタッフやリーダーとしての経験を積む。
・活動に参加する際は時間を厳守し、ルールやマナーに気を付けること
・実習活動はスタッフとして活動するため、言葉使いや服装、態度に気を付けること
・各実習でスタッフ参加記録用紙を提出し押印してもらうこと。記録用紙は、内容を記載し担当教員に提出すること
・レクリエーション協会が実施している地域の事業に、参加回数5回(3時間×5回)または、外部実習3回以上で、時間数15時間以上スタッフとして参加すること
・学内の行事やイベントに運営スタッフとして1回以上参加すること
・課題についての振り返り、フィードバックについては、個人レポート提出後、講評と解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、実習事前指導(人間関係づくりのレクリエーション①)	月　日	出・欠
2	学内レクリエーション実習(人間関係づくりのレクリエーション②)	月　日	出・欠
3	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション①チームスポーツ)	月　日	出・欠
4	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション②球技ネット型)	月　日	出・欠
5	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション③球技ゴール型)	月　日	出・欠
6	レクリエーション実習事前計画	月　日	出・欠
7	地域での子どもとのレクリエーションの実践	月　日	出・欠
8	レクリエーション支援の評価、事後指導（地域での子どもとのレクリエーション）	月　日	出・欠
9	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション④球技ベースボール型)	月　日	出・欠
10	学内レクリエーション発表(指導案の作成と評価の方法)	月　日	出・欠
11	第1回レクリエーションスタッフの参加(山口県レク協会主催)	月　日	出・欠
12	第2回レクリエーションスタッフの参加(広島県レク協会主催)	月　日	出・欠
13	第3回レクリエーションスタッフの参加(岩国市レク連盟主催)	月　日	出・欠
14	第4回レクリエーションスタッフの参加(市町村体育協会主催)	月　日	出・欠
15	第5回レクリエーションスタッフの参加(各地域の行事・イベント)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・実験、実技、実習 ・問答法、コメントを求める ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
資格認定条件にあたる実習参加に関して、自分で情報を収集し計画する。参加後のレポートを作成する。【1時間/週】	スタッフ参加、(参加後、レポート提出)90%、 課題提出(2年次試験)10% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

・授業担当者が指定した事業・イベント等に運営スタッフとして参加すること。(資格認定条件)
・学内行事等に運営スタッフとして1回以上参加すること。
・地域のレクリエーション事業に参加回数5回(3時間×5回)または、外部実習3回以上で、時間数15時間以上参加すること。(資格認定条件)
・事業でのスタッフ参加は自費(交通費など)での参加となる。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	実習	1・2年次	通年		C12n31	レクリエーションインストラクター資格(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	◎	○	○	◎	○	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	地域の人たちにレクリエーション支援をすることができる。
到達目標(2)	行事に参加することで、レクリエーションインストラクターとしての役割を理解する。
到達目標(3)	活動に参加する際は、時間を厳守しルールやマナーを守ることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【地域の人たちにレクリエーション支援をすることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【行事に参加することで、レクリエーションインストラクターとしての役割を理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【活動に参加する際は、時間を厳守しルールやマナーを守ることができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教職・保育者論	舩原 将太

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・「教育」や「保育」の歴史は浅く、しかし変容の激しいものである。本講義は、これらの歴史性を十分に踏まえたうえで、現代日本において保育専門家に求められる資質・能力について理解を深めることを目的とする。とくに近年の「子ども」を取り巻く環境の困難を知り、ただ「子ども」の面倒を見るのではなく保育を行う専門家にとって必要となる倫理観、使命感、専門性への理解を深め、保育実践へと臨むための道標となることが本講義の位置づけとなる。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション：講義の概要、授業評価について	月　日	出・欠
2	「保育」と「お世話」の違い	月　日	出・欠
3	保育士の職務と制度的位置づけ	月　日	出・欠
4	保育士の責務と「全国保育士会倫理綱領」について	月　日	出・欠
5	保育者の一日	月　日	出・欠
6	子どもと一緒に「遊ぶ」ということ：保育における子どもの「学び」	月　日	出・欠
7	保育における教育資源	月　日	出・欠
8	保護者・家庭支援について	月　日	出・欠
9	地域における保育者の使命	月　日	出・欠
10	保育者の専門性①（子ども理解について）	月　日	出・欠
11	保育者の専門性②（協働・ともに学ぶ保育者について）	月　日	出・欠
12	保育者の専門性③（省察の重要性について）	月　日	出・欠
13	保育に関連する制度との連携・協働	月　日	出・欠
14	計画に基づく保育実践と評価	月　日	出・欠
15	まとめと振り返り（目指すべき保育者像について）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、振り返り、課題（小テスト）、発表、ミニッツペーパー

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・シラバスを読み記載内容について調査【2時間/週】 ・復習（配布資料の読み直し）【2時間/週】	受講態度・姿勢30％、小テスト20％ 定期試験（試験60分、解説30分）50％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）
【参考文献】　適宜、配付する。
【持参物】　各回の配付資料はファイリングし、毎回持参すること。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	前期	幼保	C13yh01	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		◎	○	◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	幼稚園教諭・保育者の倫理や責任について理解する。
到達目標(2)	幼稚園教諭・保育者の社会的役割について理解する。
到達目標(3)	幼稚園教諭・保育者として保育の質の向上を図ることの重要性を理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【幼稚園教諭・保育者の倫理や責任について理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【幼稚園教諭・保育者の社会的役割について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【幼稚園教諭・保育者として保育の質の向上を図ることの重要性を理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育原理	舩原 将太

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・私たちの認知、判断、行動はその時代背景や社会構造からの影響を強く受けている。現代のマスクをつけながらの生活は、この事実を如実に現わしているものと言えよう。そしてこのことは、「教育」においても無縁ではない。「子ども」を前に彼（女）らを庇護しながら育てようとする「大人」の発想もまた、ある特定の時代において見いだされる限定的な価値に過ぎない。本講義の目的は、私たちにとってあまりに近すぎるがゆえに見えにくくなっている「教育」の姿を今一度冷静なまなざしのもと見つめ直し、その意義や限界について理解を深めることである。そのためには、教育制度に限定することなく、福祉や医療、法制度についても視野に入れることが不可欠である。一見すると無縁に見える諸制度が相互に結びつき合いながら「子ども」を教育しようとする私たちの感性を作り上げてきた事実を、本講義では追っていくこととなる。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション：授業の概要、授業評価の説明	月　日	出・欠
2	子どもをめぐる歴史①（近代以前の「子ども」と家庭・社会のあり方）	月　日	出・欠
3	子どもをめぐる歴史②（近代的な「子ども」観の成立）	月　日	出・欠
4	学校の成立をめぐる思想と歴史①（学校教育を支えた思想）	月　日	出・欠
5	学校の成立をめぐる思想と歴史②（学校が求められる社会背景）	月　日	出・欠
6	公教育について①（教育基本法、学校教育法、日本国憲法について）	月　日	出・欠
7	公教育について②（権利としての教育）	月　日	出・欠
8	発達について（基礎理論の確認）	月　日	出・欠
9	発達について（子どもが世界に開かれる過程）	月　日	出・欠
10	教育と福祉（人間の能力について）	月　日	出・欠
11	教育と医療（発達障害について）	月　日	出・欠
12	近年の教育政策について（学習指導要領等について）	月　日	出・欠
13	家庭支援と教育について	月　日	出・欠
14	海外の教育政策について	月　日	出・欠
15	まとめとふりかえり：教育を考えることの困難について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、振り返り、課題（小テスト）、発表、ミニッツペーパー

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習（シラバスを読み記載内容について調査）【2時間/週】 ・復習（配布資料の読み直し）【2時間/週】	受講態度・姿勢30％、小テスト20％、 定期試験（試験60分、解説30分）50％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）
【参考文献】　適宜、配付する。
【持参物】　各回の配付資料はファイリングし、毎回持参すること。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	前期	卒幼保	C13syh02	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎						

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	教育に関する基本的概念を身に着け、教育を成り立たせる諸要因について総合的に理解する。
到達目標(2)	教育に関する様々な思想を理解し、実際の教育や学校との関連について自身の言葉で説明できる。
到達目標(3)	教育や子どもをめぐる問題について基本事項を理解し、その問題について自身の考えを発表できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【教育に関する基本的概念を身に着け、教育を成り立たせる諸要因について総合的に理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【教育に関する様々な思想を理解し、実際の教育や学校との関連について自身の言葉で説明できる。】	(A・B・C・D)
(3)【教育や子どもをめぐる問題について基本事項を理解し、その問題について自身の考えを発表できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育・保育の心理学Ⅰ	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、教育・保育に関わる心理学の基礎知識として、子ども観や保育観、教育・保育と発達との関連、生涯発達と初期経験の重要性、発達と環境・学習などについて学習する。
・履修上の注意事項として、「教育・保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」は実践のための基礎科目であり、内容が広範囲にわたり、抽象的な事項も含まれている。そのため、身近に乳幼児に触れる機会の少ない学生にとって、内容的に少し難しいところがあるかもしれない。発達の実際を理解するために適宜情報教材VTR視聴を取り入れて理解を図る予定でいる。板書は必ずノートに書き留め，配付された資料もファイリングしておくこと。質問は大歓迎。授業への積極的な参加を期待している。
・レポート課題の振り返りについては、授業の中で適宜行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、子ども観と保育観	月　日	出・欠
2	発達理解の基礎①－（身体運動発達・原始反射）	月　日	出・欠
3	発達理解の基礎②－（粗大運動）（VTR視聴）	月　日	出・欠
4	発達理解の基礎③－（微細運動）	月　日	出・欠
5	発達理解の基礎④－（知覚）	月　日	出・欠
6	発達理解の基礎⑤－（認知）	月　日	出・欠
7	発達理解の基礎⑥－（ことば）	月　日	出・欠
8	発達理解の基礎⑦－（コミュニケーション・アタッチメント）	月　日	出・欠
9	発達理解の基礎⑧－（情緒）	月　日	出・欠
10	学びと保育①－（初期経験）	月　日	出・欠
11	学びと保育②－（学習の原理）	月　日	出・欠
12	学びと保育③－（効果的な学習）	月　日	出・欠
13	学びと保育④－（仲間関係）	月　日	出・欠
14	学びと保育⑤－（向社会的行動）（VTR視聴）	月　日	出・欠
15	学びと保育⑥－（集団形成）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・ディスカッション・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
各回のポイント理解（必要に応じてノート整理）。理解できなかった専門用語・内容について調べ、質問の準備をする。自主学習として、調べ学習を習慣化する。【4時間／週】	定期試験（試験60分、解説30分）60%　ノートと課題30%、受講態度（発表等）10%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　沼山博・三浦主博編著『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林
【参考資料】必要に応じて資料配付する。
【持参物】　テキスト、ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	前期	卒幼保	C13syh04	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎			○	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	発達について身体運動の特性が理解できる。
到達目標(2)	発達について知覚認知の特性が理解できる。
到達目標(3)	発達について社会性の特性が理解できる。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【発達について身体運動の特性が理解できる。】	(A・B・C・D)
(2)【発達について知覚認知の特性が理解できる。】	(A・B・C・D)
(3)【発達について社会性の特性が理解できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容総論	山縣 明人

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

保育内容総論では、個々の保育実践内容を「幼稚園教育要領」における保育の領域に位置づけて、「保育目標」・「ねらい」・「内容」の連関を明確に理解できるようにすることである。そして、幼児に様々な保育内容を多彩に提示できることが課題ではなく、保育内容で何を体験して掴むことが真の人間になるために必要であるかを常に自覚して実践できるかが課題であることを掴むことこそ、この講義における主題となる。・課題についてのフィードバックについては、試験終了後に説明を行う。
・オフィス・アワーとして、授業の前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	「保育内容総論」序説−われわれは何を学ぶか・学びの心身論Ⅰ−	月　日	出・欠
2	「保育の基本と保育内容」−保育の基本と内容を理解する学びの心身論Ⅱ−	月　日	出・欠
3	保育の全体構造の中で保育内容を捉える−保育者は魔術師−	月　日	出・欠
4	保育内容の歴史的変遷−戦後期以降から平成まで−	月　日	出・欠
5	子どもの発達と捉え方と保育内容の定義	月　日	出・欠
6	幼稚園教育要領を保育所保育指針との比較において考える	月　日	出・欠
7	幼稚園教育要領における保育観−幼稚園教育の基礎−	月　日	出・欠
8	教育課程の編成−保育の領域と構成−	月　日	出・欠
9	健康・人間関係におけるねらいと内容について	月　日	出・欠
10	環境におけるねらいと内容について	月　日	出・欠
11	言葉におけるねらいと内容について	月　日	出・欠
12	生き方と言葉の育ち−児童の言葉生態について	月　日	出・欠
13	表現におけるねらいと内容について	月　日	出・欠
14	望ましい経験の総体を保証する感情教育の重要性	月　日	出・欠
15	保育内容総論のまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、調査）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
授業前には、シラバスを見て授業に必要な予備知識を自分で学習すること。授業中は互いに意見交換もして知識を深化する。さらに授業後は、ノートの編集を通じて講義内容における課題を整理するように努力してほしい。特に、自分が保育実践する立場での課題を自覚して欲しい。授業時間外学習【4時間/週】	定期試験（試験60分・解説30分）50%、 ノート・課題提出40%、受講態度10%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】 民秋言・吉村真理子編『保育内容総論』萌文書林

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C13syh09	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	「保育内容」が保育目標を達成するために展開される全ての内容を意味することを理解する。
到達目標(2)	五領域のねらいと内容を理解して、それらを通じて幼児の生き方が陶冶されることを理解する。
到達目標(3)	発達段階による子供の理解と、それらを基にした総合的な保育実践が必要であることを理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【「保育内容」が保育目標を達成するために展開される全ての内容を意味することを理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【五領域のねらいと内容を理解して、それらを通じて幼児の生き方が陶冶されることを理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【発達段階による子供の理解と、それらを基にした総合的な保育実践が必要であることを理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容演習（環境Ⅰ）	水鶏口 陽一

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・幼児の生きる力の基礎を培うために、どのような環境を設定し、援助すれば、幼児の遊びを豊かにしていくことができるかを、講義や園芸作業・製作等を通して学ぶ。
・領域環境のねらいを達成するには、子どもたちに携わる重要な時期を担う保育者自身が、この身近な様々な環境にまずは興味や関心を持ち理解し知識を持つことはとても大切なことである。そのため講義内においては学生の自主的・主体的な活動を取り入れながら学びにつなげていく。
・ESD、SDGsにおける教育のあり方に触れ、地球規模の課題に対しての倫理的な判断や社会正義に基づく行動をとおして、幼児教育に落とし込む方法と保育実践演習内容を学ぶ。
・試験についての振り返り、フィードバックについては、試験後に解説を設ける。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てていく。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	領域「環境」とは：幼児を取り巻く環境の諸側面	月　日	出・欠
2	領域「環境」とは：思考・科学的概念の発達	月　日	出・欠
3	春の身近な植物の観察をし、知識・理解を深める。	月　日	出・欠
4	ポット苗のつくり方・種のまき方について理解する。アサガオ・ラッカセイの種を植える。	月　日	出・欠
5	植物の成長に必要な肥料成分について理解する。園芸作業	月　日	出・欠
6	畑やプランターの土について理解する。園芸作業	月　日	出・欠
7	昆虫の生態や飼育方法について理解を深める。園芸作業	月　日	出・欠
8	幼稚園児と合同でサツマイモの定植を行い、支援の仕方について体験を通して学ぶ。	月　日	出・欠
9	アサガオを移植し、ラッカセイを定植する。	月　日	出・欠
10	メダカ・金魚の生態や飼育方法について理解を深める。園芸作業	月　日	出・欠
11	天体やその動きについて理解を深める。	月　日	出・欠
12	七夕飾りづくりを体験する。	月　日	出・欠
13	植物・動物・自然に関する絵本についての理解を深める。	月　日	出・欠
14	領域「環境」の内容：標識・文字等、情報・施設との関わり	月　日	出・欠
15	ESD、SDGsにおける教育のあり方とは　前期学習内容についてのまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・実験、実技、実習・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート、リアクションペーパーなど）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、ポスターセッション、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
四季折々の身の回りにある植物や動物に関わるとともに、外出時は特に自然の美しさや不思議さに関心を持つ。【1時間/週】	受講態度20％、課題・作品20％、 定期試験（試験60分・解説30分）60％　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】上中修編著『保育実践に生かす保育内容「環境」』保育出版社、柴崎正行編著『演習保育内容「環境」』建帛社
奥井智久・芦田宏編著『新子どもと環境　実技・実践編』三晃書房、小田豊・湯川英樹編著『保育内容「環境」』北大路書房
北村友人・佐藤真久編著『SDGs時代の教育』学文社、レイチェル カーソン著『沈黙の春』『センス・オブ・ワンダー』 新潮文庫
『環境教育指導資料』[幼稚園・小学校編]国立教育政策研究所教育課程研究センター

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	前期	卒幼保	C13syh14	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○		◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	植物の特性や小動物の生態を知り、その栽培方法や飼育方法を理解し実践する。
到達目標(2)	天体の動き等について理解し、その中で生まれた神話や昔話を体得する。
到達目標(3)	ESD、SDGsにおける教育のあり方を学び、その意義を理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【植物の栽培や小動物の生態に興味が持てた。】	(A・B・C・D)
(2)【宇宙の不思議に気付き、生まれた神話や昔話に関心が持てた。】	(A・B・C・D)
(3)【ESD、SDGsにおける教育のあり方を理解し実践する意欲が持てた。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
文章表現法Ⅰ	宮下 小百合

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、「書く」行為について考え、その技能や能力を養います。卒業後に保育現場で修業することを想定し、それまでに必要と考えられる文章表現力を身につけることを目指していきます。まずは前段階として、基礎的な文章表現能力について、内容面、形式面の両方について見直していきます。また、一定の形式を踏まえながら、自分が見たこと、考えたことを適切な言葉で表現できる力をつけていきたいと考えます。
・「書く」ことの基本である「とめ・はね・はらい」に留意して丁寧に字を書くことで、相手に内容がより良く伝わる、保育現場での文章表現の基礎を培います。また、作文の相互評価や発表を通して、相手を受容し、自分の意見や気持ちを充分に表現できることを目標とします。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
・レポート・課題についてのフィードバックは、提出後に解説を行います。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	自分の文章を見直す①　文章作成上の留意点　原稿用紙の使い方他	月　日	出・欠
2	自分の文章を見直す②　作文 「前期の反省と今後の展望」作成	月　日	出・欠
3	自分の文章を見直す③　作文の相互評価	月　日	出・欠
4	保育現場での文章表現　保育現場で使う漢字	月　日	出・欠
5	自己分析と履歴書作成①　自分の長所、短所・クラブ活動・ボランティアについて	月　日	出・欠
6	自己分析と履歴書作成②　得意な科目、自己PRについて	月　日	出・欠
7	文章の基本的な書き方①　文章作法、敬語の使い方	月　日	出・欠
8	文章の基本的な書き方②　作文「尊敬する人」 文章構成	月　日	出・欠
9	文章の基本的な書き方③　作文「尊敬する人」 作成	月　日	出・欠
10	文章の基本的な書き方④　実習日誌での文章表現	月　日	出・欠
11	文章表現①　〈考える〉〈書く〉のメリハリを意識する	月　日	出・欠
12	文章表現②　作文の発表	月　日	出・欠
13	小論文レポート作成①　情報収集・資料要約	月　日	出・欠
14	小論文レポート作成②　小論文の構成・構成シートの作成	月　日	出・欠
15	小論文レポート作成③　小論文の作成	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（小テスト、レポート）、問答法、コメントを求める、協同学習（グループワークなど）、発表（プレゼンテーションなど）
振り返り（振り返りシートなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・硬筆の書写トレーニング　【30分/週】 ・授業後Google Classroomへ投稿する【30分/週】	レポート・課題提出80％（解説各10分）、 受講態度（積極的な取り組み）20％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林
　　中塚翠涛『30日できれいな字が書けるペン字練習帳　手紙とはがき』宝島社
【参考文献】『文章検　文章読解・作成能力検定　公式テキスト4級』日本漢字能力検定協会
　　『文章検　文章読解・作成能力検定　公式テキスト3級』日本漢字能力検定協会
【持参物】　テキスト、ペン字練習帳、鉛筆（Bまたは2B）

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C11syh02	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	◎		○	◎	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	文章表現の基礎(文章構成・文章作法)を身につける。
到達目標(2)	正しい表記で丁寧に書くことができる。
到達目標(3)	短文・作文・小論文を作成することができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【文章表現の基礎(文章構成・文章作法)を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【正しい表記で丁寧に書くことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【短文・作文・小論文を作成することができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
クリエイティブ・ムーブメントⅡ	朝倉 なぎさ

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、クリエイティブ・ムーブメントⅠにおいて示した目標と演習内容を踏まえて、さらに理解を深めていく。その上で、かかわりをつくり、その中で体現される子どもたちの自己表現を受けとめ育てていくことのできる保育者、自らが自己を解放しありのままを表現していくことのできる保育者に必要な基礎的資質の育成を図る。
・具体的な授業内容は前期と同様の構成ですが、後半はグループごとの劇づくりを導入し、本授業の集大成とします。また、身体表現遊びの指導案も作成します。授業の枠をまたいで、他科目での学びも応用してみましょう。
・課題についてのフィードバックについては、最終発表会後、講評を行うとともに、これまでの授業についての解説を行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	前期の振り返り	月　日	出・欠
2	イメージング・エクササイズを中心に(1)　感覚(触感)のワーク	月　日	出・欠
3	イメージング・エクササイズを中心に(2)　曲をイメージして	月　日	出・欠
4	イメージング・エクササイズを中心に(3)　朗読してみよう	月　日	出・欠
5	インプロゲームを中心に(1)　バーバルとノンバーバル	月　日	出・欠
6	インプロゲームを中心に(2)　ジェスチャー表現	月　日	出・欠
7	劇表現－舞台発表の演出－	月　日	出・欠
8	劇表現－リハーサル－	月　日	出・欠
9	ごっこ遊びから劇遊びへ	月　日	出・欠
10	シアターに向けて(1)　起案・構成	月　日	出・欠
11	シアターに向けて(2)　製作	月　日	出・欠
12	シアターに向けて(3)　練習	月　日	出・欠
13	シアターに向けて(4)　演出	月　日	出・欠
14	シアターに向けて(5)　仕上げ	月　日	出・欠
15	振り返りとまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(演習、小テストなど)・問答法、コメントを求める・振り返り(振り返りシート)・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習、即興劇など)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・子ども向けの劇やシアターの映像を観る【30分/週】 ・身体表現に関する書籍を読む【30分/週】	受講態度と課題提出30%、表現技能40%、 発表の完成度(発表後、解説30分)30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　小林由利子他『ドラマ教育入門』図書文化社　絹川友梨『インプロゲーム』晩成書房　その他、必要に応じて資料を配付する。
【持参物】　筆記用具。授業は動きやすい服装で行う(スカート不可)。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C11syh05	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	◎		◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	劇表現の特性を理解し、劇づくりに取り組むことができる。
到達目標(2)	表現力のスキル(言葉、身体性、声、表情など)の向上に取り組むことができる。
到達目標(3)	コミュニケーションを意識しながら、他者と協力できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【劇表現の特性を理解し、劇づくりに取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【表現力のスキル(言葉、身体性、声、表情など)の向上に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【コミュニケーションを意識しながら、他者と協力できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
情報処理演習Ⅱ	竹野 博信

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・表計算ソフトを使用して、関数式のある表の作成やグラフ作成、データ活用などの基本操作を学びます。それを踏まえて、園児名簿やカレンダーなど実務に利用できる例を作成しながら活用方法について理解を深めます。
・プレゼンテーションソフトの基本操作を習得し、スライドを活用した保育教材の作成方法について学びます。
・関数式を作ることが必要となるため、数学の基礎と文章読解力を身につけておきましょう。
・課題・試験のフィードバックについて、課題は適宜解説を行う。試験は終了後、解説を行う。方法は口頭またはオンライン等で行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

※実務教員による授業科目。担当者はIT関連企業の勤務経験があり、初級システムアドミニストレータほかコンピュータに関するさまざまな資格を取得しており、その経験と資格を生かして本授業を担当し,受講者は学習成果に掲げる「保育現場で求められる情報活用能力」について獲得・理解することができる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	Microsoft Excel概論(1)－画面構成とデータ入力の基礎、計算式の入力等	月　日	出・欠
2	Microsoft Excel概論(2)－よく使う関数、絶対参照と相対参照、罫線等	月　日	出・欠
3	Microsoft Excel概論(3)－グラフ作成、関数①(IF関数と比較演算子)	月　日	出・欠
4	Microsoft Excel概論(4)－関数②(IF関数の複合条件と論理演算子)	月　日	出・欠
5	Microsoft Excel概論(5)－関数③(RANK.EQ関数、VLOOKUP関数)	月　日	出・欠
6	Microsoft Excel概論(6)－関数④(COUNTIF関数、SUMIF関数)	月　日	出・欠
7	Microsoft Excel概論(7)－便利な機能(セルの参照、結合、条件付き書式、ソート、フィルター等)	月　日	出・欠
8	保育現場で使える表の作成(1)－給食だよりとカレンダー	月　日	出・欠
9	保育現場で使える表の作成(2)－園児名簿の作成①(生年月日から満年齢を求める等)	月　日	出・欠
10	保育現場で使える表の作成(3)－園児名簿の作成②(IF関数を利用する等)	月　日	出・欠
11	Microsoft Power Point概論(1)－画面構成、文字の装飾と図形、グラフの活用等	月　日	出・欠
12	Microsoft Power Point概論(2)－アニメーション効果、表、画像、ワードアートの挿入等	月　日	出・欠
13	Microsoft Power Point概論(3)－スライドショー、印刷、プレゼンテーションの基礎等	月　日	出・欠
14	保育に活かすICT活用(1)－デジタル紙芝居作成準備：題材考察と作成(グループディスカッション)	月　日	出・欠
15	保育に活かすICT活用(2)－デジタル紙芝居の作成と実演(グループワーク)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(演習)　・協同学習(グループワーク)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・課題に取り組む。【50分/週】 ・保育雑誌や絵本を読み、デジタル紙芝居の構想を練る。【10分/週】　≪合計 1 時間/週≫	定期試験(試験60分・解説30分)60%、課題(提出後、解説10分)40%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】『30時間でマスター Office2019 (Windows10対応)』実教出版
【参考文献】『保育者のためのパソコン講座』萌文書林
『情報処理テキスト～幼稚園・保育所の保育実践とメディアの活用～』みるめ書房
『情報リテラシー　入門編　Windows 10 / Office 2019対応』FOM出版
【持参物】　筆記用具、ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C11syh07	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎						

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	表計算ソフトの基本操作および計算式や関数を使った表が作成できる。
到達目標(2)	保育現場で利用できる表を作成することができる。
到達目標(3)	プレゼンテーションソフトを使った保育教材の作成方法を理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【表計算ソフトの基本操作および計算式や関数を使った表が作成できる。】	(A・B・C・D)
(2)【保育現場で利用できる表を作成することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【プレゼンテーションソフトを使った保育教材の作成方法を理解する。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育の英語Ⅱ	西村 久美子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

テキスト、補助教材等を通して日常英会話に必要な会話表現を身につけるとともに、保育園や幼稚園で必要となる語彙の強化を図る。多様な表現活動（ペアワーク、English Songs等)を通して、コミュニケーションに必要な英語力を養うことを目指す。また、この講義では主にグループに分かれて英語で劇又は紙芝居活動を行う。前期に行った表現活動を生かして、外国の園児たちに聞かせるつもりで、堂々と表現する楽しさを学んでほしい。よりよい劇・紙芝居となるようグループで協力し、製作活動の際は私語をせず集中して取り組むこと。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。課題についてのフィードバックについては適宜解説を行います。
※オンライン授業になった場合は、授業計画が前後する可能性があります。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	Presentation Preparation① Check the pronunciation	月　日	出・欠
3	Presentation Preparation② Understand the stories	月　日	出・欠
4	Presentation Preparation③ Practice reading aloud	月　日	出・欠
5	English Song Test	月　日	出・欠
6	Presentation Preparation④ Prepare costumes and pictures	月　日	出・欠
7	Presentation Preparation⑤ To cast roles in a play	月　日	出・欠
8	Presentation Preparation⑥ Heighten the expressive power	月　日	出・欠
9	Presentation Rehearsal	月　日	出・欠
10	Presentation	月　日	出・欠
11	Unit12 I Feel Feverish	月　日	出・欠
12	Unit13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center	月　日	出・欠
13	Movie English　　Understand in English	月　日	出・欠
14	Unit14 Thank You Very Much for Everything	月　日	出・欠
15	Review (Unit12-14)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（ペアワーク、グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
テキストの復習、劇又は紙芝居のセリフ音読、暗記 【1時間/週】	歌試験・プレゼンテーション45%、課題（提出後、解説を含む）・受講態度55%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　『Happy　English for Childcare 保育のための基礎英語』金星堂
【参考文献】 Super Simple Songs Vol.2(DVD)、『保育英語の練習帳～単語＆フレーズを覚えよう！』萌文書林
【持参物】　辞書または電子辞書、筆記用具、工作用具等

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C11syh10	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	◎	◎	○	○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	基本的な日常英会話表現を使って、コミュニケーションをとることができる。
到達目標(2)	保育園・幼稚園等で必要な語彙を用いた英文が読めるようになる、または書けるようになる。
到達目標(3)	劇・紙芝居において任された役割を意欲的に成し遂げ、グループで協力して取り組むことができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【基本的な日常英会話表現を使って、コミュニケーションをとることができる。 】	(A・B・C・D)
(2)【保育園・幼稚園等で必要な語彙を用いた英文が読めるようになる、または書けるようになる。】	(A・B・C・D)
(3)【劇・紙芝居において任された役割を意欲的に成し遂げ、グループで協力して取り組むことができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
社会的養護Ⅱ	上栗 明男

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・児童福祉施設の現場実践における子ども対応のスキルアップのために、様々な場面を想定した対応方法を習得し、「保育士以上」のスキルを備えたケアワーカーを目指します。
・評価は主にレポートで行いますが、その作成前に評価ポイントを事前に説明しておきます。
・オフィス・アワーとして授業後に質問を受け付けますが、ない場合は担当者から質問する場合があります。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

※実務教員による授業科目。児童養護施設47年間の実務経験があり、現在は児童心理治療施設の施設長をしている。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	子どもとのコミュニケーション技法	月　日	出・欠
2	ロールプレイ①家出・非行のある女児（事例1）	月　日	出・欠
3	ロールプレイ②不登校の男児または家庭内暴力の女児（事例2・事例3）	月　日	出・欠
4	ロールプレイ③性的虐待を受けた女児（事例4）	月　日	出・欠
5	被虐待児に特徴的な問題行動	月　日	出・欠
6	感情爆発への対応（タイムアウト）	月　日	出・欠
7	自傷行為への対応（セラピューティックホールド）	月　日	出・欠
8	行動記録の取り方（ビデオ視聴による記録の実技）	月　日	出・欠
9	就学児童以上を対象にしたレク指導（内容変更の場合あり）	月　日	出・欠
10	子ども虐待のサイン（事例を使ったチェックリストの作成）	月　日	出・欠
11	グループ討議①「地域の見守り」（事例7）	月　日	出・欠
12	グループ討議②「危機介入」（事例9）	月　日	出・欠
13	「作詩療法」～気持ちを言語化できない児童へのアプローチ～	月　日	出・欠
14	安全配慮義務とは（児童福祉現場におけるリスクマネージメント）	月　日	出・欠
15	まとめとフィードバック	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・実技、コメントを求める・協同学習（グループ討議）・発表（感想、気づき）・シミュレーション（ロール・プレイング）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・「子ども虐待事案」「児童福祉制度の改正」等のニュースに関心を持っておいてください。【3時間/週】	レポート（事前に設題し評価ポイントを説明する）90％・役割演技等授業への参加状況10％・合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　櫻井慶一編著『社会的養護Ⅰ』北大路書房
【参考文献】　参考資料を配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	保	C12h04	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○			○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	実践的なスキルを知ることができる。
到達目標(2)	被虐待児の家庭的背景を理解することができる。
到達目標(3)	社会福祉援助技術のいくつかを知ることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【実践的なスキルを知ることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【被虐待児の家庭的背景を知ることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【社会福祉援助技術のいくつかを知ることができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子ども家庭福祉	舩原 将太

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

子どもは守られながら育つものである。私たちは、こうした認識が成立して以後の社会を生きている。こうした認識をさらに拡張し、現代における児童福祉を示す言葉が「子ども家庭福祉」である。本講義は、子どもだけでなく子どもの居場所である家庭にまで射程を広げた福祉のあり方について理解を深めることを目的としている。子どもや家庭を支援するとき、この視点は極めて多様なものであることは言うまでもない。本講義では、子ども家庭福祉の原理、歴史、法制について多面的な視点から提示しながら、学習を進めていくことになる。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション：授業の概要、授業評価の説明	月　日	出・欠
2	子ども家庭福祉とは何か：理念の検討	月　日	出・欠
3	子どもの権利と親権について	月　日	出・欠
4	子ども家庭福祉の援助者について	月　日	出・欠
5	子ども家庭福祉の歴史①（日本について）	月　日	出・欠
6	子ども家庭福祉の歴史②（海外について）	月　日	出・欠
7	子ども家庭福祉の視点①（保育）	月　日	出・欠
8	子ども家庭福祉の視点②（子育て支援と母子保健政策）	月　日	出・欠
9	子ども家庭福祉の視点③（児童虐待）	月　日	出・欠
10	子ども家庭福祉の視点④（社会的養護）	月　日	出・欠
11	子ども家庭福祉の視点⑤（少年犯罪）	月　日	出・欠
12	子ども家庭福祉の視点⑥（障害理解と支援）	月　日	出・欠
13	子ども家庭福祉の視点⑦（貧困の現状）	月　日	出・欠
14	子ども家庭福祉の視点⑧（多文化共生と外国籍の子どもとその家庭）	月　日	出・欠
15	まとめと振り返り：子ども家庭福祉の重要性	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、振り返り、課題（小テスト）、発表、ミニッツペーパー

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習（シラバスを読み記載内容について調査）【2時間/週】 ・復習（配布資料の読み直し）【2時間/週】	受講態度・姿勢30％、小テスト20％、 定期試験（試験60分、解説30分）50％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　指定しない。講義時に配付するレジュメをもとに授業を進めていく。
【参考文献】　講義時に、適宜指示する。
【持参物】　各回の配付資料はファイリングし、毎回持参すること。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	後期	卒幼保	C12syh10	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	現代社会における子ども家庭福祉の重要性について理解する。
到達目標(2)	子ども家庭福祉の関わる法制、条約、諸制度についてその関連性と共に理解する。
到達目標(3)	現代の親子が置かれる状況を知り、福祉専門職の重要性について理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【現代の親子が置かれる状況を知り、福祉専門職の重要性について理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【子ども家庭福祉の関わる法制、条約、諸制度についてその関連性と共に理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【現代の親子が置かれる状況を知り、福祉専門職の重要性について理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
児童文化Ⅱ	朝倉 なぎさ

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・幼児の生活の中心は遊びであり、それはこの時期に固有の児童文化を形成する。本授業では、様々な児童文化財のうち、素話（おはなし）、紙芝居、ペープサート、パネルシアター、手袋シアターを取り上げ、理論的考察及び実演を通して児童文化に関する理解を深めるとともに保育現場における実践的力量を育成する。また、ICTの活用として児童文化財の動画作りにも取り組む。
・前期同様、製作活動の際は私語をせず集中して取り組みましょう。
・課題についてのフィードバックについては、小テスト終了後、講評及び振り返りを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	児童文化財としての紙芝居と素話（おはなし）	月　日	出・欠
2	パネルシアターの絵人形製作（1）　下書き	月　日	出・欠
3	パネルシアターの絵人形製作（2）　彩色（人形大）	月　日	出・欠
4	パネルシアターの絵人形製作（3）　彩色（人形小）	月　日	出・欠
5	パネルシアターの絵人形製作（4）　彩色（仕上げ）	月　日	出・欠
6	パネルシアターの絵人形製作（5）　ふち取り	月　日	出・欠
7	パネルシアターの絵人形製作（6）　仕掛け	月　日	出・欠
8	パネルシアターの絵人形製作（7）　仕上げ	月　日	出・欠
9	パネルシアターの実演練習と発表	月　日	出・欠
10	児童文化財の動画作り　（ICTの活用）	月　日	出・欠
11	ペープサートの製作（1）　彩色	月　日	出・欠
12	ペープサートの製作（2）　仕上げと発表	月　日	出・欠
13	手袋シアターの製作（1）デザイン	月　日	出・欠
14	手袋シアターの製作（2）仕上げ	月　日	出・欠
15	手袋シアターの発表と後期のまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、小テストなど）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬シアターなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・児童文化財を製作する【30分/週】 ・多様な絵本を読む【30分/週】	製作・表現技能60％、小テスト20％（終了後、解説10分）、提出物10％、受講態度10％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　川勝泰介他編著『児童文化』萌文書林
その他、必要に応じてプリントを配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C12syh14	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○					

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育における「児童文化財」について、理解する。
到達目標(2)	児童文化財の動画作成ができる。
到達目標(3)	発表の際、保育者に求められる表現力が身についている。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育における「児童文化財」について、理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【児童文化財の動画作成ができる。】	(A・B・C・D)
(3)【発表の際、保育者に求められる表現力が身についている。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
音楽Ⅱ	赤川優子・井上美佳・川畑由紀子・竹内佳代・中村桂子・東尚子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育者として自分自身が楽しむことを大切にしながら個人に合わせた実技指導を行う。実技試験を行いアドバイスシートによるフィードバックを行う。

授業目標;基本的な歌唱活動の指導ができる。基本的な合奏活動を体験する。授業形態;一斉授業(模擬歌唱活動・合奏指導)→グループレッスン(ピアノ実技指導)

到達目標;ピアノ初心者・・・コード奏弾き歌いレパートリーが10曲以上ある。(C:必須)
到達目標;ピアノ中級者A・・・コード奏弾き歌いレパートリーが15曲以上ある。(C:　F:　必須)
到達目標;ピアノ中級者B・・・コード奏弾き歌いレパートリーが20曲以上ある。(C:　F:　G:　必須)
到達目標;ピアノ上級者・・・コード奏弾き歌いレパートリーが30曲以上ある。(C:　F:　G:　D:　必須)

＊試験では、ピアノ曲1曲も課す。ピアノ曲課題については、「ソナチネ」・「アラベスク」・「バイエル」の中から担当講師が進度にあわせて選択する。

・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

※実務教員による授業科目。担当者赤川優子は元中学校、及び高等学校教諭、井上美佳は元中学校教諭であり、その経験を生かして本授業を担当し,受講者は学習成果に掲げる「音楽の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる」を獲得することができる。

	授業内容・計画(一斉　井上)	初心者	中級者A	中級者B	上級者	実施日	出欠
1	オリエンテーション・コードについてC:	夏課題曲　確認テスト				月　日	出・欠
2	楽典(音階・コードについてC:F:)	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	月　日	出・欠
3	歌唱指導法実施説明・楽典(調・コードについてC:F:G:)	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	月　日	出・欠
4	楽典(調・コードについてC:F:G:D:)	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	月　日	出・欠
5	歌唱活動実施①・移調について	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	各調カデンツ、ピアノ曲	月　日	出・欠
6	歌唱活動実施②・移調課題①	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
7	歌唱活動実施③・移調課題②	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
8	合奏指導法(ウィンターコンサート・計画)	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
9	合奏指導法(ウィンターコンサート・個人練習)	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏C:F:G:、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
10	合奏指導法(ウィンターコンサート・パート練習)	コード奏C:ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏C:F:G:、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
11	合奏指導法(ウィンターコンサート・全体練習)	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏C:F:、ピアノ曲	コード奏C:F:G:、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
12	歌唱活動実施④・移調課題③	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
13	歌唱活動実施⑤・移調課題④	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
14	歌唱活動実施⑥・移調課題レポート仕上げ	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	コード奏各調、ピアノ曲	月　日	出・欠
15	後期筆記プレ試験	試験対策	試験対策	試験対策	試験対策	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習(シンク・ペア・シェア)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・課題を1日20分以上【120分以上/週】	筆記試験(試験60分・解説30分)・・・楽典・曲名理解・合奏指導法・歌唱指導法　20% 実技試験(1人3分程度)・・・ピアノ曲1曲　20%　弾き歌い1曲　20% 授業内課題・課題リスト達成率・授業態度　40%　　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】『保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト』カワイ出版
『幼児のための音楽教育』教育芸術社
『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻　第2巻』Gakken
【持参物】 ファイル、課題リスト

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C12syh16	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	コードについて理解し、コード奏ができる。
到達目標(2)	合奏指導法・歌唱指導法の基礎を知り，取り組むことができる。
到達目標(3)	試験で　　が弾け、コード奏レパートリーが　　曲以上ある。(空欄はグループごとに各自で記入する)

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【コードについて理解し、コード奏ができる。】	(A・B・C・D)
(2)【合奏指導法・歌唱指導法の基礎を知り，取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【試験で　　が弾け、コード奏レパートリーが　　曲以上ある。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
図画工作Ⅱ	鷲﨑 公彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目では「絵画技法と手作りおもちゃ」をテーマに、水彩絵の具と身近な素材を用いた造形活動を行う。
・絵画技法と手作りおもちゃに関する材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法について学習する。なお、図画工作Ⅰに引き続き、美的情操についても継続的に養い、保育現場で活かせる能力の向上をねらいとする。
・フィードバックの方法については授業の各回で解説を加え、活動の節目ごとに発表、振り返りカードの提出と添削などを行う。学内展示による相互鑑賞にも取り組む。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	制作活動1【絵画技法を用いた素材作り①（スタンピング）】	月　日	出・欠
3	制作活動1【絵画技法を用いた素材作り②（ドリッピング・デカルコマニー）】	月　日	出・欠
4	制作活動1【絵画技法を用いた素材作り③（スクラッチ・フロッタージュ）】	月　日	出・欠
5	制作活動1【絵画技法を用いた素材作り④（バチック・にじみ）】	月　日	出・欠
6	制作活動1【絵画技法を用いた素材作り⑤（マーブリング・コラージュ）】	月　日	出・欠
7	制作活動2【クリスマスツリー制作①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
8	制作活動2【クリスマスツリー制作②（飾り付け）】	月　日	出・欠
9	制作活動2【クリスマスツリー制作③（発表）】	月　日	出・欠
10	制作活動3【手作りおもちゃ①（ネックレス作り）】	月　日	出・欠
11	制作活動3【手作りおもちゃ②（糸電話作り）】	月　日	出・欠
12	制作活動4【手作りおもちゃの博物館①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
13	制作活動4【手作りおもちゃの博物館②（制作）】	月　日	出・欠
14	制作活動4【手作りおもちゃの博物館③（完成）】	月　日	出・欠
15	制作活動4【手作りおもちゃの博物館④（発表）】	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習）、振り返り（振り返りシート、リアクションペーパー）、協同学習（グループワーク）、発表（プレゼンテーション）、eラーニング

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として次回授業の事前学習、事前準備を行う。【30分/週】 ・復習としてスケッチブック整理と制作活動の補填を行う。【30分/週】	平常点（学習態度20%、振り返りカード20%）、 成果物（スケッチブック30%、作品30%）（提出後、解説10分）、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】【参考文献】 授業内で必要に応じて資料プリントを適宜配付する。
【持参物】 授業内で必要に応じて準備物を適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	1年次	後期		C12yh20	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	絵画技法と手作りおもちゃに関する基礎的な知識と技能を身に付け、制作活動に取り組むことができる。
到達目標(2)	絵画技法と手作りおもちゃを通して造形表現の喜びを感じ取り、感性やコミュニケーション力を豊かに高めることができる。
到達目標(3)	スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【絵画技法と手作りおもちゃに関する基礎的な知識と技能を身に付け、制作活動に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【絵画技法と手作りおもちゃを通して造形表現の喜びを感じ取り、感性やコミュニケーション力を豊かに高めることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
幼児体育Ⅰ	西本 裕子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業概要】
・模擬授業内を行い、分かりやすい説明の仕方や配慮,安全面の確保の仕方を学ぶ。
・幼児期の運動あそびの必要性を学び、指導者として立ち振る舞い及び、運動指導法を学ぶ。
・楽器でリズム遊びをしながら体を動かすことも授業内で取り入れるため、ピアノで簡単なリズムや曲を弾く。
【注意事項】
・安全のため、装飾品（ピアス・ネックレス・金属系の髪留め・時計）はつけない。爪は伸ばさない。長い髪は、後ろで束ねる。
・指導者として自覚をもった姿勢で受講する事。（言葉使い・態度・過度な茶髪禁止）
【フィードバック】
・テキストは、予習で要約しておく。授業内で、テキストの内容をより深める。
・試験は筆記試験終了後に解説を行う。また、実技実践は、発表後にルーブリックにて自己評価する。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション・幼児期運動指針について	月　日	出・欠
2	集合・整列の仕方、準備体操の指導法　／幼児期の運動あそびの必要性（健康と運動）	月　日	出・欠
3	投げ遊びの指導法　／幼児期の運動あそびの必要性（運動能力の低下と原因）	月　日	出・欠
4	幼児の運動あそびにおける指導法（歩く・走る・跳ぶ）　／指導案（展開）の書き方	月　日	出・欠
5	幼児の集団遊びにおける留意点（鬼ごっこ）　／身体発達	月　日	出・欠
6	幼児の集団遊びにおける留意点（リレー競争）　／アレルギー	月　日	出・欠
7	集団あそびの模擬授業発表　／動きの発達と運動	月　日	出・欠
8	リレーあそびの模擬授業発表　／社会性の発達と運動	月　日	出・欠
9	用具を使ったあそびの模擬授業発表　／知的な発達と運動	月　日	出・欠
10	サーキットあそびの模擬授業発表　／遊びの中の運動	月　日	出・欠
11	鬼あそびあそび模擬授業発表　／動機づけと運動	月　日	出・欠
12	室内運動あそびの模擬授業　／一斉活動と自由遊び	月　日	出・欠
13	じゃんけん遊び　／運動指導のポイント（動きのバリエーション）	月　日	出・欠
14	伝承遊び　／運動指導のポイント（運動あそびの安全面）	月　日	出・欠
15	幼児期の運動あそびの必要性（現代課題・怪我の応急処置）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

シミュレーション型学習（模擬授業）・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習としてテキストを6ページ、要約してノートにまとめておく。【30分/週】 ・運動あそびを調べ学習し模擬授業の指導案を作成する。【1時間】 ・復習として、授業内容をノートにまとめる。【30分/週】 ・ピアノの練習【30分／週】	授業態度（発表を含む）15％、定期試験（試験60分・解説30分）70％、提出物（ノート、プリント）15％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩崎洋子編『保育と幼児期の運動遊び』萌文書林
【参考文献】文部科学省幼児期運動指針
【持参物】　体操服（シャツ、パンツ）・体育館シューズ・テキスト・ノート・筆記用具

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C12syh22	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	○	◎	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	指導者としての立ち振る舞い・言葉遣いができる。
到達目標(2)	子どもの運動発達を知り、指導することができる。
到達目標(3)	子どもに分かりやすくルールを伝え楽しく遊べる環境をつくることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【指導者としての立ち振る舞い・言葉遣いができる。】	(A・B・C・D)
(2)【子どもの運動発達を知り、指導することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【子どもに分かりやすくルールを伝え楽しく遊べる環境をつくることができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
レクリエーション理論	水鶏口 陽一

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

レクリエーションとは、人間の生活の中においてとても重要な役割と機能をもっている。レクリエーションとは人の生活の質を向上させ、生活の様々な場面で人々を結び付ける機能をもっている。これは、豊かな社会を構築するために不可欠なものである。また、レクリエーション活動によって、人々に笑顔が生まれる。笑顔のもたらす効能は人間にとって、高い幸福感をもたらすことが実証されている。本講義では、レクリエーション支援者としてレクリエーション活動の基礎理論、心の元気づくり、支援論、プログラムの作成を中心に必要な知識・技能を学習する。
・資格取得を目指しているため、意欲ある態度で授業に参加すること
・課題についての振り返り、フィードバックについては、個人レポート提出後、講評と解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション（レクリエーションの意義とインストラクターの資格について）	月　日	出・欠
2	レクリエーション支援（レクリエーション支援とインストラクターの役割について）	月　日	出・欠
3	楽しさと心の元気づくりの理論①（楽しさをとおした心の元気づくりについて）	月　日	出・欠
4	楽しさと心の元気づくりの理論②（対象者の心の元気について）	月　日	出・欠
5	楽しさと心の元気づくりの理論③（心の元気と地域のきずなについて）	月　日	出・欠
6	レクリエーション支援の理論①（コミュニケーションと信頼関係づくりについて）	月　日	出・欠
7	レクリエーション支援の理論②（良好な集団づくりとホスピタリティについて）	月　日	出・欠
8	レクリエーション支援の理論③（自主的、主体的に楽しむ力を育む理論について）	月　日	出・欠
9	レクリエーション支援の理論④（ハードル設定とCSSプロセスについて）	月　日	出・欠
10	安全管理の方法（対象者別の安全管理の方法について）	月　日	出・欠
11	レクリエーションプログラムの立案方法	月　日	出・欠
12	レクリエーションプログラムの作成	月　日	出・欠
13	レクリエーションプログラムの発表	月　日	出・欠
14	レクリエーションプログラムの発表と振り返り	月　日	出・欠
15	レクリエーション理論のまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・実技、実習 ・問答法、コメントを求める ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど） ・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬授業）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
レクリエーションの遊びを調べる【60分/週】 レクリエーションプログラムの作成【90分/週】 レクリエーション活動の教材づくり【90分/週】	受講態度30％、課題・レポート提出20％ 定期試験(試験60分・解説30分)50％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　必要に応じて、資料配付または資料を紹介する。
【参考文献】日本レクリエーション協会『楽しさをとおした心の元気づくり』

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	1年次	後期		C12n29	レクリエーションインストラクター資格(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	○	○	◎	○	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解する。
到達目標(2)	レクリエーションの意義や使命、レクリエーション支援について説明できる。
到達目標(3)	レクリエーションプログラムの立案ができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【レクリエーション活動がもたらす楽しさを理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【レクリエーションの意義や使命、レクリエーション支援について説明できる。】	(A・B・C・D)
(3)【レクリエーションプログラムの立案ができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
障害児保育	竹下 徹

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児を支える保育の実際について学びます。障害児その他の特別な配慮を要する子どもへの援助配慮をはじめ、個々の発達を促す環境構成の考え方や家庭及び関係機関と連携した支援方法など、保育者に必要とされる資質・能力を養います。
・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育実践に必要となる保育者の資質・能力の理解に努め、積極的な態度で授業に参加してください。オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・レポート課題は、レポート作成に係るルーブリック評価に基づき、フィードバックをおこないます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、障害児保育を支える理念① (「障害」の概念と障害児保育歴史的変遷)	月　日	出・欠
2	障害児保育を支える理念② (障害のある子どもの地域社会への参加・包容(インクルージョン)及び合理的配慮の理解と障害児保育の基本)	月　日	出・欠
3	障害児等の理解と保育における発達の援助① (肢体不自由児及び知的障害児の理解と援助)	月　日	出・欠
4	障害児等の理解と保育における発達の援助② (視覚障害・聴覚障害・言語障害児、重症心身障害児、医療的ケア児等の理解と援助の理解と援助)	月　日	出・欠
5	障害児等の理解と保育における発達の援助③ (発達障害児等の理解と援助)	月　日	出・欠
6	障害児等の理解と保育における発達の援助④ (被虐待児童に対する理解と援助)	月　日	出・欠
7	障害児等の理解と保育における発達の援助⑤ (DV家庭の児童をはじめ、その他の特別な配慮を要する子どもの理解と援助)	月　日	出・欠
8	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際① (支援計画の作成と発達を促す生活や遊び環境)	月　日	出・欠
9	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育の実際② (障害児保育における子どもの健康と安全、職員間の連携・協働)	月　日	出・欠
10	家庭及び自治体・関係機関との連携①(保護者や家族に対する理解)	月　日	出・欠
11	家庭及び自治体・関係機関との連携②(保護者・子育て支援の意義と実際)	月　日	出・欠
12	家庭及び自治体・関係機関との連携③(障害児と家庭を支える多様な関係機関との連携)	月　日	出・欠
13	障害児に対する福祉の法律・制度①(児童福祉法等)	月　日	出・欠
14	障害児への教育・保育・福祉の法律と制度②(障害者総合支援法)	月　日	出・欠
15	障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(演習、小テスト、レポートなど)・問答法、コメントを求める・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として、次回予告する授業内容を確認し、教科書の該当ページを通読しておくこと【30分/週】。 ・復習として、授業で説明した教科書や配布資料を再度確認し、重要な概念、専門用語を整理しておくこと【30分/週】。	小レポート(フィードバックを含む)10% 小テスト(提出後解説20分)10% レポート課題(フィードバックを含む)80%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　立花直樹ほか編『特別支援教育と障害児保育の保育・福祉』、ミネルヴァ書房
【参考文献】　保育所保育指針解説(平成30年3月 厚生労働省)
【持参物】　筆記用具、配付資料、その他の必要となる持参物は授業内で適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	1年次	後期	保	C12h27	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)

到達目標(1)	障児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育実践を展開するための保育者の資質・能力について説明できる。
到達目標(2)	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画が作成でき、援助の具体的な方法について説明できる。
到達目標(3)	障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働のポイントについて説明できる。また障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【障児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育実践を展開するための保育者の資質・能力について説明できる。】 (A・B・C・D)

(2)【障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画が作成でき、援助の具体的な方法について説明できる。】 (A・B・C・D)

(3)【障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働のポイントについて説明できる。また障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について説明できる】 (A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育・保育の心理学Ⅱ	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、保育実践の基礎となる知識として、教育・保育の心理Ⅰを発展させ、さらに子どもの身体的成長や運動機能の発達、自我の発達、大人とのかかわりを基盤とする仲間関係の発達などについて理解する。さらに、子ども理解に基づく適切な発達支援を行うために必要となる知識や技術について学習する。
・履修上の注意事項として、本授業では心理学の専門用語が多く出てくるので、それらの理解を助けるために予習課題、復習課題をきちんとやり遂げて授業に臨んでほしい。
・課題等のフィードバックについては、授業の中で解説や全体の講評を行う。
・前半は教育・保育の心理Ⅰで学んだ内容をさらに深めていく知識取得を主とし、後半は、より保育の実際を意識して子ども発達課題についてグループワークと発表を行う。ICT活用も取り入れる。
・GoogleClassroom、オープン教材等を活用し、授業後の振り返りや生活の予習・復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、胎児期の発達	月　日	出・欠
2	新生児期の身体と運動機能の発達	月　日	出・欠
3	乳幼児期の身体と運動機能の発達	月　日	出・欠
4	人との相互的かかわり（愛着の形成と社会的相互作用）	月　日	出・欠
5	保育者との愛着・基本的信頼感の形成	月　日	出・欠
6	自我と自己、自我の誕生・拡大、自我の充実・第一反抗期	月　日	出・欠
7	自己自制と自己形成視	月　日	出・欠
8	子どもの認知・思考の発達	月　日	出・欠
9	子どもの生活や遊びと学び	月　日	出・欠
10	子どもの発達課題理解と援助①　気になる子ども、発達障がい	月　日	出・欠
11	子どもの発達課題理解と援助②　気になる子ども、ストレス	月　日	出・欠
12	発達障がい児（自閉症スペクトラム症）の理解と発達援助（グループワーク）（ICT活用を含む）	月　日	出・欠
13	発達障がい児（ADHD）の理解と発達援助（グループワーク）（ICT活用を含む）	月　日	出・欠
14	発達障がい児（LD）の理解と発達援助（グループワーク）（ICT活用を含む）	月　日	出・欠
15	発表（ICTによるプレゼンテーション）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習（グループワーク）・ディスカッション・発表（プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
毎回予習課題と復習課題を提示する。　自主学習として調べ学習 ・予習課題（専門用語の意味調べ等）【30分/週】 ・復習課題（学習内容のまとめ、発展課題等）【30分/週】	グループワーク成果40％と発表30％、 受講態度（発表等）10％、 ノートと課題（提出後、解説10分）20％　　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　沼山博・三浦主博編著『子どもとかかわる人のための心理学』萌文書林

【参考文献】適宜プリントを配付。
【持参物】　テキスト、ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	幼保	C13yh05	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○		◎	○	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	乳幼児の心身の発達についての基礎的知識を身につける。
到達目標(2)	乳幼児の認知の発達についての基礎的知識を身につける。
到達目標(3)	乳幼児の発達および支援の基礎となる考え方を理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【乳幼児の心身の発達についての基礎的知識を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【乳幼児の認知の発達についての基礎的知識を身につける。】	(A・B・C・D)
(3)【乳幼児の発達および支援の基礎となる考え方を理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育課程と保育の計画・評価	舩原 将太

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

当たり前のことであるが、保育とは行き当たりばったりの営みではなく、緻密な計画の編成から開始されるものである。本講義では、保育に関する歴史的変遷を追っていくとともに、現在の保育に関する法制の重要な要素への理解を深めていく。重要な要素とは①「保育の目標・目的」、②「保育における計画とカリキュラム・マネジメント」、③「現代社会に求められる保育の姿」である。本講義ではこれら三つの要素の内実を描画し、保育に関する計画や教育課程についてその構造を示していく。また、実践において重要となる指導計画（案）作成について重要となる点についても解説を施していく。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション（授業概要及び授業評価の紹介）	月　日	出・欠
2	日本における保育の歴史的変遷について（明治以降の保育に関する規定の紹介）	月　日	出・欠
3	現在の保育所保育指針等について（平成29年度改訂の意義）	月　日	出・欠
4	教育課程と保育の全体的な計画について	月　日	出・欠
5	カリキュラム・マネジメントとPDCAサイクルにおける子ども理解の重要性	月　日	出・欠
6	教育課程・保育の全体的な計画の構成①長期・短期の指導計画	月　日	出・欠
7	長期的な指導計画の作成（0歳～2歳）	月　日	出・欠
8	長期的な指導計画の作成（3歳以上児）	月　日	出・欠
9	短期的な指導計画の作成（0歳～3歳以上児）	月　日	出・欠
10	幼保小接続を意識した計画の作成	月　日	出・欠
11	異年齢保育の指導計画	月　日	出・欠
12	保育における記録と省察の意義	月　日	出・欠
13	指導案の作成	月　日	出・欠
14	指導案に基づく模擬保育とフィードバック	月　日	出・欠
15	まとめとふりかえり：計画作成の意義について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、振り返り、課題（小テスト）、発表、ミニッツペーパー

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・復習（レジュメ・授業ノート整理）【2時間/週】 ・予習（指導案作成にむけての活動立案作成）【2時間/週】	受講態度・姿勢30％、小テスト（解説10分含む）40％、指導案30％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）
【参考文献】　適宜、配付する。
【持参物】　各回の配付資料はファイリングし、毎回持参すること。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	1年次	後期	幼保	C13yh08	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		◎	○	◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育における全体的な計画及び教育課程の意義について理解する。
到達目標(2)	保育計画の編成における評価・改善の意義について理解する。
到達目標(3)	子ども理解に基づく省察の視点をもち、指導計画の作成及び実践ができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育における全体的な計画及び教育課程の意義について理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【保育計画の編成における評価・改善の意義について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【子ども理解に基づく省察の視点をもち、指導計画の作成及び実践ができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容指導法（環境Ⅱ）	水鶏口 陽一

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・幼児の生きる力の基礎を培うために、どのような環境を設定し、援助すれば、幼児の遊びを豊かにしていくことができるかを、講義や園芸作業・製作等を通して指導法を学ぶ。
・領域環境のねらいを達成するには、子どもたちに携わる重要な時期を担う保育者自身が、この身近な様々な環境にまずは興味や関心を持ち理解し知識を持つことはとても大切なことである。そのため講義内においては学生の自主的・主体的な活動を取り入れながら学びにつなげていく。
・ESD、SDGsにおける教育のあり方に触れ、地球規模の課題に対しての倫理的な判断や社会正義に基づく行動をとおして、幼児教育に落とし込む方法と保育実践指導内容を学ぶ。
・試験についての振り返り、フィードバックについては、試験後に解説を設ける。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てていく。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	領域「環境」の指導方法：ねらい及び内容及び全体構想	月　日	出・欠
2	領域「環境」の指導方法：情報機器及び教材の活用法	月　日	出・欠
3	領域「環境」の指導方法：現代的課題と保育実践の動向	月　日	出・欠
4	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と領域「環境」	月　日	出・欠
5	サツマイモの収穫に向けて①（支援の方法を学ぶ）	月　日	出・欠
6	サツマイモの収穫に向けて②（園児との体験と観察）	月　日	出・欠
7	サツマイモの収穫に向けて③（振り返りと評価）	月　日	出・欠
8	保幼小連携～スタートカリキュラムから	月　日	出・欠
9	園での栽培について①～病害虫対策や日頃の管理	月　日	出・欠
10	園での栽培について②～園児と行う料理活動	月　日	出・欠
11	伝統的な遊び～園での展開の仕方	月　日	出・欠
12	伝統的な遊び～製作と体験	月　日	出・欠
13	領域「環境」と保育実践①指導案の作成	月　日	出・欠
14	領域「環境」と保育実践②模擬保育を通して	月　日	出・欠
15	ESD、SDGsの理解と環境教育　後期授業のまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・実験、実技、実習・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート、リアクションペーパーなど）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、ポスターセッション、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
四季折々の身の回りにある植物や動物に関わるとともに、外出時は特に自然の美しさや不思議さに関心を持つ。【1時間/週】	受講態度20％、課題・作品20％、 定期試験（試験60分・解説30分）60％　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】上中修編著『保育実践に生かす保育内容「環境」』保育出版社、柴崎正行編著『演習保育内容「環境」』建帛社
奥井智久・芦田宏編著『新子どもと環境　実技・実践編』三晃書房、小田豊・湯川英樹編著『保育内容「環境」』北大路書房
北村友人・佐藤真久編著『SDGs時代の教育』学文社、レイチェル カーソン著『沈黙の春』『センス・オブ・ワンダー』 新潮文庫
『環境教育指導資料』[幼稚園・小学校編]国立教育政策研究所教育課程研究センター

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	幼保	C13yh15	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○		◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	植物の特性や小動物の生態を知り、その栽培方法や飼育方法を理解し実践する。
到達目標(2)	身近な環境へ興味や関心を持ち、自主的・主体的に行動する。
到達目標(3)	ESD、SDGsにおける教育のあり方を学び、その意義を理解し実践する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【植物の特性や小動物の生態を知り、その栽培方法や飼育方法を理解し実践する。】	(A・B・C・D)
(2)【身近な環境へ興味や関心を持ち、自主的・主体的に行動する。】	(A・B・C・D)
(3)【ESD、SDGsにおける教育のあり方を学び、その意義を理解し実践する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
キャリア開発Ⅰ	西本裕子・水鶏口陽一・井上美佳・鷲﨑公彦 (講師:白木勲)

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業概要】
・「基礎ゼミナール」で学んだ知識や技能を基に、より具体的に社会人・保育者としての自覚を高め、就業力を身につける。
・社会人としての基本的教養やマナーを学ぶ。
・大学祭でのキッズルームやIwatan 親子フェスタの企画、運営、準備を通して、積極的に参加し、協働力を身につける。
【注意事項】
①報連相を行うこと社会人としてのマナーやスケジュールの管理などの基礎的な能力を身につけること。
②体調管理に留意し、欠席のないように心がけること
③提出物の期限を守ること
【フィードバック】
・実施および実践した活動後に振り返りを行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがある。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	オリエンテーション 総合的ガイダンス及びポートフォリオの継続的作成の確認	【就職ガイダンス/キャリア支援センター】 就職活動について(就職用個人写真) 20分	9月20日	出・欠
2	保育現場でよく使う漢字テスト①/大学祭準備(キッズルーム企画①)		9月27日	出・欠
3	保育現場でよく使う漢字テスト②/大学祭準備(キッズルーム準備②)		10月4日	出・欠
4	保育現場でよく使う漢字テスト③/－感染症予防とその対処方法－	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 就職希望調査②	10月11日	出・欠
5	保育現場でよく使う漢字テスト④大学祭に向けて準備(キッズルームの計画③)		10月18日	出・欠
6	保育現場でよく使う漢字テスト　本番/大学祭に向けて準備(キッズルームの準備④)		10月25日	出・欠
7	大学祭に向けて準備(キッズルームの準備⑤)		11月1日	出・欠
8	Iwatan 親子フェスタ①　計画・準備(1・2年生合同打合せ会)		11月8日	出・欠
9	大学祭に向けて－準備とリハーサル		11月15日	出・欠
10	客員教授 白木 勲先生による特別講義		11月22日	出・欠
11	教育実習Ⅰに向けて -2年生に体験談を聞く－	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 年賀状の書き方・進路希望調査 20分	11月29日	出・欠
12	Iwatan 親子フェスタ準備②(ブース・景品の決定・準備)	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 進路相談記録表 30分	12月13日	出・欠
13	ウィンターコンサートの準備とリハーサル	【就職ガイダンス／キャリア支援センター】 個別面談による就職支援の進め方 20分	12月20日	出・欠
14	ようこそ先輩！保育実践力養成講座(施設編)		1月10日	出・欠
15	Iwatan親子フェスタ1・2年生合同打ち合わせ③景品準備　/キャリア開発Ⅰまとめ		1月17日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

協同学習(グループワーク)・発表

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・幼児教育に関連する情報誌から新しい情報を得る【30分/週】 ・漢字の練習に取り組む【30分/週】	課題・レポート等提出物40%、 授業 への取り組みおよび授業態度60% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　適宜指示していきます。
【持 参 物】　岩国短期大学キャリア支援センター編(2024)『令和6年度就職の手引き』
岩国短期大学実習委員会編(2024)『令和6年度実習の手引き』
岩国短期大学学生部・キャリア支援センター編(2024)『令和6年度キャンパスガイドブック』配付したファイル

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	1年次	後期	卒幼保	C13syh38	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	◎	○	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	自分の就労に対する適性や進路を自覚し、明確な目標の実現に向けて努力することができる。
到達目標(2)	大学祭・Iwatan 親子フェスタの参加を通して、保育力の基礎を身につける。
到達目標(3)	学習記録の意義を理解し、継続して学習の記録を記載することができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【自分の就労に対する適性や進路を自覚し、明確な目標の実現に向けて努力することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【大学祭・Iwatan 親子フェスタの参加を通して、保育力の基礎を身につける。】	(A・B・C・D)
(3)【 学習記録の意義を理解し、継続して学習の記録を記載することができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
文章表現法Ⅱ	宮下 小百合

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・文章表現法Ⅰで修得した文章表現能力を基にして保育現場で求められる文章表現能力を身につけることを目指します。
また採用試験等で必要となる作文・小論文の作成について、「時間内に既定の文字数で作成する」ことに重点を置いて学習します。
・文章表現法Ⅰでの学習をふまえ、保育の現場で作成する、指導案や実習日誌等で用いる文章表現、言語表現について学びます。そして、保育者として働くということについて、自分自身に今一度問いかけてみることで、自分の目指す保育者像を具体化し、それを文章で表現することを通して、保育者となる意識や自覚を高めていきたいと考えます。
・レポート・課題についてのフィードバックは、提出後に解説を行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	自分の文章を見直す①　作文「1年生の反省と今後の目標」作成	月　日	出・欠
2	自分の文章を見直す②　相互評価を行う	月　日	出・欠
3	自己分析と履歴書作成　就職試験に向けて	月　日	出・欠
4	保育現場での文章表現①　実習日誌　書式の確認、ねらい・幼児の活動等	月　日	出・欠
5	保育現場での文章表現②　実習日誌　保育者・実習生の配慮、感想・考察等	月　日	出・欠
6	保育現場での文章表現③　保育の記録について	月　日	出・欠
7	作文・小論文の作成①　作文、小論文の構成について	月　日	出・欠
8	作文・小論文の作成②　課題1「めざす保育者像」作成	月　日	出・欠
9	作文・小論文の作成③　課題1「めざす保育者像」相互評価・清書	月　日	出・欠
10	作文・小論文の作成④　課題2「保育に関わる問題」 情報収集	月　日	出・欠
11	作文・小論文の作成⑤　課題2「保育に関わる問題」 資料作成、発表準備	月　日	出・欠
12	作文・小論文の作成⑥　課題2「保育に関わる問題」 発表	月　日	出・欠
13	作文・小論文の作成⑦　課題2「保育に関わる問題」 小論文作成	月　日	出・欠
14	採用試験対策①　論作文作成　自分の言葉で表現する	月　日	出・欠
15	採用試験対策②　論作文作成　時間と文字数を意識して	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（小テスト、レポート）、問答法、コメントを求める、協同学習（グループワークなど）、発表（プレゼンテーションなど）
振り返り（振り返りシートなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・硬筆の書写トレーニング　【30分/週】 ・授業後Google Classroomへ投稿する【30分/週】	レポート・課題提出80％（解説各10分）、 受講態度（積極的な取り組み）20％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林（文章表現法Ⅰから継続）
　　中塚翠涛『30日できれいな字が書けるペン字練習帳 』宝島社
【参考文献】『文章検　文章読解・作成能力検定　公式テキスト3級』日本漢字能力検定協会
【持参物】　テキスト、ペン字練習帳、鉛筆（Bまたは2B）、A4ファイル（文章表現法Ⅰから継続）

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C21syh03	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	◎		○	◎	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育現場等、場面に応じた簡潔で明瞭な文章表現ができる。
到達目標(2)	基本事項を理解して文章を作成することができる。
到達目標(3)	就職活動、実習等に必要な文章を作成することができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育現場等、場面に応じた簡潔で明瞭な文章表現ができる。】	(A・B・C・D)
(2)【基本事項を理解して文章を作成することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【就職活動、実習等に必要な文章を作成することができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
特別活動Ⅱ	朝倉なぎさ・宮下小百合・舩原将太・荒谷容子・赤川優子 （講師：浜桐陽子）

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・学校行事あるいは地域の行事への参加等を通して、地域に根差した大学のあり方を学ぶとともに、協調性を身につけ、地域貢献のできる将来の保育者としての資質を高める。また、1・2年生合同集会を通して、全学生が協力し、連帯感を高め、集団（職業人）の一人であることを自覚し、活気ある短大をめざすという校風を作るとともに、どんなことにも責任を持って事に当たる社会人としてのマナーを育てる。
・講義を受講するだけでなく、合同集会や学生行事、ボランティア活動、地域での行事に主体的に参加し、企画力・実践力・コミュニケーション力をみがいていくことを期待する。
・各行事や取り組みの終了後にフィードバックを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業後の振り返りやレポート提出、学生の予習、復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	前期オリエンテーションへの参加　（講話・履修説明）	月　日	出・欠
2	就職ガイダンスへの参加	月　日	出・欠
3	第1回1・2年生合同集会への参加	月　日	出・欠
4	避難訓練への参加	月　日	出・欠
5	就職ナビへの参加　①（就職先を知る）	月　日	出・欠
6	就職ナビへの参加　②（課題を見つける）	月　日	出・欠
7	学生交流会①（親睦を図る）	月　日	出・欠
8	学生交流会②（スポーツ大会）	月　日	出・欠
9	第2回1・2年合同集会への参加	月　日	出・欠
10	第1回保育者対象研修会への参加	月　日	出・欠
11	後期オリエンテーションへの参加（履修説明）	月　日	出・欠
12	クリーンプロジェクトへの参加	月　日	出・欠
13	第3回1・2年生合同集会への参加	月　日	出・欠
14	異文化交流	月　日	出・欠
15	大学祭リハーサル	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習など）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
行事等への準備等【30分/週】 行事等の振り返り活動【30分/週】	活動状況50％、参加態度50％　　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　特になし

【持参物】　　随時指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	実習	2年次	通年	卒幼保	C21syh15	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
○	○	○	◎	◎	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	就職に関するガイダンスに参加し、将来への視野を広げるとともに、具体的な準備を行うことができる。
到達目標(2)	学生行事に、積極的に協力しながら参加できる。
到達目標(3)	合同集会を通して、協調性や主体性及び社会人としてのマナーを身につける。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価
次のページに記入すること

授業科目名	担当者
特別活動Ⅱ	朝倉なぎさ・宮下小百合・舩原将太・荒谷容子・赤川優子 （講師：浜桐陽子）

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・学校行事あるいは地域の行事への参加等を通して、地域に根差した大学のあり方を学ぶとともに、協調性を身につけ、地域貢献のできる将来の保育者としての資質を高める。また、1・2年生合同集会を通して、全学生が協力し、連帯感を高め、集団（職業人）の一人であることを自覚し、活気ある短大をめざすという校風を作るとともに、どんなことにも責任を持って事に当たる社会人としてのマナーを育てる。
・講義を受講するだけでなく、合同集会や学生行事、ボランティア活動、地域での行事に主体的に参加し、企画力・実践力・コミュニケーション力をみがいていくことを期待する。
・各行事や取り組みの終了後にフィードバックを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業後の振り返りやレポート提出、学生の予習、復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
16	第4回1・2年生合同集会への参加	月　日	出・欠
17	大学祭への参加　前日祭　①（舞台発表）	月　日	出・欠
18	大学祭への参加　前日祭　②（準備）	月　日	出・欠
19	大学祭への参加　当日祭　①（模擬店運営）	月　日	出・欠
20	大学祭への参加　当日祭　②（催し物開催）	月　日	出・欠
21	大学祭への参加　当日祭　③（催し物参加）	月　日	出・欠
22	大学祭への参加　当日祭　④（掃除・後片付け）	月　日	出・欠
23	ウィンターコンサートへの参加	月　日	出・欠
24	第2回保育者対象研修会への参加	月　日	出・欠
25	Iwatan 親子フェスタへの参加　前日準備　①（会場設営）	月　日	出・欠
26	Iwatan 親子フェスタへの参加　前日準備　②（ブース設置）	月　日	出・欠
27	Iwatan 親子フェスタへの参加　前日準備　③（リハーサル）	月　日	出・欠
28	Iwatan 親子フェスタへの参加　当日　①（催し物運営）	月　日	出・欠
29	Iwatan 親子フェスタへの参加　当日　②（催し物参加）	月　日	出・欠
30	Iwatan 親子フェスタへの参加　当日　③（参加と後片付け）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習など）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
行事等への準備等【30分/週】 行事等の振り返り活動【30分/週】	活動状況50％、参加態度50％　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　特になし

【持参物】　随時指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	実習	2年次	通年	卒幼保	C21syh15	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	○	○	◎	◎	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	就職に関するガイダンスに参加し、将来への視野を広げるとともに、具体的な準備を行うことができる。
到達目標(2)	学生行事に、積極的に協力しながら参加できる。
到達目標(3)	合同集会を通して、協調性や主体性及び社会人としてのマナーを身につける。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【就職に関するガイダンスに参加し、将来への視野を広げ、具体的な準備を行うことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【学生行事に積極的に協力しながら参加できる。】	(A・B・C・D)
(3)【学年集会を通して、協調性や主体性及び社会人としてのマナーを身につける。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
英語コミュニケーション I	キャサリン 重岡

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

Using the textbook as a guide, students will practice conversations of interest to young adults, thus increasing their speaking and listening skills. We also aim to improve students' general communication skills.
In addition, the instructor will introduce elements of Western culture aimed at kindergarten teachers and students, through games, books, songs, crafts and presentations.
・テキストを使い若者が興味を持つ話題について話していきます。また同時にゲーム、本、歌、プレゼンテーションなどを使い、西洋の文化を紹介する等、保育者として将来役に立つ内容にします。簡単な英会話の入門クラスだと思って気軽に参加してください。課題についてのフィードバックについては、繰り返し行います。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	Unit 1: This Is My Classmate	月　日	出・欠
2	Unit 1: This Is My Classmate	月　日	出・欠
3	Unit 2: I Was Sleepy	月　日	出・欠
4	Unit 2: I Was Sleepy	月　日	出・欠
5	Unit 3: I Work Part-time on Weekends	月　日	出・欠
6	Unit 3: I Work Part-time on Weekends	月　日	出・欠
7	Unit 4: I Bought a New Shirt	月　日	出・欠
8	Unit 4: I Bought a New Shirt	月　日	出・欠
9	Unit 5: Are You Going to Study Abroad?	月　日	出・欠
10	Unit 5: Are You Going to Study Abroad?	月　日	出・欠
11	Unit 6: Is He Running?	月　日	出・欠
12	Unit 6: Is He Running?	月　日	出・欠
13	Unit 7: It's Yours	月　日	出・欠
14	Unit 7: It's Yours	月　日	出・欠
15	Review of Semester 1	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（ペアワーク、グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・音読【30分/週】 ・英単語の意味調べ等の準備が必要になります【30分/週】	授業での課題60％、受講態度40％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 English Illustrated (KINSEIDO)
【持参物】　毎回英語辞書または電子辞書、筆記用具

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	前期		C21n22	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
		○	○	◎	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	英語のリスニング能力が向上する。
到達目標(2)	英語のスピーキング能力が向上する。
到達目標(3)	コミュニケーション能力に対して自信がつく。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【英語のリスニング能力が向上する。】 (A・B・C・D)

(2)【英語のスピーキング能力が向上する。】 (A・B・C・D)

(3)【コミュニケーション能力に対して自信がつく。】 (A・B・C・D)

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子どもの保健	茶川 治樹

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・身体的に健康で、精神的にも健全な小児を育てることは大切である。それに必要な子どもの保健に関する基本的な知識を身につけてもらう。
・また、子供たちが発育の途上でおこりやすいさまざまな疾病、異常、障害などについての理解を深めることも大切である。
・将来、保育士や父親・母親としても充分に役立つように、その予防や対応の正しい方法を学習していただく。
・参考文献を随時提示するので必ず目を通すこと。
・資料はクリアファイルなどに整理して保管すること。
・注意しても睡眠、私語、携帯使用などが認められる場合は欠席扱いとなり、補講を受けなければならない。
・課題についての振り返り、フィードバックについては繰り返し行う。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問などを受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題	月　日	出・欠
2	子どもの身体発育と保健	月　日	出・欠
3	子どもの運動発達と保健	月　日	出・欠
4	子どもの生理機能の発達と保健	月　日	出・欠
5	子どもの健康状態の観察と保健	月　日	出・欠
6	子どもの心身の健康状態と保健　その1　（言語の発達）	月　日	出・欠
7	子どもの心身の健康状態と保健　その2　（社会性の発達）	月　日	出・欠
8	子どもの心身の不調等の早期発見　その1（身体の疾患）	月　日	出・欠
9	子どもの心身の不調等の早期発見　その2（精神の疾患）	月　日	出・欠
10	子どもの心身の健康と保護者との情報共有	月　日	出・欠
11	子どもの疾病の特徴　その1（身体の疾患）	月　日	出・欠
12	子どもの疾病の特徴　その2　（精神の疾患）	月　日	出・欠
13	子どもの事故の予防と適切な対応　その1　（誤飲と誤嚥）	月　日	出・欠
14	子どもの事故の予防と適切な対応　その2　（転落と溺水）	月　日	出・欠
15	授業全体のまとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、コメントを求める・課題（演習、レポートなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・前回授業の復習【4時間/週】毎回資料を配付して、それを参考に復習	定期試験（試験60分、解説10分）　90%、　受講態度　10%、 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　なし
【参考文献】　なし
【持参物】　なし

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	前期	卒幼保	C22syh06	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)(③基本的な技能を身につけて実践できる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤保育者として求められる能力や、基本的な知識を身についている)(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)(⑦ボランティア活動や行事への参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○			◎			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子どもの身体発育と運動発達を理解する。
到達目標(2)	子どもの心身の健康状態の特徴を理解する。
到達目標(3)	子どもの疾病の特徴とその対応を理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【子どもの身体発育と運動発達を理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【子どもの心身の健康状態の特徴を理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【子どもの疾病の特徴とその対応を理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子どもの食と栄養Ⅰ	安東 一美

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本演習では、栄養についての基本的知識を習得し、子どもが健やかに成長するために必要な栄養の摂取方法と好ましい食生活について学ぶ。また、食育の重要性を知り、家庭や地域と連携して食育を実践できる力を養う。
・履修上の注意事項としては、配付するプリント類はしっかりと保管し、復習の際に読み返すこと。
・課題・試験についてのフィードバックについては、定期試験では試験60分、解説30分とし、小テストではテスト10分、解説10分の時間配分とする。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問などを受け付ける。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	子どもの健康と食生活	月　日	出・欠
2	子どもの発育・発達と食生活①　子どもの発育の特徴	月　日	出・欠
3	子どもの発育・発達と食生活②　子どもの発育と栄養状態の評価	月　日	出・欠
4	子どもの発育・発達と食生活③　食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養	月　日	出・欠
5	栄養に関する基本的知識①　炭水化物	月　日	出・欠
6	栄養に関する基本的知識②　脂質	月　日	出・欠
7	栄養に関する基本的知識③　タンパク質	月　日	出・欠
8	栄養に関する基本的知識④　ビタミン	月　日	出・欠
9	栄養に関する基本的知識⑤　ミネラル	月　日	出・欠
10	栄養に関する基本的知識⑥　食事摂取基準	月　日	出・欠
11	食環境の変化と食育	月　日	出・欠
12	食育の内容と計画	月　日	出・欠
13	食育の実践①食育のための教材作り　学生による発表ACクラス(プレゼンテーション)	月　日	出・欠
14	食育の実践②食育のための教材作り　学生による発表BDクラス(プレゼンテーション)	月　日	出・欠
15	食育のための環境	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト）、実技・実習、コメントを求める、発表（プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・栄養素の種類や働きについて調べる【20分/週】 ・食に関する本や新聞を読み、知識を深める【20分/週】 ・食育に関する絵本を読む。食育の教材を作る【20分/週】	定期試験（試験60分、解説30分）50％、受講態度20％、 小テスト（試験10分・解説10分）30％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　『子どもの食生活（第7版）』ななみ書房、『八訂 食品成分表 2024』女子栄養大学出版部
【参考文献】『子どもの食と栄養』萌文書林、『日本人の食事摂取基準』第一出版
『最新子どもの食と栄養』学建書院、『病気がみえる③』メディックメディア

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C22syh08	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子どもの発育の特徴と栄養状態の評価方法を理解する。
到達目標(2)	栄養素の種類と働きについて理解する。
到達目標(3)	食育の必要性を理解し、実践できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【子どもの発育の特徴と栄養状態の評価方法を理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【栄養素の種類と働きについて理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【食育の必要性を理解し、実践できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子育て支援	伊藤 己知代

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、保護者たちがどのような困難を抱えているかを理解した上で現代の家庭での養育機能の現状の本質を捉える。
・その背景から多様なニーズに対応するために、地域での子育て支援に携わる機関や社会資源とどのように連携や協働を強め、専門知識をもち子育て支援を実践することができるかを学ぶ。
・オフィス・アワーとして授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	子どもの保育とともに行う保護者の支援について	月　日	出・欠
2	日常的・継続的なかかわりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成について	月　日	出・欠
3	保護者や家庭のかかえる支援のニーズへの気づきと多面的な理解について	月　日	出・欠
4	子どもおよび保護者の状況・状態の把握について	月　日	出・欠
5	支援の計画と環境の構成について	月　日	出・欠
6	支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて	月　日	出・欠
7	職員間の連携・協働について	月　日	出・欠
8	社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働について	月　日	出・欠
9	保育所等における支援について	月　日	出・欠
10	地域の子育て家庭に対する支援について	月　日	出・欠
11	障害のある子どもおよびその家庭に対する支援について	月　日	出・欠
12	特別な配慮を要する子どもおよびその家庭に対する支援について	月　日	出・欠
13	子ども虐待の予防と対応について	月　日	出・欠
14	要保護児童等の家庭に対する支援について	月　日	出・欠
15	多様な支援ニーズをかかえる子育て支援家庭の理解について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題(演習、調査)・問答法、コメントを求める・振り返り(振り返りシート)・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・自分の考えを相手に伝える力を養う【20分/週】 ・書いて伝える技術をみがく【20分/週】 ・世界の保育情勢を知る【20分/週】	レポート・課題(提出後、解説30分)50%、 受講態度50%、　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　西村重稀・青井夕貴編集『子育て支援』中央法規
【持参物】　　色鉛筆　マーカー各色

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	保	C22h122	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		◎	◎	○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	現代の親子の姿を知る。
到達目標(2)	保育者の専門を生かし、支援の方法を学ぶ。
到達目標(3)	発達の気になる子どもとその家庭支援を考える。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【現代の親子の姿を知る。】	(A・B・C・D)
(2)【保育者の専門を生かし、支援の方法を学ぶ。】	(A・B・C・D)
(3)【発達の気になる子どもとその家庭支援を考える。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
音楽Ⅲ	赤川優子・井上美佳・川畑由紀子・竹内佳代・中村桂子・東尚子

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育者として自分自身が楽しむことを大切にしながら個人に合わせた実技指導を行う。実技試験を行いアドバイスシートによるフィードバックを行う。

一斉授業（担当　井上）　到達目標；歌唱指導法を学び援助方法の技法を学ぶ。

到達目標；ピアノ初級者・・・6月7月8月9月の歌唱指導のための弾き歌いレパートリーが10曲以上ある。

到達目標；ピアノ中級者・・・6月7月8月9月の歌唱指導のための弾き歌いレパートリーが15曲以上ある。

到達目標；ピアノ上級者・・・6月7月8月9月の歌唱指導のための弾き歌いレパートリーが20曲以上ある。

＊試験では、ピアノ曲1曲も課す。ピアノ曲課題については、「ソナチネ」・「アラベスク」・「バイエル」の中から担当講師が進度にあわせて選択する。

※実務教員による授業科目。担当者赤川優子は元中学校、及び高等学校教諭、井上美佳は元中学校教諭であり、その経験を生かして本授業を担当し,受講者は学習成果に掲げる「音楽の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる」を獲得することができる。

・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画（一斉　井上）	初級者	中級者	上級者	実施日	出欠
1	オリエンテーション・教材製作の目的	課題確認テスト（各々のピアノ曲・あめふりくまのこ）			月　日	出・欠
2	わらべうた研究（ジクソー法）・レポート作成	あめふりくまのこ	あめふりくまのこ・とけいのうた	あめふりくまのこ・とけいのうた	月　日	出・欠
3	わらべ歌を使った指導案作成・実施	とけいのうた	とんぼのめがね・こぎつね	とんぼのめがね・こぎつね・おばけなんてないさ	月　日	出・欠
4	「あめふりくまのこ」教材研究①	おばけなんてないさ	おばけなんてないさ	おばけなんてないさ	月　日	出・欠
5	「あめふりくまのこ」教材研究②	とんぼのめがね	とんぼのめがね・はをみがきましょう・あくしゅでこんにちは	とんぼのめがね・はをみがきましょう・あくしゅでこんにちは	月　日	出・欠
6	「あめふりくまのこ」教材研究③	こぎつね	かたつむり・大きな古時計・こぎつね	かたつむり・大きな古時計・こぎつね	月　日	出・欠
7	「とけいのうた」教材研究①	大きな古時計	すてきなパパ	すてきなパパ・犬のおまわりさん	月　日	出・欠
8	「とけいのうた」教材研究②	むすんでひらいて・かたつむり	山の音楽家・うみ・アイアイ	山の音楽家・うみ・アイアイ	月　日	出・欠
9	「おばけなんてないさ」教材研究①	たなばたさま	たなばたさま	たなばたさま・線路は続くよどこまでも	月　日	出・欠
10	「おばけなんてないさ」教材研究②	うみ・きらきらぼし	おつかいありさん・シャボン玉	おつかいありさん・シャボン玉・おはなしゆびさん	月　日	出・欠
11	「おばけなんてないさ」教材研究③	アイスクリームの歌	アイスクリームの歌	アイスクリームの歌	月　日	出・欠
12	「とんぼのめがね」教材研究①	こぶたぬきつねこ	こぶたぬきつねこ・ありさんのおはなし	こぶたぬきつねこ・ありさんのおはなし	月　日	出・欠
13	「とんぼのめがね」教材研究②	てをたたきましょう	手をたたきましょう・むすんでひらいて・幸せなら手をたたこう	手をたたきましょう・むすんでひらいて・幸せなら手をたたこう	月　日	出・欠
14	「こぎつね」教材研究①	おつかいありさん	とんでったバナナ・ピクニック・ぼくのミックスジュース	とんでったバナナ・ピクニック・ぼくのミックスジュース	月　日	出・欠
15	「こぎつね」教材研究②	6月～9月の曲	6月～9月の曲	6月～9月の曲	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（ジグソー法、グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・課題を1日20分以上【120分以上/週】	教材研究5課題30%　レポート10%　一斉授業受講態度10% 実技試験（1人5分～10分程度）・・・ピアノ曲10%　弾き歌い30% ピアノ授業課題リスト達成率・歌唱活動構成表・受講態度10% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】『保育士・幼稚園教諭小学校教諭養成のためのピアノテキスト』カワイ出版
『幼児のための音楽教育』教育芸術社
『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集　第1巻　第2巻』Gakken
【持参物】 ファイル、課題リスト

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	前期	幼保	C22yh17	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	○		○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	歌唱指導時の援助方法として，教材製作ができる。
到達目標(2)	レパートリーの中から初夏～晩夏にかけての季節にあった歌唱指導ができる。
到達目標(3)	授業で身につけた鍵盤楽器奏法を実習に活かせる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【歌唱指導時の援助方法として，教材製作ができる。】

(2)【レパートリーの中から初夏～晩夏にかけての季節にあった歌唱指導ができる。】

(3)【授業で身につけた鍵盤楽器奏法を実習に活かせる。】

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
幼児体育Ⅱ	西本 裕子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業概要】
・運動あそびの部分案の作成、受講者同士の実践、評価、改善を行い、運動あそびの用具づくりや指導方法の学びをより深め、実践力を高める。
・運動会の企画運営を通して、現場で役立つ実践力を身につけると共に、子ども達が楽しめる表現ダンスを考える。
・子どもが生活や遊びにおいてイメージを豊かにし、感性を養うための環境構成の仕方と安全面の知識と技術を深める。
【履修上の注意点】
・装飾品(ピアス・ネックレス・髪留め)はつけない。長い髪は後ろで束ねる。爪は伸ばさない。保育者になる自覚をもった上で授業に参加すること。態度や姿勢(服装・髪型・報告・相談・連絡)を重んじる。
【フィードバックについて】
・実践の発表後に、改善点などを見直す。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業や授業前後の予習・復習、振り返りに役立てることがある。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	オリエンテーション・幼児期運動指針　・運動あそびの指導法(導入のイメージづくり)		月　日	出・欠
2	リズムダンス／運動あそびの指導案添削①導入から展開へ	(グループワーク)	月　日	出・欠
3	リズムダンス／運動あそびの指導案実施②展開の仕方	(模擬授業)	月　日	出・欠
4	リズムダンス／運動あそびの指導案実施③指導の留意点の確認	(模擬授業)	月　日	出・欠
5	リズムダンス／運動あそびの指導案実施④	(模擬授業)	月　日	出・欠
6	運動会企画①(競技種目の調べ学習及び競技の決定)	(グループワーク)	月　日	出・欠
7	運動会企画②(役割分担決定)	(グループワーク)	月　日	出・欠
8	表現ダンス／運動会準備①　(団体競技ルール作成)	(グループワーク)	月　日	出・欠
9	表現ダンス／運動会準備②　(個人競技ルール作成)	(グループワーク)	月　日	出・欠
10	表現ダンス／運動会準備③　(準備体操作成)	(グループワーク)	月　日	出・欠
11	表現ダンス／運動会準備④　(団体競技リハーサル)	(グループワーク)	月　日	出・欠
12	運動会準備⑤　(個人競技リハーサル)	(グループワーク)	月　日	出・欠
13	運動会準備⑥　リハーサルから見えた問題点の改善	(グループワーク)	月　日	出・欠
14	運動会実施	(模擬授業)	月　日	出・欠
15	運動会事後評価(自己評価・考察)	(フィードバック)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習(グループワーク)・シミュレーション型学習(模擬授業)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
身近な素材での運動あそびや園児のダンスを考える。【30分/週】 運動あそびの指導案を作成する。【1時間】 運動会に必要な用具を製作する。【30分/週】	運動会実施40%、実技30% レポート・課題(授業内でフィードバックを行う)30%、 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 岩崎洋子編『保育と幼児期の運動遊び』萌文書林
【持参物】　体操服(シャツ、パンツ)・体育館シューズ・筆記用具・事前に指定されたもの

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	前期		C22yh23	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	運動会の企画・運営ができる。
到達目標(2)	子どものイメージを豊かにする運動あそび指導計画の作成・実践ができる。
到達目標(3)	子どもが楽しく踊れるダンスを作成し、教えることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【運動会の企画・運営ができる。】	(A・B・C・D)
(2)【子どものイメージを豊かにする運動あそび指導計画の作成・実践ができる。】	(A・B・C・D)
(3)【子どもが楽しく踊れるダンスを作成し、教えることができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
乳児保育Ⅰ	数井 智子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・乳児保育の現代的意義・目的・役割を理解することを根底として、乳児保育における養護と教育について理解する。3歳未満児の発育・発達の特徴を理解し、乳児の生活と遊びについて学ぶなかで保育士の関わりや援助、配慮に必要な知識や技能を習得する。そして、保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育や、家庭的保育における乳児保育の特徴について学び、それらの知識をもとに計画・記録・評価の重要性について理解する。また、乳児保育における保育者の専門性とはどのようなことなのかについて学びあい考察する。
・歌や手遊びなどの実践を通して保育を創造する楽しさを学ぶ。
・課題についてのフィードバックについては、レポート提出・小テスト終了後に説明を行う。
・オフィス・アワーとして授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
※実務教員による授業科目。担当者は公立保育所に長年勤務し、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能。保育現場で活かす実践力」を獲得することができる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	乳児保育の意義・目的	月　日	出・欠
2	「保育所保育指針」における乳児保育の理念と概念	月　日	出・欠
3	乳児保育の歴史	月　日	出・欠
4	乳児保育の基礎知識Ⅰ　－乳幼児の心の発達－	月　日	出・欠
5	乳児保育の基礎知識Ⅱ　－乳児保育に関わるねらい及び内容－	月　日	出・欠
6	乳児保育の基礎知識Ⅲ　－3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり－	月　日	出・欠
7	保育所・認定こども園における乳児保育Ⅰ　－乳児保育の物的環境と人的環境－	月　日	出・欠
8	保育所・認定こども園における乳児保育Ⅱ　－幼保連携型認定こども園における生活活動－	月　日	出・欠
9	保護者とのパートナーシップ－連絡帳・個人面談・保育参加など－	月　日	出・欠
10	乳児院における乳児保育	月　日	出・欠
11	家庭的保育等における乳児保育	月　日	出・欠
12	乳児保育が行われるそのほかの保育　－小規模保育事業・事業所内保育事業など－	月　日	出・欠
13	子育て支援における乳児保育	月　日	出・欠
14	職員間・地域の関係機関との連携	月　日	出・欠
15	まとめ / 乳児保育の現状と課題	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、小テスト、レポートなど）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
新聞・テレビ・雑誌などで子どもや育児、保育、保育園の話題を見つけて考察する。【90分/週】 自分の食生活を通じて離乳食・乳児食について研究する。【90分/週】身近な材料でおもちゃの手づくりをする。【1時間/週】	課題に対するレポート・小テスト（解説10分含む）40%、 受講態度40%、実技20%、 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　松本峰雄監修『乳児保育演習ブック』第2版　ミネルヴァ書房（平成31年4月30日）
幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】　必要に応じて適宜資料を配付
【持参物】　指定したもの

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	前期	保	C22h25	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	乳児の心身の発達特徴や過程について学び認識を深める。
到達目標(2)	保育者として必要な知識と技術を学び、子育てや保育の喜びにつなげる。
到達目標(3)	絵本の読み語りやおもちゃの手づくりを体験し保育を創造する楽しさを学ぶ。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【乳児の心身の発達特徴や過程について学び認識を深める。】	(A・B・C・D)
(2)【保育者として必要な知識と技術を学び、子育てや保育の喜びにつなげる。】	(A・B・C・D)
(3)【絵本の読み語りやおもちゃの手づくりを体験し保育を創造する楽しさを学ぶ。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
レクリエーション実習	水鶏口 陽一

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

地域で行われているレクリエーション事業の現場実習をとおして、レクリエーション支援者としての実践力を身に付ける。
レクリエーション科目で学習した理論と実技をもとに、レクリエーション協会主催の事業や地域の子ども、高齢者、障がい者へのボランティア活動などに積極的に参加し、人々と交流を重ね、スタッフやリーダーとしての経験を積む。
・活動に参加する際は時間を厳守し、ルールやマナーに気を付けること
・実習活動はスタッフとして活動するため、言葉使いや服装、態度に気を付けること
・各実習でスタッフ参加記録用紙を提出し押印してもらうこと。記録用紙は、内容を記載し担当教員に提出すること
・レクリエーション協会が実施している地域の事業に、参加回数5回(3時間×5回)または、外部実習3回以上で、時間数15時間以上スタッフとして参加すること
・学内の行事やイベントに運営スタッフとして1回以上参加すること
・課題についての振り返り、フィードバックについては、個人レポート提出後、講評と解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、実習事前指導(人間関係づくりのレクリエーション①)	月　日	出・欠
2	学内レクリエーション実習(人間関係づくりのレクリエーション②)	月　日	出・欠
3	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション①チームスポーツ)	月　日	出・欠
4	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション②球技ネット型)	月　日	出・欠
5	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション③球技ゴール型)	月　日	出・欠
6	レクリエーション実習事前計画	月　日	出・欠
7	地域での子どもとのレクリエーションの実践	月　日	出・欠
8	レクリエーション支援の評価、事後指導（地域での子どもとのレクリエーション）	月　日	出・欠
9	学内レクリエーション実習(スポーツレクリエーション④球技ベースボール型)	月　日	出・欠
10	学内レクリエーション発表(指導案の作成と評価の方法)	月　日	出・欠
11	第1回レクリエーションスタッフの参加(山口県レク協会主催)	月　日	出・欠
12	第2回レクリエーションスタッフの参加(広島県レク協会主催)	月　日	出・欠
13	第3回レクリエーションスタッフの参加(岩国市レク連盟主催)	月　日	出・欠
14	第4回レクリエーションスタッフの参加(市町村体育協会主催)	月　日	出・欠
15	第5回レクリエーションスタッフの参加(各地域の行事・イベント)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・実験、実技、実習 ・問答法、コメントを求める ・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
資格認定条件にあたる実習参加に関して、自分で情報を収集し計画する。参加後のレポートを作成する。【1時間/週】	スタッフ参加、(参加後、レポート提出)90%、 課題提出(2年次試験)10% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

・授業担当者が指定した事業・イベント等に運営スタッフとして参加すること。(資格認定条件)
・学内行事等に運営スタッフとして1回以上参加すること。
・地域のレクリエーション事業に参加回数5回(3時間×5回)または、外部実習3回以上で、時間数15時間以上参加すること。(資格認定条件)
・事業でのスタッフ参加は自費(交通費など)での参加となる。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	実習	1・2年次	通年		C12n31	レクリエーションインストラクター資格(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	◎	○	○	◎	○	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	地域の人たちにレクリエーション支援をすることができる。
到達目標(2)	行事に参加することで、レクリエーションインストラクターとしての役割を理解する。
到達目標(3)	活動に参加する際は、時間を厳守しルールやマナーを守ることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【地域の人たちにレクリエーション支援をすることができる。】 (A・B・C・D)

(2)【行事に参加することで、レクリエーションインストラクターとしての役割を理解する。】 (A・B・C・D)

(3)【活動に参加する際は、時間を厳守しルールやマナーを守ることができる。】 (A・B・C・D)

A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
特別支援教育と障害児保育（概論）	竹下 徹

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒を理解するための基本的視点を養います。また特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒を担任する視点及び保育所や障害児施設等においてにおいて子どもの支援を担当する視点から、保育・教育実践の展開に必要となる資質・能力及びその支援方法の実際ついて学びます。
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒理解とその支援方法の理解に努め、積極的な態度で授業に参加してください。オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・レポート課題は、レポート作成に係るルーブリック評価に基づき、フィードバックをおこないます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、障害の概念及び障害児保育を支える理念	月　日	出・欠
2	障害のある子どもの保育及び特別支援教育の現状	月　日	出・欠
3	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解①（障害のある子どもの理解）	月　日	出・欠
4	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解②（ハイリスクな子どもや虐待を受けた子ども理解）	月　日	出・欠
5	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解③（貧困問題をはじめ特別の教育・保育ニーズのある子どもの理解）	月　日	出・欠
6	特別の支援を必要とする子どもに対する支援（保育士・教師に求められる支援観・支援原則）	月　日	出・欠
7	障害のある子どもの支援計画	月　日	出・欠
8	子どもの発達特性と障害の早期発見の重要性	月　日	出・欠
9	子どもの発達特性と障害の早期発見のための留意点	月　日	出・欠
10	特別の支援を必要とする子どもを養育する家庭支援（保護者理解）	月　日	出・欠
11	特別の支援を必要とする子どもを養育する家庭支援（保育士・教師に求められる相談支援技術）	月　日	出・欠
12	特別の支援を必要とする子どもを養育する家庭支援（アセスメントと支援計画）	月　日	出・欠
13	特別の支援を必要とする子どもを支える特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携した支援体制	月　日	出・欠
14	障害児とその他の特別な配慮を要する子どもの保育に関わる現状と課題	月　日	出・欠
15	事例演習（障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握と支援方法）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、小テスト、レポートなど）・問答法、コメントを求める・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

・障害のある子どもの支援計画及び家庭に対する支援計画の作成（ICTの活用を含む）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として、次回予告する授業内容を確認し、教科書の該当ページを通読しておくこと【30分/週】。 ・復習として、授業で説明した教科書や配付資料を再度確認し、重要な概念、専門用語を整理しておくこと【30分/週】。	小レポート(フィードバックを含む)10% 小テスト(提出後解説20分)10% レポート課題(フィードバックを含む)80%　　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　武藤久枝・小川英彦編著『コンパス　障害児の保育・教育』建帛社
【参考文献】　立花直樹ほか編『特別支援教育と障害児保育の保育・福祉』ミネルヴァ書房
幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）
【持参物】　筆記用具、配付資料、その他の必要となる持参物は授業内で適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	幼保	C22yh28	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○	○	○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心理的特性や生活上の困難等について説明できる。
到達目標(2)	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について説明できる。
到達目標(3)	障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心理的特性や生活上の困難等について説明できる。】	(A・B・C・D)
(2)【特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について説明できる。】	(A・B・C・D)
(3)【障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援について説明できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育制度論	舩原 将太

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・学校とは何か。教育とは何か。こうした素朴な問いかけからこの講義を開始したい。本講義では、教育の場である学校を支える法制をもとに、教育の基本理念、学校制度、児童・生徒に関わる規定や規範を学習していく。とくに近年、幼保小の連携の重要性が指摘されていることからも、保育職を志す諸氏も、学校教育の体系に関する知識を修得することが求められる。こうした視点からも、学校教育をめぐる法制について精通した保育専門家の育成を目指すことが本講義の主たる目的となる。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション：講義の概要、授業評価について	月　日	出・欠
2	公教育成立の背景（社会構造の変化と教育の近代化）	月　日	出・欠
3	公教育の理念：義務制	月　日	出・欠
4	公教育の理念:無償制	月　日	出・欠
5	公教育の理念：中立性	月　日	出・欠
6	日本の教育制度の変遷	月　日	出・欠
7	日本の初等教育制度について（幼小連携含）	月　日	出・欠
8	教育に関する法規について	月　日	出・欠
9	教育行政について	月　日	出・欠
10	中間まとめ	月　日	出・欠
11	懲戒と体罰、出席停止	月　日	出・欠
12	学校安全について	月　日	出・欠
13	学校と地域の連携について	月　日	出・欠
14	教育行財政について（学校経営）	月　日	出・欠
15	まとめと振り返り（教育制度に対する理解度の確認）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、振り返り、課題（小テスト）、発表、ミニッツペーパー

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習（シラバスを読み記載内容について調査）【2時間/週】 ・復習（配付資料の読み直し）【2時間/週】	受講態度・姿勢30％、小テスト20％、定期試験（試験60分、解説30分）50％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）
【参考文献】　適宜、配付する。
【持参物】　各回の配付資料はファイリングし、毎回持参すること。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	後期	幼保	C23yh03	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎			○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	教員として必要な教育に関する法的・制度的仕組みについて理解する。
到達目標(2)	学校と地域の連携・協働、学校安全に関する基礎的知識を身につける。
到達目標(3)	公教育制度の意義・理念について理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【教員として必要な教育に関する法的・制度的仕組みについて理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【学校と地域の連携・協働、学校安全に関する基礎的知識を身につける。】	(A・B・C・D)
(3)【公教育制度の意義・理念について理解する。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
乳児心理学	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・乳幼児期は、人間の人格形成や知的発達にとって重要な時期である。乳幼児研究の発展と近年の急激な社会変化の中で、乳幼児を取り巻く教育的社会的状況も大きく変化している。
・本授業では、それら状況の変化を押さえながら、乳幼児の身体及び心理発達特徴の基礎を理解する。資料としてVTR視聴を取り入れ、乳幼児の実際を捉える。また、毎回乳幼児に伝わる絵本読みを課し、受講生同士で講評し合うとともに、保育実践の心構えを作っていく。
・履修上の注意事項として、内容に関して気軽に意見や感想を交換しながら双方向授業を進めていく。
・課題についてのフィードバックについては、レポート提出後に授業内でする。
・GoogleClassroom、オープン教材等を活用し、学生の予習・復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、乳幼児期をどうとらえるか	月　日	出・欠
2	胎児期と母体環境	月　日	出・欠
3	感覚・知覚の発達	月　日	出・欠
4	ことばの発達	月　日	出・欠
5	社会性の発達	月　日	出・欠
6	自我の発達	月　日	出・欠
7	他者の感情理解	月　日	出・欠
8	心の理論	月　日	出・欠
9	ダダコネと気持ちの切り替え	月　日	出・欠
10	生まれ始めた自尊心①－「自分」の発見	月　日	出・欠
11	生まれ始めた自尊心②－誇りのめばえ	月　日	出・欠
12	生まれ始めた自尊心③－友だちとの関わり	月　日	出・欠
13	子どもの心の状態を理解する①（VTR視聴乳児編）	月　日	出・欠
14	子どもの心の状態を理解する②（VTR視聴幼児編）	月　日	出・欠
15	よい保育者になるためにー身につけておきたい技術・実践力	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・シミュレーション型学習（ロールプレイ）・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
予習・復習：ノート整理と自主学習【1時間／週】	レポート・ノート・課題提出（解説10分含む）60%、 受講態度（授業への積極的取組・・質問、発言等、ディスカッション）40%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】自作プリントの使用、適宜資料を配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	前期		C23n06	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○	○	◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	生涯発達における胎生期、新生児期、乳児期の発達時期を理解している。
到達目標(2)	乳児期の発達的特徴を理解している。
到達目標(3)	胎生期、新生児期、乳児期の養育課題について説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【生涯発達における胎生期、新生児期、乳児期の発達時期を理解している。 】	(A・B・C・D)
(2)【乳児期の発達的特徴を理解している。 】	(A・B・C・D)
(3)【胎生期、新生児期、乳児期の養育課題について説明できる。 】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容演習（健康Ⅰ）	西本 裕子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業の概要】
・領域「健康」のねらい及び内容と幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、幼児の発達に応じた、主体的・対話的で深い学びが実現できる、具体的な指導場面を想定した課題や構想を身につける。
【履修上の注意事項】
・講義と演習を入れながら授業を行う。教室が変更になる場合があるので、掲示板を確認すること。
・テキストを予習しておくこと。Google Classroomで等で参考資料を提示するので、予習復習をしておくこと。
【フィードバックについて】
・試験終了後解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション/「健康」の必要性と考え方　（ディスカッション）	月　日	出・欠
2	領域「健康」について 「ねらい」「幼児期に育てたい10の姿」　（小テスト）	月　日	出・欠
3	保育行事と子どもの健康な育ち（年間計画）	月　日	出・欠
4	幼児期の運動遊び①（運動遊び発表）	月　日	出・欠
5	乳児期の運動遊び②（伝承遊び・運動遊び発表）　（指導案提出）	月　日	出・欠
6	子どもの健康と生活習慣（食育）　（小テスト）	月　日	出・欠
7	子どもの健康と自然環境	月　日	出・欠
8	子どもの健康と土踏まず（歩育）　（小テスト）	月　日	出・欠
9	子どもの育ち　乳幼児　（ジグソー法）　（小テスト）	月　日	出・欠
10	基本的生活習慣①（衛生・感染症）　（小テスト）	月　日	出・欠
11	基本的生活習慣②（手洗いの歌発表　）	月　日	出・欠
12	幼児の安全な生活（安全教育・避難訓練）	月　日	出・欠
13	水遊びと安全指導（水遊び発表）	月　日	出・欠
14	子どもの発達（視覚）	月　日	出・欠
15	子どもの健康な育ち（心と健康）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（ジグソー法、グループワーク）・発表（プレゼンテーション）・シミュレーション型学習（模擬保育）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
幼児の健康に関するニュースのリサーチ【30分/週】 教育要領・保育指針の「内容」「ねらい」についてノート整理【30分/週】	定期試験（試験60分、解説30分）60％、提出物30％、授業態度10％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　重安智子・安見克夫編著『保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む』ミネルヴァ書房
【参考文献】　必要な資料は随時配付する。
幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【持参物】　テキスト・筆記用具・ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C23syh10	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○		○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	乳幼児期の健康と成長を促す保育とはどのようなものか理解する。
到達目標(2)	領域「健康」のねらいと内容を理解する。
到達目標(3)	乳幼児の安全教育や生活習慣を理解することができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【乳幼児期の健康と成長を促す保育とはどのようなものか理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【領域「健康」のねらいと内容を理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【乳幼児の安全教育や生活習慣を理解することができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容演習（人間関係Ⅰ）	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「人間関係」について理解し、子どもの発達を捉えながら、健全な人間関係を育てる園生活とはどのようなものか、保育者の役割と援助はどのようであればよいのかを軸に考察する。グループワークを通して、自らの対人関係技術を見直し、今後の保育実践に役立てる。さらに、自らの生活の中で人との関わり方に課題をもち、人間関係力を高めてほしい。あいさつや態度などの効果、伝達の仕方などに関心を持つこと。
・履修上の注意として、個人がグループに行う学習であることを常に意識すること。グループ学習の時は協力すること。幼児の人間関係の実際を理解するために、情報教材VTR視聴を取り入れる。教育実習で観察した園内の子どもの人間関係が重要な資料になる。板書は必ずノートに書き留め、配付された資料もファイリングしておくこと。
・発表・討論についてはその都度印象・感想を述べる。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し授業後のふり返りや予習・復習、課題に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、保育の基本及び領域「人間関係」について	月　日	出・欠
2	自己概念と自己理解	月　日	出・欠
3	対人関係図作成	月　日	出・欠
4	領域人間関係基礎知識	月　日	出・欠
5	乳幼児期の発達課題	月　日	出・欠
6	家族システムの機能	月　日	出・欠
7	人との関わりの基盤－アタッチメント関係の形成－	月　日	出・欠
8	自我の発達	月　日	出・欠
9	道徳性の芽生え （情報教材使用）	月　日	出・欠
10	思いやりと社会性の発達　（情報教材使用）	月　日	出・欠
11	家族・保育者・友だちとの関わり　（情報教材使用）	月　日	出・欠
12	遊びの中での関わりの育ち	月　日	出・欠
13	関わりが「気になる子ども」の支援	月　日	出・欠
14	関わりの育ちを支える	月　日	出・欠
15	「人間関係」の課題・まとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・ディスカッション・発表（スピーチ）・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
毎回の授業後、ノート整理及び授業で取り上げたキーワード調べ学習（1時間／週）	定期試験（試験60分、解説30分）60％、レポート20％、ノート10％、受講態度（発表を含む）10％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　田宮縁『領域　人間関係』萌文書林
【参考文献】 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C23syh12	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○	○	◎	◎	◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	人間関係の出発として乳幼児の人への関心が理解できる。
到達目標(2)	人間関係の出発として乳幼児のアタッチメントが理解できる。
到達目標(3)	人間関係の出発として乳幼児の向社会性が理解できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【人間関係の出発として乳幼児の人への関心が理解できる。】	(A・B・C・D)
(2)【人間関係の出発として乳幼児のアタッチメントが理解できる。】	(A・B・C・D)
(3)【人間関係の出発として乳幼児の向社会性が理解できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容演習（言葉Ⅰ）	宮下 小百合

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目、保育内容演習「言葉」は「教職に関する専門教育科目科目」の中の一つです。五領域のうちの一つの領域として、保育実践の上で必要となる内容及び方法について学び、保育の計画をたてる上での基礎となる、子どもについての言語習得に関わる知識の理解と保育方法を習得することをめざしています。
・具体的には、言葉の機能・構造や乳幼児が言語をどのようにして獲得していくかについて学び、保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「言葉」の言語観に基づいて、乳幼児の言葉が育つ環境や言葉を育てるための保育者としての関わり等について学んでいきます。それにより、乳幼児期の「言葉」のあり方とその指導に関する資質を養います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
・試験、課題についてのフィードバックは、試験終了後または課題提出後に解説を行います。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	人間と言語	月　日	出・欠
2	言葉の構造と機能①　言葉の働きと仕組みについて	月　日	出・欠
3	言葉の構造と機能②　言葉とは、その本質について	月　日	出・欠
4	言葉の構造と機能③　音声言語と文字言語、オノマトペ（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
5	言葉の構造と機能④　言葉の育つ道すじ	月　日	出・欠
6	乳幼児の言葉の発達①　0歳児・を中心に	月　日	出・欠
7	乳幼児の言葉の発達②　1歳児・2歳児を中心に	月　日	出・欠
8	乳幼児の言葉の発達③　3歳児・4歳児を中心に	月　日	出・欠
9	乳幼児の言葉の発達④　5歳児を中心に、実習での言葉集め	月　日	出・欠
10	乳幼児の言葉の発達⑤　言葉のスケッチ　資料作成	月　日	出・欠
11	乳幼児の言葉の発達⑥　言葉のスケッチ発表	月　日	出・欠
12	領域「言葉」の理解と保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解①　幼稚園教育の基本	月　日	出・欠
13	領域「言葉」の理解と保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解②　ねらい・内容	月　日	出・欠
14	領域「言葉」の理解と保育所保育指針・幼稚園教育要領の理解③　保育所保育の基本事項	月　日	出・欠
15	まとめ　言葉の育ちと保育者の役割について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（小テスト、レポート）、問答法、コメントを求める、協同学習（グループワークなど）、発表（プレゼンテーションなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・毎回テキスト、プリント等をまとめ復習する【30分/週】 ・授業後Google Classroomへ投稿する【30分/週】	定期試験（試験60分・解説30分）60% レポート・課題など（解説各10分）20%、 受講態度（積極的な取り組み）20%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】　内藤知美・新井美保子編著『コンパス　保育内容　言葉　第2版』建帛社
無藤隆代表保育教諭養成課程研究会編『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか』萌文書林
大橋喜美子・川北典子編著『保育内容指導法「言葉」』建帛社
【持参物】　テキスト

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C23syh16	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎		○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	乳幼児の言語獲得の過程について理解することができる。
到達目標(2)	乳幼児の言葉の発達を促す言葉がけについて、自ら考えることができる。
到達目標(3)	領域「言葉」のねらい及び内容について理解することができる。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【乳幼児の言語獲得の過程について理解することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【乳幼児の言葉の発達を促す言葉がけについて、自ら考えることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【領域「言葉」のねらい及び内容について理解することができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容演習（表現ＩＡ）	井上 美佳

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

この授業では保育力を身に付けるために以下の3点を目指します。①こどもが楽しく安心して活動でき、その内容がこどもによくわかる音楽活動を知る。②保育者として、柔軟に応用でき、優しく温かな雰囲気と空間をつくれる音楽表現技術を身につけることを目指す。③赤ちゃんから特別支援を必要とする子どもでも楽しめる音楽表現とはどのようなものかを知る。 授業では、講義形式と演習形式を織り交ぜ、様々な理論と実践例を通じて学びます。音楽表現活動として、領域「表現」だけでなく、他の活動との関連や他の4領域との関連も学んでいきます。実践力としてリトミック指導案を作成し、実践演習を行います。 学習方法はアクティブラーニングを取り入れた授業で、より主体的で深い学びの実現を目指します。個人技能チェックをすることで個人個人へフィードバックを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	手法	授業外学習	実施日	出欠
1	≪オリエンテーション≫授業概要説明/学習マップを理解する/リトミックを体験する	講義法/演習	ノート等準備	月　日	出・欠
2	≪ユニバーサルデザインの音楽表現とは≫／リトミック・・・歩く・走る・ゆっくり歩く	講義法/演習	ピアノテキスト p.74～77	月　日	出・欠
3	≪領域「表現」と音楽≫／リトミック・・・ビート（拍）	講義法/演習	ピアノテキスト p.78,79	月　日	出・欠
4	≪領域「人間関係」と音楽≫／リトミック・・・ダイナミクスとテンポ	講義法/演習	ピアノテキスト p.80～84	月　日	出・欠
5	ビートとダイナミクスとテンポを使ったリトミック指導案作成	シンク・ペア・シェア/演習	指導案作成	月　日	出・欠
6	表現方法の探求①　音楽と身体表現の可能性を考える	演習	レポート作成	月　日	出・欠
7	≪領域「表現」と「言葉」≫ことばあそび／リトミック・・・拍子とリズムパターン	シンク・ペア・シェア/演習	リズムパターン集め	月　日	出・欠
8	≪領域「表現」と「健康」「環境」≫／カノン　手作り教材作り・・・新聞紙スティック	シンク・ペア・シェア/演習	季節集め	月　日	出・欠
9	拍子とリズムパターンを使ったリトミック指導案作成	ジグソー法	アラベスク	月　日	出・欠
10	表現方法の探求②　舞台における音楽表現の可能性を考える	演習	ピアノテキスト p.88,89	月　日	出・欠
11	リトミック・・・フレーズ・形式・ニュアンス・ソルフェージュ／教具を使った実践	講義法/演習	ピアノテキスト p.101,103～105	月　日	出・欠
12	音楽活動実践演習　紙芝居構成（音楽から物語を作り出す）	講義法/演習	ピアノテキスト p.85～87	月　日	出・欠
13	音楽活動実践演習　紙芝居作成（紙芝居を作る）	グループワーク	紙芝居作成	月　日	出・欠
14	音楽活動実践演習　紙芝居練習（実際の音楽と合わせて）	グループワーク	紙芝居作成	月　日	出・欠
15	音楽活動実践演習　紙芝居発表会　　音楽表現活動のまとめ	ピア・インストラクション	紙芝居練習	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（シンク・ペア・シェア、ジグソー法、ピア・インストラクション、グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・各項目横の授業外学習の欄の内容【1時間/週】	奏法確認試験（フィードバック含む）40％ 指導案・課題作成（フィードバック後返却）40％ 受講態度20％　合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】『1～5歳のたのしいリトミック』ナツメ社　その他、音楽Ｉ～Ⅳで使用する楽譜等
【持参物】　教科書・筆記用具・ノート・実践に適した服装（動きやすいものが望ましい）。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C23syh18	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	領域「表現」のねらいと内容を理解し，音楽活動をデザインすることができる。
到達目標(2)	5領域や他の表現活動と関連付けた音楽活動をデザインすることができる。
到達目標(3)	子どもの発達にあわせた音楽活動をデザインすることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【領域「表現」のねらいと内容を理解し，音楽活動をデザインすることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【5領域や他の表現活動と関連付けた音楽活動をデザインすることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【子どもの発達にあわせた音楽活動をデザインすることができる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容演習（表現ＩＢ）	鷲﨑 公彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目では『誕生日表と粘土造形』をテーマに、壁面装飾と各種の粘土を用いた造形活動を行う。
・前半は誕生日表をもとに協同制作を学び、後半は粘土造形に関する材料や道具の使用と表現、指導の方法を学習する。なお、1年次に引き続きスケッチブック制作も継続的に行い、保育者・教育者としての資質の研鑽を目指す。
・フィードバックの方法については授業の各回で解説を加え、活動の節目ごとに発表、振り返りカードの提出と添削などを行う。学内展示による相互鑑賞にも取り組む。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	制作活動1【誕生日表①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
3	制作活動1【誕生日表②（アイデアスケッチ）】	月　日	出・欠
4	制作活動1【誕生日表③（主役の装飾をつくる）】	月　日	出・欠
5	制作活動1【誕生日表④（脇役の装飾をつくる）】	月　日	出・欠
6	制作活動1【誕生日表⑤（エキストラの装飾をつくる）】	月　日	出・欠
7	制作活動1【誕生日表⑥（装飾の貼り付け・名前入れ）】	月　日	出・欠
8	制作活動1【誕生日表⑦（発表）】	月　日	出・欠
9	制作活動2【粘土造形（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
10	制作活動2【油粘土①（手や足でつくる）】	月　日	出・欠
11	制作活動2【油粘土②（協同制作）】	月　日	出・欠
12	制作活動2【油粘土③（自由制作）】	月　日	出・欠
13	制作活動2【紙粘土（手形のオブジェ作り）】	月　日	出・欠
14	制作活動2【小麦粉粘土（三色団子作り）】	月　日	出・欠
15	制作活動2【粘土制作（発表）】	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習）、振り返り（振り返りシート、リアクションペーパー）、協同学習（グループワーク）、発表（プレゼンテーション）、eラーニング

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として次回授業の事前学習・事前準備を行う。【30分/週】 ・復習としてスケッチブック整理と制作活動の補填を行う。【30分/週】	平常点（学習態度20%、振り返りカード20%）、成果物（スケッチブック30%、作品30%）（提出後、解説10分）、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】【参考文献】 授業内で必要に応じて資料プリントを適宜配付する。
【持参物】 授業内で必要に応じて準備物を適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C23syh19	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	誕生日表と粘土造形に関する基礎的な知識と技能を身につけ、制作活動に取り組むことができる。
到達目標(2)	誕生日表と粘土造形を通して感性やコミュニケーション力を高め、保育者・教育者の資質を磨くことができる。
到達目標(3)	スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【誕生日表と粘土造形に関する基礎的な知識と技能を身につけ、制作活動に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【誕生日表と粘土造形を通して感性やコミュニケーション力を高め、保育者・教育者の資質を磨くことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法、表現方法、指導方法を理解、説明できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育の方法と技術	竹野 博信

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を学びます。また、メディア利用の事例をとおして、効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につけていきます。
・日頃からメディアとの関わりを観察・調査し、メディアに関心を持ちましょう。
・課題・試験のフィードバックについて、課題は適宜解説を行い、試験終了後、解説を行います。方法は口頭またはオンライン等で行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	保育方法とは何か(教育方法の変遷と評価について)	月　日	出・欠
2	幼児教育の構成要件(環境構成と遊びを通した総合的な指導)	月　日	出・欠
3	情報機器を活用した教育方法／グループディスカッション	月　日	出・欠
4	幼児教育における情報機器の活用／グループディスカッション	月　日	出・欠
5	子どもの情報活用能力(情報モラルを含む)	月　日	出・欠
6	ICTと保育(1)－デジタルカメラを使った保育活動①(植物の撮影)／グループワーク	月　日	出・欠
7	ICTと保育(2)－デジタルカメラを使った保育活動②(植物図鑑の作成)	月　日	出・欠
8	ICTと保育(3)－動画を使った保育活動①(音と映像を組み合わせた教材作成)	月　日	出・欠
9	ICTと保育(4)－動画を使った保育活動②(作成した教材で模擬保育①)／グループワーク	月　日	出・欠
10	ICTと保育(5)－ビデオカメラを使った保育活動①(ビデオレターの撮影)／グループワーク	月　日	出・欠
11	ICTと保育(6)－ビデオカメラを使った保育活動②(ビデオレターの編集)	月　日	出・欠
12	ICTと保育(7)－ビデオカメラを使った保育活動③(ビデオデータの書き出しと投影法)	月　日	出・欠
13	ICTと保育(8)－スライドを使った保育活動①(スライドを使った教材作成)	月　日	出・欠
14	ICTと保育(9)－スライドを使った保育活動②(作成した教材で模擬保育②)／グループワーク	月　日	出・欠
15	ICTと保育(10)－保育案の作成(幼稚園・保育所)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(調査・レポート)　・協同学習(グループワーク)　・シミュレーション型学習(模擬保育)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・幼稚園教育要領解説を熟読する。【30分/週】 ・メディアと保育に関する情報をインターネットや雑誌等から、新しい情報を得る。【30分/週】　≪合計 1 時間/週≫	定期試験(試験60分、解説10分)50%、レポート50%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】幼稚園教育要領解説(平成30年3月　文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省)、保育所保育指針解説(平成30年3月　厚生労働省)
【参考書・参考資料等】適宜プリントを配付する。
【持参物】 筆記用具、ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期・後期	幼	C23y21	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎						

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
到達目標(2)	教育の目的に適した指導技術を理解する。
到達目標(3)	情報機器を活用した教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【教育の目的に適した指導技術を理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【情報機器を活用した教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身につける。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
キャリア開発Ⅱ	朝倉なぎさ・宮下小百合・舩原将太・荒谷容子・赤川優子 （講師：三原善伸・小枝加代子・中邑隆哉・浜桐陽子）

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・社会人としての基礎的なマナーを身につけ、地域貢献を進んで行おうとする公共心に富んだ人間の育成を図りつつ、将来、保育者として求められる知識や実践的能力の定着を図るための保育内容研究に関する方法論を学ぶ（保育内容研究は「キャリア開発Ⅲ」においても継続していく）。以上の内容を、職業人としての心構え等に関する講話、マナー講習、地域貢献を考える講話、就職活動の指導（面接指導を含む）、就職試験対策講座等をもって実施する。
・社会人、職業人としての資質・能力を育むための授業の集大成となる科目です。原則全出席することはもちろん、様々な学びや体験に積極的に取り組みましょう。
・課題についてのフィードバックについては、レポート提出後、振り返りやアドバイスを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	オリエンテーション ーキャリア開発Ⅱのねらいー	【キャリア支援センター】 就職活動ガイダンス	月　日	出・欠
2	就職活動の進め方/保育内容研究について①ー研究とはー	【キャリア支援センター】 就職活動の進め方	月　日	出・欠
3	各県・市町の私立幼稚園選考試験に準拠した対策講座 ＜一般教養＞	【キャリア支援センター】 就職ナビについて①	月　日	出・欠
4	本学客員教授 岩国市長による特別講義		月　日	出・欠
5	「ようこそ先輩！実践力養成講座（保育園編）」ー保育現場の保育士から実際を学ぶー		月　日	出・欠
6	保育内容研究について②ーCiNii活用ー	【キャリア支援センター】 就職ナビについて②	月　日	出・欠
7	保育内容研究について③ー図書館活用ー	【キャリア支援センター】 統一試験について	月　日	出・欠
8	保育内容研究について④ー教育実習を前にー		月　日	出・欠
9	社会人としてのマナーを学ぶー面接の受け方の留意点ー（小枝講師）		月　日	出・欠
10	各県・市町の私立幼稚園統一試験に準拠した対策講座＜面接の実際＞ ー幼稚園・保育園の園長先生による個人面接を想定してー（中邑園長・渡邊園長）		月　日	出・欠
11	保育内容研究について⑤ーワークシートの活用ー	【キャリア支援センター】 選考試験・就職活動・暑中見舞いについて	月　日	出・欠
12	地域貢献活動をできることから始めるために(三原講師)		月　日	出・欠
13	保育内容研究について⑥ー保育実習を前にー		月　日	出・欠
14	多文化共生社会における幼児教育の可能性（浜桐講師）		月　日	出・欠
15	「キャリア開発Ⅱ」を振り返って（レポート）	【キャリア支援センター】 夏休み中の就職活動について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習など）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・面接対策準備【30分/週】 ・就職試験に関連した問題集を解く【30分/週】	発表・報告・実践等及び課題の提出70％ （課題については提出後、解説10分） 受講態度30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】『就職の手引き（令和5年度）』 岩国短期大学キャリア支援センター編、 その他 適宜提示する。
【持参物】　「スリムファイル」（オリエンテーション時に配付）
『就職の手引き（令和5年度）』 、「キャンパスガイドブック」岩国短期大学学生部・キャリア支援センター編

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	前期	卒幼保	C23syh39	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○	◎	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	社会人(保育者)として求められるマナー、コミュニケーション能力の基礎を身につける。
到達目標(2)	就職活動を行う際に必要な文書作成能力、面接対応力を身につける。
到達目標(3)	採用試験に必要な一般教養を身につけ、就職に備えることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【社会人(保育者)として求められるマナー、コミュニケーション能力の基礎を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【就職活動を行う際に必要な文書作成能力、面接対応力を身につける。】	(A・B・C・D)
(3)【採用試験に必要な一般教養を身につけ、就職に備えることができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
英語コミュニケーションⅡ	キャサリン 重岡

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

Using the textbook as a guide, students will practice conversations of interest to young adults, thus increasing their speaking and listening skills. We also aim to improve students' general communication skills.
In addition, the instructor will introduce elements of Western culture aimed at kindergarten teachers and students, through games, books, songs, crafts and presentations.
・テキストを使い若者が興味を持つ話題について話していきます。また同時にゲーム、本、歌、プレゼンテーションなどを使い、西洋の文化を紹介する等、保育者として将来役に立つ内容にします。簡単な英会話の入門クラスだと思って気軽に参加してください。課題についてのフィードバックについては、繰り返し行います。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	Unit 8: It's on Your Desk	月　日	出・欠
2	Unit 8: It's on Your Desk	月　日	出・欠
3	Unit 9: Where Are You Going?	月　日	出・欠
4	Unit 9: Where Are You Going?	月　日	出・欠
5	Unit 10: Have You Ever Played the Piano?	月　日	出・欠
6	Unit 10: Have You Ever Played the Piano?	月　日	出・欠
7	Unit 11: Shall We Go?	月　日	出・欠
8	Unit 11: Shall We Go?	月　日	出・欠
9	Unit 12: Three Cups of Coffee, Please	月　日	出・欠
10	Unit 12: Three Cups of Coffee, Please	月　日	出・欠
11	Unit 13: Who Is the Tallest?	月　日	出・欠
12	Unit 13: Who Is the Tallest?	月　日	出・欠
13	Unit 14: The Door Was Closed	月　日	出・欠
14	Unit 14: The Door Was Closed	月　日	出・欠
15	Review of Semester 2	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（ペアワーク・グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・音読【30分/週】 ・英単語の意味調べ等の準備が必要になります【30分/週】	授業での課題60%、受講態度40%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 English Illustrated (KINSEIDO)
【持参物】　毎回英語辞書または電子辞書、筆記用具

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	後期		C21n23	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
	○	○	◎	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	英語のリスニング能力が向上する。
到達目標(2)	英語のスピーキング能力が向上する。
到達目標(3)	コミュニケーション能力に対して自信がつく。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【英語のリスニング能力が向上する。】	(A・B・C・D)
(2)【英語のスピーキング能力が向上する。】	(A・B・C・D)
(3)【コミュニケーション能力に対して自信がつく。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子ども家庭支援論	中邑 隆哉

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活の変化に伴い、育児の不安感や負担感は以前にも増して大きな課題となっている。保育士には、家庭を形成する夫婦、親子、きょうだいのあり方を理解し、それをふまえて適切な「相談・助言」を行うことが求められている。
・それぞれの家庭に応じた多様な子育て支援対策を提供するために、どのように保育士が援助活動を行い、関係機関が取り組んでいるかを知る。また近年増加している虐待やDV、発達障がい等で育てにくいと思われる子どもがいる家庭の保護者への対応を学ぶ。
・保育士の役割は子どもへの「保育」と保護者に対する「保育指導」がある。この授業では、育児の負担感を抱える保護者を対象に、いかに行政や地域がその支援へ手を差し伸べているかを知り、保育者も支援者の一員であることを理解してほしい。
・課題についてのフィードバックについては、適宜解説を行う。また、オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けるので、不明な点があれば尋ねてほしい。
・グループワークとして課題についてディスカッションの時間を持つ。また授業時間内にレポートの提出を求めることがあるので、その日の授業内容の復習の意味を含め、自分の考えをまとめて文章にする力をつけてほしい。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
・実務教員による授業科目。担当者は認定こども園の園長として園の運用と経営にあたるほか、山口県私立幼稚園協会の理事長を務めている。受講者は、学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能」を獲得することができる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	子どもが育つ場としての「家族」「家庭」とは	月　日	出・欠
2	子育て家庭を取り巻く社会環境の変化	月　日	出・欠
3	子育て意識の変化	月　日	出・欠
4	育児の不安感・負担感とは	月　日	出・欠
5	性的役割分業から男女共同参画社会へ	月　日	出・欠
6	社会状況と結婚・子育て　1	月　日	出・欠
7	社会状況と結婚・子育て　2	月　日	出・欠
8	ワークライフ・バランスへの取組について	月　日	出・欠
9	家庭支援における保育士の役割	月　日	出・欠
10	特別なニーズへの対応　「育てにくさのある子を持つ親への対応」	月　日	出・欠
11	特別なニーズへの対応　「乳幼児の虐待」	月　日	出・欠
12	特別なニーズへの対応　「外国籍の子どもとその家庭・ひとり親家庭・DV」	月　日	出・欠
13	少子化対策の現状	月　日	出・欠
14	子育て支援者の専門技術としてのカウンセリング・マインド	月　日	出・欠
15	保育士に求められる基本的態度	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（レポート）・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・事前に資料を配付するので、次回の授業までに目を通すようにして予習をしておくこと。小グループに分かれ課題についての話し合いの時間を持つので、積極的に意見交換に参加してほしい。【4時間/週】	定期試験（試験60分、解説10分）50％、レポート30％、受講態度20％、 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　特定の教科書は使用せず、必要な資料を参考文献から引用し配付する。
【参考文献】　土谷みち子編著『子ども家庭支援論』青踏社
阿部和子著『子どもが子どもの生活をするために』萌文書林
吉田眞理著『児童の福祉を支える「家庭支援論」』萌文書林

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	後期	保	C22h01	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○		○	◎			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	家庭を支援する理論を学び、その方法を身につける。
到達目標(2)	子どもの育ちや取り巻く環境の変化について理解する。
到達目標(3)	子育て支援における保育所の役割と保育士に求められる基本的態度について理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【家庭を支援する理論を学び、その方法を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【子どもの育ちや取り巻く環境の変化について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【子育て支援における保育所の役割と保育士に求められる基本的態度について理解する。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
保育原理	山縣 明人

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育原理では、保育の意義について明確な認識を持たせ、その依拠する科学的研究結果と歴史的実情を理解させることにある。そのためには、近代における保育の思想と実践を歴史的文脈において位置づけ、現代の多様な保育の在り方を、その思想的系譜において批判し得る普遍的な見識を深めることである。また、その思想的批判を通じて、保育原理の実践により幼児によりよく生きる力を会得させ、その保育原理が高度な人間教育の原理へと精錬させていくためには、どのような思想が要請されるべきかを共に考察していきたい。そのためにいのちの教育という視点を以って保育の現状の課題解決をなし得る保育原理の実践的知識を学習する。
・課題についてのフィードバックについては、試験終了後に説明を行う。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	保育原理序説－いままで学んだことを編集して自分の知識とする―	月　日	出・欠
2	保育の本質－保育の意義とその目的について－	月　日	出・欠
3	保育の原理と子どもの発達特性－対象に呼応する関わり方－	月　日	出・欠
4	保育の原理と子どもの発達特性	月　日	出・欠
5	保育の場所的論理	月　日	出・欠
6	保育施設としての保育の特性とその方法	月　日	出・欠
7	保育の歴史と思想－近代教育の父コメニウス『大教授学』『母親学校指針』	月　日	出・欠
8	保育の歴史と思想－ルソー『エミール』	月　日	出・欠
9	保育の歴史と思想－ペスタロッチ『隠者の夕暮』『シュタンツ便り』	月　日	出・欠
10	保育の歴史と思想－フレーベル『人の教育』	月　日	出・欠
11	保育の歴史と思想－モンテッソリ―『子どもの家の幼児教育に適用された科学的教育学の方法』	月　日	出・欠
12	保育の歴史と思想－日本のフレーベル倉橋惣三『幼稚園真諦』	月　日	出・欠
13	保育の歴史と思想－小原國芳と『全人教育論』	月　日	出・欠
14	保育における感情教育論	月　日	出・欠
15	授業内容の総括と試験の説明	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、調査）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
授業前には、シラバスを見て授業に必要な予備知識を自分で学習すること。さらに授業後は、ノートの編集を通じて講義内容における課題を整理するように努力してほしい。特に、自分が保育実践する立場での課題を自覚して欲しい。授業時間外学習【4時間/週】	定期試験（試験60分・解説30分）50%、 ノート・課題提出40%、受講態度10%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 民秋言編『保育原理』萌文書林
荘司雅子著『幼児教育の思想』玉川大学出版部
上原輝男著『続感情教育論』ぶんしん出版社
倉橋惣三著『倉橋惣三選集』第4巻　フレーベル社

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	後期	卒幼保	C22syh02	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育の意義についての明確な意識を持ち、その科学的研究成果と歴史的思想を理解する。
到達目標(2)	保育の場所的論理と呼応原理をもとに、幼児の特性、環境、保育方法について理解する。
到達目標(3)	幼児の心の成長と直観の働きの関係を生活陶冶の中で理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育の意義についての明確な意識を持ち、その科学的研究成果と歴史的思想を理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【保育の場所的論理と呼応原理をもとに、幼児の特性、環境、保育方法について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【幼児の心の成長と直観の働きの関係を生活陶冶の中で理解する。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子どもの健康と安全	廣谷 貴子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育の現場では子どもの健やかな成長発達を支え、子どもの命を守ることが求められます。
医学や看護の知識も必要な保育士として既習学習内容を基に、保育の現場で求められる保健活動、救急処置、有症時の援助などの知識と技術を理解し、実践できる力を身につけることを目指します。
・課題についてのフィードバックは、グループ発表後、個人レポート提出後、講評と解説をします。試験については、試験終了後解説を行います。また、オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	保健的観点を踏まえた保育環境及び援助	月　日	出・欠
2	保育における健康及び安全の管理　①衛生管理・事故防止及び安全対策	月　日	出・欠
3	保育における健康及び安全の管理　②危機管理・災害への備え	月　日	出・欠
4	保育の環境　①「望ましい保育の環境」のグループワーク	月　日	出・欠
5	保育の環境　②「望ましい保育の環境」のグループワーク発表	月　日	出・欠
6	子どもの体調不良に対する適切な対応　①体調不良や傷害が発生した場合	月　日	出・欠
7	子どもの体調不良に対する適切な対応　②応急処置	月　日	出・欠
8	子どもの体調不良に対する適切な対応　③救急処置及び救急蘇生法	月　日	出・欠
9	感染症対策　予防及び疾患への対応	月　日	出・欠
10	保育における保健的対応　①基本的な考え方・3歳未満児への対応	月　日	出・欠
11	保育における保健的対応　②個別的な配慮を要する子どもへの対応	月　日	出・欠
12	健康及び安全の管理の実施体制　①職員間の組織的取組・保健活動	月　日	出・欠
13	健康及び安全の管理の実施体制　②自治体や関係機関等との連携	月　日	出・欠
14	保育だよりの作成　①グループワーク	月　日	出・欠
15	保育だよりの作成　①グループワーク	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習）・振り返り・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習：シラバスに示してある講義内容のテキスト範囲を読む【1時間】 ・講義後のテキストと資料を参照して整理理解【30分～1時間週】 ・グループワーク・プレゼンテーションの資料準備【1時間/週】	定期試験(試験60分・解説30分) 70% 課題提出(グループワーク・プレゼンテーション) 20% 課題レポート 10%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　中根淳子編著『子どもの健康と安全』ななみ書房
【参考文献】 保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【持参物】　各自が必要と考える教科書、参考書、文具

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	保	C22h07	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○	○	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。
到達目標(2)	保育における感染症対策及び体調不良時の対応について具体的に身につける。
到達目標(3)	保育における保健的対応と健康及び安全の管理の実施体制について説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【保育における感染症対策及び体調不良時の対応について具体的に身につける。】	(A・B・C・D)
(3)【保育における保健的対応と健康及び安全の管理の実施体制について説明できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
子どもの食と栄養Ⅱ	安東 一美

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本演習では、栄養についての基本的知識を習得し、生涯発達を見据えて子どもが健やかに成長するために必要な栄養の摂取方法と好ましい食生活について学ぶ。また、食育の重要性を知り、家庭や地域と連携して食育を実践できる力を養う。
・履修上の注意事項としては、配付するプリント類はしっかりと保管し、復習の際に読み返すこと。
・課題・試験についてのフィードバックについては、定期試験では試験60分、解説30分とし、小テストではテスト10分、解説10分の時間配分とする。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問などを受け付ける。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	栄養に関する基本的知識	月　日	出・欠
2	献立作成・調理の基本	月　日	出・欠
3	妊娠期（胎児期）の食生活	月　日	出・欠
4	乳児期の食生活①母乳栄養	月　日	出・欠
5	乳児期の食生活②人工栄養	月　日	出・欠
6	乳児期の食生活③授乳の手順（調乳実習含む）	月　日	出・欠
7	離乳の必要性と進め方	月　日	出・欠
8	離乳食の調理形態と調理方法（離乳食調理実習含む）	月　日	出・欠
9	幼児期の食生活	月　日	出・欠
10	学童期・思春期の食生活	月　日	出・欠
11	生涯発達と食生活－成人期・高齢期における健康と食生活	月　日	出・欠
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養①子どもの疾病と食生活	月　日	出・欠
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養②食物アレルギーのある子どもの食生活	月　日	出・欠
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養③障がいのある子どもの食生活	月　日	出・欠
15	家庭や児童福祉施設における食と栄養	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト）、実技・実習、コメントを求める、発表（プレゼンテーション）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・調理に慣れる【30分/週】 ・離乳食、幼児食について調べる【10分/週】 ・食に関する情報や生活体験を増やし、まとめてプレゼンテーション用の資料を作る【20分/週】	定期試験（試験60分、解説30分）50％、受講態度20％、小テスト（試験10分・解説10分）30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　『子どもの食生活（第7版）』ななみ書房、『八訂 食品成分表 2024』女子栄養大学出版部
【参考文献】『子どもの食と栄養』萌文書林、『最新子どもの食と栄養』学建書院、『食物アレルギーAtoZ』第一出版
【持参物】　実習費300円程度（実習時：エプロン、三角巾（バンダナ等）、ふきん、タオル）

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	卒幼保	C22syh09	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子どもの発育・発達段階に適した食生活について理解する。
到達目標(2)	調乳方法や離乳食の進め方を理解し、実践できる。
到達目標(3)	特別な配慮を要する子どもの食生活について理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【子どもの発育・発達段階に適した食生活について理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【調乳方法や離乳食の進め方を理解し、実践できる。】	(A・B・C・D)
(3)【特別な配慮を要する子どもの食生活について理解する。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
音楽Ⅳ	赤川優子・井上美佳・川畑由紀子・竹内佳代・中村桂子・東尚子

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

保育者として自分自身が楽しむことを大切にしながら個人に合わせた実技指導を行う。実技試験を行いアドバイスシートによるフィードバックを

到達目標;ピアノ初級者・・・10月～5月の歌唱指導のための弾き歌いレパートリーが20曲以上ある。

到達目標;ピアノ中級者・・・10月～5月の歌唱指導のための弾き歌いレパートリーが25曲以上ある。

到達目標;ピアノ上級者・・・10月～5月の歌唱指導のための弾き歌いレパートリーが30曲以上ある。

一斉授業　到達目標;歌唱法を学び歌唱指導に活かす。

・Google Classroomを活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

※実務教員による授業科目。担当者赤川優子は元中学校、及び高等学校教諭、井上美佳は元中学校教諭であり、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「音楽の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる」を獲得することができる。

	授業内容・計画一斉	ピアノ初級者	ピアノ中級者	ピアノ上級者	実施日	出欠
1	オリエンテーション、発声についての振り返り	生活のうた歌唱指導(レパートリー)	生活のうた歌唱指導(レパートリー)	生活のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
2	子どもの歌から(春・夏)	生活のうた歌唱指導(レパートリー)	生活のうた歌唱指導(レパートリー)	生活のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
3	子どもの歌から(秋・冬)	秋のうた歌唱指導(レパートリー)	秋のうた歌唱指導(レパートリー)	秋のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
4	子どもの歌から(愛唱歌)	実習曲	実習曲	実習曲	月　日	出・欠
5	歌唱の実技試験①	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
6	合奏指導法(打楽器の種類と基本的な奏法について)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
7	合奏指導法(ウインターコンサート・曲決め・個人練習)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	冬のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
8	合奏指導法(ウインターコンサート・パート練習)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
9	合奏指導法(ウインターコンサート・合奏練習)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
10	合奏指導法(ウインターコンサート・リハーサル)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	春のうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
11	ポップスソングより 「ひまわりの約束」他	手あそびうた歌唱指導(レパートリー)	手あそびうた歌唱指導(レパートリー)	手あそびうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
12	ミュージカルソングより「サウンド・オブ・ミュージック」より～ドレミの歌～他	手あそびうた歌唱指導(レパートリー)	手あそびうた歌唱指導(レパートリー)	手あそびうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
13	シネマソングより「アナと雪の女王」より～雪だるま作ろう～他	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
14	園で歌われる卒業ソングより「思い出のアルバム」他	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠
15	歌唱の実技試験②	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	こどものうた歌唱指導(レパートリー)	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（グループワーク）・シミュレーション型学習（模擬授業）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
課題を1日20分以上【120分以上/週】	実技試験・・・60%（歌唱①15%②15%、ピアノ30%） 取り組み ・・・40%（一斉受講態度10%、ピアノ受講態度10%、課題リスト・歌唱活動構成表達成率20%）合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 全国大学音楽教育学会九州地区学会編『保育士・幼稚園教諭　小学校教諭養成のためのピアノテキスト』カワイ出版社
大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第1巻』Gakken出版社
大海由佳他『保育士・幼稚園教諭のための弾き歌い伴奏集第2巻』Gakken出版社
神原雅之他『改訂　幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育』教育芸術社
【持参物】 上記テキスト、五線ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	後期	幼保	C22yh18	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	レパートリーの中から秋～冬にかけての季節にあった歌唱指導ができる。
到達目標(2)	弾き歌いの歌唱技術面を向上させる方法と技能を知ることができる。
到達目標(3)	授業で身につけた鍵盤楽器奏法を実習に活かせる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【レパートリーの中から秋～冬にかけての季節にあった歌唱指導ができる。】	(A・B・C・D)
(2)【弾き歌いの歌唱技術面を向上させる方法と技能を知ることができる。】	(A・B・C・D)
(3)【授業で身につけた鍵盤楽器奏法を実習に活かせる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
図画工作Ⅲ	鷲﨑 公彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本科目では「様々な造形の表現」をテーマに、新聞紙やその他の素材を用いた造形活動を行う。
・これまでに学習した描画や工作などの基礎的な表現内容に加え、着るもの・動くもの・贈るものといった応用的な表現内容に挑戦する。美的情操や保育実践力など、保育者・教育者に求められる資質のさらなる飛躍を目指す。
・フィードバックの方法については授業の各回で解説を加え、活動の節目ごとに発表、振り返りカードの提出と添削などを行う。学内展示による相互鑑賞にも取り組む。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	制作活動1【新聞紙を用いたドレスの制作①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
3	制作活動1【新聞紙を用いたドレスの制作②（パートナーAの衣装制作）】	月　日	出・欠
4	制作活動1【新聞紙を用いたドレスの制作③（パートナーBの衣装制作）】	月　日	出・欠
5	制作活動1【新聞紙を用いたドレスの制作④（パートナーAの装飾制作）】	月　日	出・欠
6	制作活動1【新聞紙を用いたドレスの制作⑤（パートナーBの装飾制作）】	月　日	出・欠
7	制作活動1【新聞紙を用いたドレスの制作⑥（ファッションショー）】	月　日	出・欠
8	制作活動2【モビール①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
9	制作活動2【モビール②（モチーフ制作）】	月　日	出・欠
10	制作活動2【モビール③（各種のパーツ制作）】	月　日	出・欠
11	制作活動2【モビール④（組み立て）】	月　日	出・欠
12	制作活動2【モビール⑤（発表）】	月　日	出・欠
13	制作活動3【メダル作り①（導入）】（ICTの活用を含む）	月　日	出・欠
14	制作活動3【メダル作り②（制作）】	月　日	出・欠
15	制作活動2【メダル作り③（発表）】	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習）、振り返り（振り返りシート、リアクションペーパー）、協同学習（ペアワーク）、発表（プレゼンテーション）、eラーニング

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・予習として次回授業の事前学習・事前準備を行う。【30分/週】 ・復習としてスケッチブック整理と制作活動の補填を行う。【30分/週】	平常点（学習態度20%、振り返りカード20%）、成果物（スケッチブック30%、作品30%）（提出後、解説10分含む）、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】【参考文献】 授業内で必要に応じて資料プリントを適宜配付する。
【持参物】 授業内で必要に応じて準備物を適宜指示する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	後期		C22yh21	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	様々な造形表現に関する応用的な知識と技能を身に付け、制作活動に取り組むことができる。
到達目標(2)	様々な造形の表現を通して感性やコミュニケーション力を高め、保育者・教育者の資質を磨くことができる。
到達目標(3)	スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法・表現方法・指導方法を理解、説明できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【様々な造形表現に関する応用的な知識と技能を身に付け、制作活動に取り組むことができる。】	(A・B・C・D)
(2)【様々な造形の表現を通して感性やコミュニケーション力を高め、保育者・教育者の資質を磨くことができる。】	(A・B・C・D)
(3)【スケッチブック制作を通じて材料や道具の使用方法・表現方法・指導方法を理解、説明できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
算数	水鶏口 陽一

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・算数、数学の教養としての基礎を復習すると共に、小学校算数科における目標、算数的活動、数量や図形についての基礎的知識や技能を知り、領域「環境」と算数における幼と小のスムーズな接続について理解する。
・算数の基礎である領域「環境」におけるねらい（数量に対する豊かな感覚を育てる）及び内容（日常生活の中で数量や図形など関心をもつ）を達成するための環境や遊びを学ぶ。
・算数について理解を深め、その基礎である領域「環境」における数量や図形に対する豊かな感覚を養うための適切な保育ができるようになる。また、幼児が遊んでいる中で、どのような数学的なものの考え方をしているのか見つけ出す視点を学ぶ。
・課題についての振り返り、フィードバックについては、個人レポート提出後、講評と解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業における課題の提出、振り返りや学生の予習、復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	算数、数学の教養的基礎知識の復習をする	月　日	出・欠
2	幼稚園教育要領、保育所保育指針、小学校学習指導要領から考察する	月　日	出・欠
3	算数科の目標と学習内容の発展系列について学ぶ	月　日	出・欠
4	小学校低学年算数科の数と計算における内容と算数的活動について学ぶ	月　日	出・欠
5	小学校低学年算数科の図形における内容と算数的活動について学ぶ	月　日	出・欠
6	あそびの中の数学的体験①　－同じ仲間を集める－	月　日	出・欠
7	あそびの中の数学的体験②　－比べる－	月　日	出・欠
8	あそびの中の数学的体験③　－測る－	月　日	出・欠
9	生活の中の数学的体験①　－かたち－	月　日	出・欠
10	生活の中の数学的体験②　－空間－	月　日	出・欠
11	かずに出会う　－数える－(実践演習指導案作成)	月　日	出・欠
12	かず遊びの教材研究と開発	月　日	出・欠
13	かず遊びの教材開発	月　日	出・欠
14	教材を用いた授業発表	月　日	出・欠
15	授業発表の振り返り、まとめ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（演習、小テスト、レポートなど）・問答法、コメントを求める　・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
数量や図形に関する絵本や文献を読む【90分/週】 プリントや授業で行った練習問題の復習【90分/週】 受講後指定された課題をGoogle Classroomへ投稿する【60分/週】	受講態度20%、課題・作品30%、 定期試験（試験60分、解説30分）50%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】小学校学習指導要領、幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
奥井智久・芦田宏編著『新子どもと環境　理論編』三晃書房
平山許江著『幼児の「かず」の力を育てる』世界文化社
【持参物】　A4ファイル

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	講義	2年次	後期		C22n24	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	◎		○	○	◎		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	算数、数学の基礎知識を身につける。
到達目標(2)	小学校算数科の目標や低学年の内容と幼・保育園の算数的活動について基礎知識を得る。
到達目標(3)	領域「環境」における数量に対する豊かな感覚を培うための日常生活での適切な環境や遊びについての知識を得る。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【算数、数学の基礎知識を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【幼・保育園の算数的活動について基礎知識を得る。】	(A・B・C・D)
(3)【日常生活での適切な環境や遊びについての知識を得る。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
乳児保育Ⅱ	数井 智子

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。
・養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。
・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。
・課題についてのフィードバックについては、レポート提出・小テスト終了後に説明を行う。
・オフィス・アワーとして授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

※実務教員による授業科目。担当者は公立保育所に長年勤務し、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能。保育現場で活かす実践力」を獲得することができる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	前期の振り返りと後期のオリエンテーション	月　日	出・欠
2	6か月未満の子どもの育ちと保育内容	月　日	出・欠
3	6か月以上1歳未満児の子どもの育ちと保育内容Ⅰ（基本的生活・遊び）	月　日	出・欠
4	6か月以上1歳未満児の子どもの育ちと保育内容Ⅱ（他者との関係・ことばの育ち）	月　日	出・欠
5	1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅰ（基本的生活・遊び）	月　日	出・欠
6	1歳以上2歳未満の子どもの育ちと保育内容Ⅱ（自我・感情の育ち）	月　日	出・欠
7	2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容Ⅰ（基本的生活・遊び）	月　日	出・欠
8	2歳～3歳の子どもの育ちと保育内容Ⅱ（他者との関係・意欲の育ち）	月　日	出・欠
9	乳児保育における保育者の専門性と役割（保護者との信頼関係・子育て支援）	月　日	出・欠
10	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境Ⅰ（魅力ある環境と遊び）	月　日	出・欠
11	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境Ⅱ（季節の行事に因んだ遊び環境）	月　日	出・欠
12	子どもの生活と遊びが豊かになる保育環境Ⅲ（手作りおもちゃと遊びのアイディア）	月　日	出・欠
13	乳児保育における指導計画（指導計画の特徴とデイリープログラムの実際）	月　日	出・欠
14	観察・記録・自己評価	月　日	出・欠
15	まとめ（乳児保育の専門家としての学び）	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、小テスト、レポートなど）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
新聞・テレビ・雑誌などで子どもや育児、保育、保育園の話題を見つけて意見交換する【30分～1時間/週】 玩具店・公園などでおもちゃや遊具について安全的視点で観察研究をする。【30分～1時間/週】	課題に対するレポート・小テスト（解説10分含む）40%、受講態度20%、 実技40%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　松本峰雄監修『乳児保育演習ブック』第2版　ミネルヴァ書房
幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】 必要に応じて適宜資料を配付
【持参物】　指定したもの

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	保	C22h26	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	○	○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた基本的な援助や関わりについて理解する。
到達目標(2)	乳児の生活や遊びと保育の方法及び環境について理解する。
到達目標(3)	乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【乳児の心身の発達特徴や過程について学び認識を深める。】	(A・B・C・D)
(2)【乳児の生活や遊びと保育の方法及び環境について理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
幼児理解と子ども家庭支援	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、幼児理解として、幼児の個体的発達や学び、社会性の発達の過程で生じる様々なつまずきの要因を把握する。なぜ、つまずくのかその要因と対応の方法も学ぶ。また、幼児個体ではなく、環境的理解が必要であり、社会・家庭からの支援やその支援態度の基本についてもアプローチを図る。
・授業スタイルは講義であるが、導入部分で学生に意見を求めたりその応答を捉えながら双方向で授業を進めていく。
・資格実習や自主実習で学生自らが感じ取ったり理解したことが授業に生きていくだろう。
・講義はテキストワークを軸に進めていく予定である。授業者の体験や見解を補足説明として加えていく予定である。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション	月　日	出・欠
2	発達と支援　乳幼児期	月　日	出・欠
3	発達と支援　児童期	月　日	出・欠
4	発達と支援　青年期	月　日	出・欠
5	家族理解①　家族・家庭の意義と機能	月　日	出・欠
6	家族理解②　親子関係・家族関係	月　日	出・欠
7	家族理解③　子育ての社会状況	月　日	出・欠
8	多様な家族支援①　多様な家族　ステップファミリー	月　日	出・欠
9	多様な家族支援②　多様な家族　外国につながりのある子どもと家族	月　日	出・欠
10	多様な家族支援③　保護者の疾患や障害	月　日	出・欠
11	多様な家族支援④　虐待	月　日	出・欠
12	多様な家族支援⑤　外国籍の子どもとその家庭、ひとり親、子どもの貧困	月　日	出・欠
13	自然災害、コロナ禍下の子ども家庭支援	月　日	出・欠
14	子どもの精神保健と課題①　身体症状や習癖	月　日	出・欠
15	子どもの精神保健と課題②　登園渋り、不登校、引きこもり	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（レポート）・発表（スピーチ）・協同学習（グループワーク）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
予習：授業指定範囲の事前把握（用語調べ等）【2時間/週】 復習：テキストノート作成・整理　【2時間/週】	レポート課題と発表（解説10分含む）40%、テキストワーク作成50%、授業への積極的態度（発表を含む）10%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　杉﨑雅子『スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学』萌文書林
【参考文献】　資料配付は適宜行う。
【持参物】　テキスト

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	後期	幼保	C23yh22	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	○		◎	◎	○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育者視点から、幼児理解の観点を押さえるとともに方法を取ることができる。
到達目標(2)	幼児の様子や生活や遊びの実態に即して、発達や学びの過程で生じるつまずきや困難さに気づける。
到達目標(3)	困難さの要因を把握し、対応方法を考えることができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育者視点から幼児理解の観点を押さえ方法を取ることができる。】	(A・B・C・D)
(2)【幼児の様子、生活や遊びの実態に即して発達や学びの過程で生じるつまずきや困難さに気づける。】	(A・B・C・D)
(3)【困難さの要因を把握し対応方法を考えることができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
青年心理学	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・将来、幼稚園教諭や保育士として子どもの前に立ち、彼らに働きかける時、働きかける存在としての自分自身について理解しておくことが重要であろう。また、施設等に就職する際には、思春期・青年期の人たちが対象になる場合もあるだろう。
・本授業では、現代社会における思春期・青年期の位置づけ、発達的特長、特有の問題等を心理学及び社会学の視点から取り上げる。さらに、一般的な基礎理解をふまえ、自分自身について主に、パーソナリティ、対人関係からも理解を深める。
・履修上の注意事項として、内容に関して気軽に意見や気付き・感想を交換しながら、双方向授業を進めていく。自己理解を図るためにも性格検査も取り入れる。
・課題についてのフィードバックについては、レポート提出後、振り返りを行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、青年期の歴史的・社会的位置づけ	月　日	出・欠
2	青年期の身体・神経系の発達、発達加速現象、第二次性徴	月　日	出・欠
3	自分とは何か①（第二反抗期、客体としての自己）	月　日	出・欠
4	自分とは何か②（自我同一性の確立）	月　日	出・欠
5	自分とは何か③（モラトリアム）	月　日	出・欠
6	パーソナリティの理解①（類型理論）	月　日	出・欠
7	パーソナリティの理解②（特性理論）	月　日	出・欠
8	パーソナリティの理解③（環境要因）	月　日	出・欠
9	パーソナリティの理解④（個体要因）	月　日	出・欠
10	青年期の人間関係①　家族・親子　VTR視聴	月　日	出・欠
11	青年期の人間関係②　仲間・友人　VTR視聴	月　日	出・欠
12	現代社会の青年期の課題①　いじめ　自殺　不登校、ICT活用とレポート作成	月　日	出・欠
13	現代社会の青年期の課題②　引きこもり　孤独　貧困　ヤングケアラー　ICT活用とレポート作成	月　日	出・欠
14	現代社会の青年期の課題③　ストレス　精神的不適応　ゲーム等依存　ICT活用とレポート作成	月　日	出・欠
15	青年期からの移行期・成人期へ	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（グループワーク）・ディスカッション

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
配付資料に目を通し、理解しにくかった箇所には印をつけて授業に臨む。授業後は、授業のポイントを整理する。【1時間／週】	レポート・課題提出（提出後解説）60％、 受講態度（授業への積極的関与・・・質問、発言、ディスカッション等）40％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

必要に応じて資料を配付する。自作プリントを使用する。
【参考文献】　中澤潤他『発達心理学の最先端　認知と社会化の発達科学』あいり出版
　　高垣忠一郎『揺れる子どもの心と発達』かもがわ出版

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	後期		C23n07	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
			○	○	○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	生涯発達における思春期・青年期の意義や発達的特徴について理解している。
到達目標(2)	自分のパーソナリティから自己理解ができる。
到達目標(3)	現代青年期の課題について整理し、レポートが作成できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【生涯発達における思春期・青年期の意義や発達的特徴について理解している。】	(A・B・C・D)
(2)【自分のパーソナリティから自己理解ができる。】	(A・B・C・D)
(3)【現代青年期の課題について整理し、レポートが作成できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容指導法（健康Ⅱ）	西本 裕子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

【授業の概要】
・領域「健康」のねらい及び内容を理解し、幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定した課題解決能力や構想を身につける。
・幼児教育の場面で健康教育が必要とされる背景について理解し、子どもの生活習慣の確立や自立について学ぶ。
・幼児に対しての健康や安全教育の啓発ポスター等を作成し、ICT活用ができるようにする。
【注意事項】
・グループワークの中で積極的な意見が出るように、主体的に取り組むこと。
【フィードバックについて】
・模擬保育実施後、課題提出後、試験終了後に行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがある。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	領域「健康」の視点からの年間計画の作成	月　日	出・欠
2	領域「健康」内容／身近なものを使用した運動遊びの指導のポイント	月　日	出・欠
3	運動遊びの発表／3・4歳児　（模擬授業）	月　日	出・欠
4	運動遊びの発表／5・6歳児　（模擬授業）	月　日	出・欠
5	領域「健康」の内容から読み取る園児の様子	月　日	出・欠
6	領域「健康」における園児のICT活用による啓発デジタル紙芝居の（企画）（グループワーク）	月　日	出・欠
7	領域「健康」における保育教材（デジタル紙芝居のシナリオ・絵コンテ）（グループワーク）	月　日	出・欠
8	領域「健康」におけるデジタル教材の製作（グループワーク）	月　日	出・欠
9	領域「健康」におけるデジタル教材（PowerPoint入力・背景入力）（グループワーク）	月　日	出・欠
10	領域「健康」におけるデジタル教材（PowerPoint入力・アニメーション）（グループワーク）	月　日	出・欠
11	領域「健康」におけるデジタル教材（音声入力）編集（グループワーク）	月　日	出・欠
12	領域「健康」におけるデジタル教材（動画編集）編集（グループワーク）	月　日	出・欠
13	健康への意識付け（食育）／保育教材製作（グループワーク）	月　日	出・欠
14	「健康」領域からの幼保小の連携	月　日	出・欠
15	デジタル教材等の発表	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・協同学習（グループワーク）・シミュレーション型学習（模擬保育）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
幼児の健康に関する情報収集【30分/週】 教材製作【30分/週】 指導案作成【30分/週】	課題提出（提出後、解説10分含む）50% 授業への積極的な参加状況および授業態度50% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　重安智子・安見克夫編著『保育内容「健康」遊びや生活から健やかな心と体を育む』ミネルヴァ書房
【参考文献】幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
その他、必要な資料は随時配付する。
【持参物】　テキスト・筆記用具・ノート

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	後期	幼保	C23yh11	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	○		○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	園児にとって「健康」がどのようなものか理解する。
到達目標(2)	領域「健康」の視点からの指導案や教材を作成することができる。
到達目標(3)	領域「健康」の視点からのデジタル教材を作成することができる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【園児にとって「健康」がどのようなものか理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【領域「健康」の視点からの指導案や教材を作成することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【領域「健康」の視点からのデジタル教材を作成することができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容指導法（人間関係Ⅱ）	荒谷 容子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、人間関係Ⅰを発展させ、特に保育における人間関係の課題として「気になる子ども」、「気になる親」、「障害のある子ども」への対応を考察に含める。また子育て支援についてネットワーク作りを取り上げる。後半は、現代社会でおこる子どもが絡む問題や脆弱な人間関係について問題視点も入れた授業展開をする。最終はまとめとして、人間関係課題について「人間関係Ⅰ」で行ったグループワークを発展させる。情報機器を用いて個人発表する。主体的に考え、効率よく課題に取り組むことを体験する。
・履修上の注意として、レポート等提出物によって評価を出すが、作成過程、態度も評価に含める。内容の精度を求めるためしっかりと取り組んでほしい。
・課題についてのフィードバックは、確認後行う。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業後のふり返りや予習復習、課題に役立てることがある。
・授業はテキストの予習発表を入れてすすめる。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	オリエンテーション、オープン教材視聴	月　日	出・欠
2	遊びと人間関係の発達	月　日	出・欠
3	乳児期・幼児期の子どもと保育者のかかわり	月　日	出・欠
4	保育者の家庭との連携と保護者とつながる人間関係	月　日	出・欠
5	保育のなかの人間関係づくりー①（気になる子ども）	月　日	出・欠
6	保育のなかの人間関係づくりー②（特別な配慮を必要とする子ども）	月　日	出・欠
7	保育のなかの人間関係づくりー③（保護者の子育て支援　（手作りおたより作成））	月　日	出・欠
8	保育のなかの人間関係づくりー④前回のおたより発表	月　日	出・欠
9	保育のなかの人間関係づくりー⑤（支援ネットワーク）	月　日	出・欠
10	現代社会における子どもを取り巻く社会問題	月　日	出・欠
11	現代社会における子育て支援に関する課題	月　日	出・欠
12	自然災害、コロナ禍の子どもと人間関係	月　日	出・欠
13	園や家庭生活の人間関係について実習経験の指導視点を踏まえた発表 人間関係に関して各自がテーマを決め、調査や資料の収集（ICT利用も含む）	月　日	出・欠
14	人間関係における課題①　幼児教育の課題でおさえておきたい基本事項	月　日	出・欠
15	人間関係における課題②　人間関係力の発達	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習）・協同学習（グループワーク）・ディスカッション

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
発表のための資料づくり、復習としてノート整理や授業で取り上げたキーワード調べ学習（1時間／週）	発表の内容や課題提出（たよりも含む）（提出後、解説10分含む）60％、発表と授業態度（ノートを含む）40％ 合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

プリントを適宜配付する。　授業シートの利用
【テキスト】近喰晴子・小泉裕子『保育内容「人間関係」と指導法』中央法規

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	幼保	C23yh13	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○	○	○	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子どもの人間関係の基礎として社会性の発達が理解できる。
到達目標(2)	多様な課題のある子どもについて考えられる。
到達目標(3)	現代社会を背景にした子どもの問題を含めて人間関係力について考えられる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【子どもの人間関係の基礎として社会性の発達が理解できる。】	(A・B・C・D)
(2)【課題のある子どもについて考えられる。】	(A・B・C・D)
(3)【課題のある子どもの問題を含めて支援について考えられる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容指導法（言葉Ⅱ）	宮下 小百合

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・「言葉Ⅰ」の学習成果を踏まえて、乳幼児の言葉を育てる指導方法を具体的場面を想定し、演習を通して修得します。
　併せて、指導者自身の言葉に関する知識とその能力を高め、乳幼児の言葉を育てるためにふさわしい資質を養います。
・「言葉Ⅰ」で学習したことを基盤として取り組んでもらいたいと思います。保育者として、子どもたちが話しをすること、人の話を聞くこと、物語に触れることで自分のイメージを膨らませることのできる関わり方を考え、実践していきます。また、子どもたちたちの姿をエピソード記述を通して考察することで、言葉の育ちや言葉がけに対する理解を深めます。絵本の読み聞かせを通して、ICTを活用した活動について考えるとともに、言葉遊びの模擬授業の立案、準備、実施、振り返りを通して保育者としての資質を養います。グループワーク等での積極的な姿勢を期待します。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
・レポート・課題、発表についてのフィードバックは、提出後または、発表後に解説を行います。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	言語観と乳幼児の言葉の育ち	月　日	出・欠
2	領域「言葉」と幼稚園教育要領の理解①　実習での言葉がけ	月　日	出・欠
3	領域「言葉」と幼稚園教育要領の理解②　言葉を育てる関わり	月　日	出・欠
4	保育現場での諸相①　言葉がけ　発達の遅れ・多文化理解	月　日	出・欠
5	保育現場での諸相②　言葉がけ　エピソード記述を通して考察する	月　日	出・欠
6	絵本の鑑賞・味読・発表①　絵本の読み聞かせの実践	月　日	出・欠
7	絵本の鑑賞・味読・発表②　領域「言葉」における絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
8	絵本の鑑賞・味読・発表③　絵本を題材にした活動　ICTの活用を含む	月　日	出・欠
9	絵本の鑑賞・味読・発表④　発表　ICTの活用を含む	月　日	出・欠
10	絵本の鑑賞・味読・発表⑤　まとめ　指導案について	月　日	出・欠
11	言葉遊びと指導計画①　言葉遊び・文字を用いた活動	月　日	出・欠
12	言葉遊びと指導計画②　準備・教材作成等	月　日	出・欠
13	言葉遊びと指導計画③　発表の準備	月　日	出・欠
14	言葉遊びと指導計画④　模擬授業　活動のねらいを意識して	月　日	出・欠
15	まとめ　領域「言葉」の目的　小学校における教科への接続	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題（小テスト、レポート）、問答法、コメントを求める、協同学習（グループワークなど）、発表（プレゼンテーションなど）
シミレーション型学習（模擬授業など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・絵本の読み聞かせの練習を行う【30分/週】 ・授業後Google Classroomへ投稿する【30分/週】	レポート・課題提出（解説各10分）40% 小テスト20%　、授業での発表20%、 受講態度（積極的な取り組み）20%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月）内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】　内藤知美・新井美保子編著『コンパス保育内容言葉』建帛社
戸田雅美編著『演習保育内容言葉』建帛社
無藤隆代表保育教諭養成課程研究会編『幼稚園教諭養成課程をどう構成するか』萌文書林
【持参物】　テキスト　A4ファイル（言葉Ⅰ）

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	幼保	C23yh17	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		○		○		

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	幼稚園教育要領・保育所保育所指針の言語観や、乳幼児の言葉の発達を理解することができる。
到達目標(2)	さまざまな言葉遊びについて知り、言語の獲得に資するものとして理解することができる。
到達目標(3)	乳幼児の言葉の発達を育む活動について理解し、実践できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【幼稚園教育要領・保育所保育所指針の言語観や、乳幼児の言葉の発達を理解することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【さまざまな言葉遊びについて知り、言語の獲得に資するものとして理解することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【乳幼児の言葉の発達を育む活動について理解し、実践できる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育内容指導法（表現Ⅱ）	朝倉 なぎさ・西本 裕子・井上 美佳・鷲﨑 公彦

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領および保育所保育指針における「表現」のねらいや内容を理解させるとともに、保育現場において育みたい資質・能力を理解し、幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。
・課題に対するフィードバックについては、各時間において相互評価をしながら解説を加えたり、発表の相互鑑賞の形式で行ったりする。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	領域「表現」のねらい、内容、指導上の留意点と評価		月　日	出・欠
2	表現活動を実践するための教材研究と幼保小接続カリキュラム		月　日	出・欠
3	表現の実践-劇表現-①台本作り		月　日	出・欠
4	表現の実践-劇表現-②（配役、衣装・小道具等の製作）		月　日	出・欠
5	表現の実践-劇表現-③（練習/役作り）	中元美里講師による ワークショップ	月　日	出・欠
6	表現の実践-劇表現-④（練習/通し稽古）	高澤直美講師による ワークショップ	月　日	出・欠
7	表現の実践-劇表現-⑤（リハーサルと仕上げ）		月　日	出・欠
8	舞台発表の振り返り		月　日	出・欠
9	ミニシアターの表現活動①（計画・台本）		月　日	出・欠
10	ミニシアターの表現活動②（製作）		月　日	出・欠
11	ミニシアターの表現活動③（製作/練習）		月　日	出・欠
12	ミニシアターの表現活動④（リハーサル）		月　日	出・欠
13	ミニシアターの表現活動⑤（仕上げ）		月　日	出・欠
14	ミニシアターの発表会（実演と撮影）		月　日	出・欠
15	撮影資料の編集（ICTの活用を含む）とまとめ		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、小テストなど）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習、模擬シアターなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・製作【30分/週】 ・発表練習【30分/週】	学習態度30%、表現技能50%（フィードバック含む）、課題の提出と完成度20%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
【参考文献】必要な資料は随時配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	幼保	C23yh20	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
○	○	◎	○				

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	劇表現の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。
到達目標(2)	教材の特性を理解し、保育構想に活用することができる。
到達目標(3)	総合的なシアター表現における保育者のかかわりについて理解できる。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【劇表現の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。】	(A・B・C・D)
(2)【教材の特性を理解し、保育構想に活用することができる。】	(A・B・C・D)
(3)【総合的なシアター表現における保育者のかかわりについて理解できる。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育相談の基礎と方法	岡田 久子

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・幼児の健やかな心身の発達を育むためには、幼児一人一人を的確に理解し、幼児の発達可能性が最大限に引き出せるような環境を整え、その発達を援助することが大切である。しかし、そのためには、個々の幼児をいかにとらえるか、そのときの留意点は何かなどを吟味する必要があるし、また、現在、家庭を始めとして幼児を取り巻く環境はさまざまな問題を抱えており、その中で、発達にふさわしい環境をいかに保障していくかなど、保育者に求められる課題は多い。この授業では、基本的な幼児理解の理論と方法、および教育相談の理論と方法を学習する。
・オフィス・アワーとして、授業前後の時間に質問等を受け付けます。
・試験に対するフィードバックについては、定期試験後、解説を行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	保育における教育相談（カウンセリング）の意義と課題	月　日	出・欠
2	カウンセリングの特性	月　日	出・欠
3	カウンセリングの基本理論（教育相談に関わる心理学の基礎的理論を含む）	月　日	出・欠
4	カウンセラーの役割	月　日	出・欠
5	カウンセリング・マインドの必要性	月　日	出・欠
6	保育実践の中のカウンセリング・マインド　事例：片づけでのトラブル	月　日	出・欠
7	保育実践の中のカウンセリング・マインド　事例：8時間の電車ごっこ	月　日	出・欠
8	保育実践の中のカウンセリング・マインド　事例：先生のうそつき	月　日	出・欠
9	幼児理解の意義	月　日	出・欠
10	子どもの行為を思いの表現として理解する	月　日	出・欠
11	カウンセリング・マインドを身につけるには	月　日	出・欠
12	保護者への支援	月　日	出・欠
13	相談にのるための技法	月　日	出・欠
14	園内の教育相談体制	月　日	出・欠
15	外部機関との連携	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

問答法、コメントを求める

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
カウンセリングマインドは知識として学ぶだけではありません。各回の授業で学んだ内容を日常生活の場で生かし、体得していくよう努力してください。【4時間/週】	定期試験90％（試験60分,解説30分）、授業態度10％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月 厚生労働省）
【参考文献】　桑原知子『教室で生かすカウンセリング・マインド』日本評論社
池田祥太朗『保育とカウンセリングの出会い』萌文社

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	講義	2年次	後期	幼保	C23yh24	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎		◎	◎			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	教育相談についての基礎的な理解ができる。
到達目標(2)	カウンセリング・マインドについての理解ができる。
到達目標(3)	カウンセリング・マインドの発揮の仕方を身につける。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【教育相談についての基礎的な理解ができる。】	(A・B・C・D)
(2)【カウンセリング・マインドについての理解ができる。】	(A・B・C・D)
(3)【カウンセリング・マインドの発揮の仕方を身につける。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育・教職実践演習（幼稚園）	朝倉なぎさ・宮下小百合・舩原将太・荒谷容子・赤川優子・竹野博信・佐々木和美・西本裕子・井上美佳・水鶏口陽一・鷲﨑公彦（講師：中邑隆哉・眞田洋子）

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、2年間の学習の総仕上げとして、これまでの講義及び「教職履修カルテ」による学習の振り返りを基に、保育内容の領域から学生自らが研究テーマを見つけ、実践的な研究を行うことを課している。前半の各教員の講義を通じて、将来、保育者になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、保育者としての生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。後半は、自らの課題を研究テーマに据え、調査・研究、発表を行う。
・日頃より、研究課題の視点から学習内容を捉えなおしてみましょう。
・課題・履修ノート提出後、フィードバックやアドバイスを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	【保育者の使命感・責任感・教育的愛情等に関する事項】 保育者の使命としての「子どもに寄り添い理解すること」の重要性とその限界について（舩原）	月　日	出・欠
2	【幼児理解に関する事項】 特別支援を必要とする幼児への対応－発達障がい児を中心に－（荒谷）	月　日	出・欠
3	【社会性や対人関係能力に関する事項】 対人関係能力を向上させる－クリエイティブ・ムーブメントの実践から（朝倉）	月　日	出・欠
4	【保育内容の指導力に関する事項】 言葉に対する感性・表現力を高める　－言葉遊びの実践を通して－（宮下）	月　日	出・欠
5	【保育内容の指導力に関する事項】 幼児の好奇心・探究心を育む「環境」の在り方（水鶏口）	月　日	出・欠
6	【保育内容の指導力に関する事項】 幼児の運動発達と健康－運動あそびの指導力を高める－（西本）	月　日	出・欠
7	【保育内容の指導力に関する事項】 音・音楽のある表現活動－リトミックの実践を通して学ぶ（井上）	月　日	出・欠
8	【保育内容の指導力に関する事項】 保育内容の指導力を考える－「想い」を込めたミサンガ作り（鷲﨑）	月　日	出・欠
9	【保育内容の指導力に関する事項】 器楽表現技術－日本伝統楽器　箏について学ぶ（実践）－（赤川）	月　日	出・欠
10	【教材の活用法】 情報機器の活用方法と情報リテラシーを身につける(竹野)	月　日	出・欠
11	【保育者の使命感・責任感・教育的愛情等に関する事項】1. 求められる保育者(新任保育者の心得)園長の立場から 2.ワークショップ保育者としての心構え－実習を終えて－(佐々木、ゲストスピーカー中邑)	月　日	出・欠
12	保育内容研究 －中間発表－	月　日	出・欠
13	保育内容研究 －先行研究の確認－	月　日	出・欠
14	保育内容研究 －ルーブリック項目の確認－	月　日	出・欠
15	保育内容研究 －論文作成（研究の結果）－	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習など）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・保育内容研究のための資料収集【30分/週】 ・保育内容研究レポート作成・発表資料作成【30分/週】	課題、履修ノート、発表（研究発表についての振り返り10分）等70％、受講態度30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
その他、各授業担当者が適宜教材等を準備、配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	演習	2年次	後期	幼保	C23yh25	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	多様な特性を持つ幼児を理解するための知識や技術、幼児と信頼関係を築こうとする態度を身につけている。
到達目標(2)	保育者としての社会性や対人能力を向上させる理論と技術を身につけている。
到達目標(3)	保育内容について理解を深め、それを実践していく能力と技術を身につけている。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価
次のページに記入すること

授業科目名	担当者
保育・教職実践演習（幼稚園）	朝倉なぎさ・宮下小百合・舩原将太・荒谷容子・赤川優子・竹野博信・佐々木和美・西本裕子・井上美佳・水鶏口陽一・鷲﨑公彦（講師：中邑隆哉・眞田洋子）

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・本授業では、2年間の学習の総仕上げとして、担当教員の講義及び「シラバス・学習記録」による学習内容の振り返りを基に、保育内容の領域から学生各自が研究テーマを見つけ、教員の指導や支援を受けながら実践的な研究を行い、それを本授業の終わりに全員の前で発表することを課している。授業の前半は、学習内容の振り返りとして、保育者の使命・責任・教育的愛情にかかわる事項、幼児理解に関する事項、社会性や対人関係能力に関する事項、保育内容、情報関連について、重要項目の最終確認を行う。授業後半は、研究発表の準備、調査・研究、発表の時間に当てる。
・日頃より、研究課題の視点から学習内容を捉えなおしてみましょう。
・課題・履修ノート提出後、フィードバックやアドバイスを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
16	保育内容研究 －論文作成（考察）－	月　日	出・欠
17	保育内容研究 －論文作成（課題）－	月　日	出・欠
18	保育内容研究 －論文作成（段組み確認）－	月　日	出・欠
19	保育内容研究 －論文作成(引用確認)－	月　日	出・欠
20	保育内容研究 －論文仕上げ－	月　日	出・欠
21	保育内容研究 －指導案仕上げ－	月　日	出・欠
22	保育内容研究 －論文・指導案最終チェック－	月　日	出・欠
23	保育内容研究 －パワーポイント作成－	月　日	出・欠
24	保育内容研究 －パワーポイント最終チェック－	月　日	出・欠
25	保育内容研究 －最終発表①（プレゼンテーション）	月　日	出・欠
26	保育内容研究 －最終発表②（コメント記述）	月　日	出・欠
27	保育内容研究 －最終発表③（講評）	月　日	出・欠
28	保育実践力を身につける－Iwatan親子フェスタ　計画・準備－（グループ活動）	月　日	出・欠
29	保育・教職実践演習（幼稚園）研究発表会	月　日	出・欠
30	保育実践力を身につける－Iwatan親子フェスタ　第2回全体打ち合わせ－	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習など）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・保育内容研究のための資料収集【30分/週】 ・保育内容研究レポート作成・発表資料作成【30分/週】	課題、履修ノート、発表（研究発表についての振り返り10分）等70％、受講態度30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】 幼稚園教育要領解説（平成30年3月　文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省）、保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）
その他、各授業担当者が適宜教材等を準備、配付する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	必修	演習	2年次	後期	幼保	C23yh25	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	多様な特性を持つ幼児を理解するための知識や技術、幼児と信頼関係を築こうとする態度を身につけている。
到達目標(2)	保育者としての社会性や対人能力を向上させる理論と技術を身につけている。
到達目標(3)	保育内容について理解を深め、それを実践していく能力と技術を身につけている。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【多様な特性を持つ幼児を理解するための知識や技術、幼児と信頼関係を築こうとする態度を身につけてい	(A・B・C・D)
(2)【保育者としての社会性や対人能力を向上させる理論と技術を身につけている。】	(A・B・C・D)
(3)【保育内容について理解を深め、それを実践していく能力と技術を身につけている。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
キャリア開発Ⅲ	朝倉なぎさ・宮下小百合・舩原将太・荒谷容子・赤川優子 （講師：白木勲・三原善伸）

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

・社会人として求められる職業観・倫理観などを学習する。また、「キャリア開発Ⅱ」に引き続き、保育内容研究を行うことで、保育者に求められる問題発見能力・解決能力や専門的知識・技術及び実践的能力の積極的な習得を支援する。
・保育現場における実践的能力の基礎力養成として、自分が課題とする保育内容の研究を通じて、その課題の分析と解決に向けた基本的な方法と発表方法の習得を目指します。日頃より、研究課題の視点から授業や実習を捉えなおしてみましょう。
・課題についてのフィードバックについては、レポート提出後、フィードバックやアドバイスを行います。
・Google Classroom、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	オリエンテーション /保育内容研究①－実習と研究の関連を振り返る－	【キャリア支援センター】 就職活動について	月　日	出・欠
2	「ようこそ先輩！実践力養成講座（幼稚園編）」－卒業生の幼稚園教諭から実際を学ぶ－		月　日	出・欠
3	保育内容研究② －論文作成/中間発表に向けて－	【キャリア支援センター】 内定後の活動について	月　日	出・欠
4	わが国では地域貢献活動がどのようにグローバルに進められているか（三原講師）		月　日	出・欠
5	保育内容研究③－論文作成/実習を前に－		月　日	出・欠
6	保育実践力を身につける①－Iwatan親子フェスタ　計画・準備－		月　日	出・欠
7	保育実践力を身につける②－清流祭準備－		月　日	出・欠
8	本学客員教授による特別講義（白木講師）		月　日	出・欠
9	保育内容研究④－論文作成/分析－	【キャリア支援センター】 年賀状の書き方＆ガイダンスアンケート	月　日	出・欠
10	保育内容研究⑤－論文作成/考察－		月　日	出・欠
11	保育内容研究⑥－指導案作成－		月　日	出・欠
12	ウィンターコンサート準備・練習		月　日	出・欠
13	保育内容研究⑦－最終発表－	【キャリア支援センター】 就職ガイダンスを前に	月　日	出・欠
14	就職ガイダンス（外部講師/キャリア支援センター）		月　日	出・欠
15	保育内容研究及び「キャリア開発Ⅲ」において学んだ内容のふり返り(レポート)	【キャリア支援センター】 卒業を前に	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習など）・問答法、コメントを求める・振り返り（振り返りシート）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・シミュレーション型学習（ロールプレイ、ゲーム型学習など）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・実習・研究に向けての指導案作成【30分/週】 ・保育内容研究のための資料収集【30分/週】	発表・実技・レポート等の提出70％ （課題については提出後、解説20分） 学習態度30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】『就職の手引き（令和5年度）』岩国短期大学キャリア支援センター編
その他、必要に応じて紹介するとともに、指示する。
【持参物】『就職の手引き（令和5年度）』、「キャンパスガイドブック」岩国短期大学学生部・キャリア支援センター編、「スリムファイル」

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	必修	演習	2年次	後期	卒幼保	C23syh40	特になし

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎		○	◎	◎	◎	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	社会人として求められる職業観・倫理観を身につける。
到達目標(2)	保育内容研究を通して課題の分析と解決の方法を理解する。
到達目標(3)	講話や保育内容研究を通して保育者としての専門性を深めることができる。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【社会人として求められる職業観・倫理観を身につける。】	(A・B・C・D)
(2)【保育内容研究を通して課題の分析と解決の方法を理解する。】	(A・B・C・D)
(3)【講話や保育内容研究を通して保育者としての専門性を深めることができる。】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育実習Ⅰ	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・教育実習Ⅰは、本学指定幼稚園で12月初旬の1週間の実習とする。見学・観察実習を主として実習園の生活の場に慣れ親しむとともに、子どもと直接関わりをもつようにする。また、園内の環境、子どもの活動並びに教師の保育に関わる援助の仕方等を観察することにより、保育現場について理解を深める。
・履修上の注意事項
1.「実習の内規」に照らし、第2条の履修要件、第3条の履修資格を得ていること。
2.原則、2日以内の欠勤は補充する。3日以上の欠勤は実習中止とする。
3.日頃より、実習にふさわし身だしなみ(実習の手引きに準ずること)を心がける。
4.教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは順序性をもって履修する。
・課題についてのフィードバックについては、日々の日誌を書くことで振り返り反省し、分からないこと等は積極的に実習先の担当教師に質問し、理解するよう努める。また実習終了後は自己評価等を行い次の課題を確認する。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

授業内容・計画

実習期間　：　12月上旬　1週間

1.見学・観察実習・・・実習園の生活の流れを知り、子どもの行動や活動、教師の対応を観察する。

①実習園の沿革や特色、教育方針、実習園の概要(園児数、教職員数、施設・設備等)について理解する。

②一日の生活の流れについて理解する。

③教師の子どもへの援助、関わる様子を観察し、記録する。

2.参加実習・・・実習園の生活の場に参加し、子どもと直接関わる。

①クラスでの保育活動に参加する。

②子どもと関わり、実態を理解する。

③簡単な保育活動の一部(絵本・手遊び等)を実践する。

授業で取り入れているアクティブラーニング

実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・授業で学んだことを復習し、自己課題を明らかにし目標をもって実習に臨む。絵本の読み聞かせ、手遊び歌、ピアノの弾き歌い等実践できるよう練習しておく。【30分/週】・その日の実習を振り返り、実習日誌にまとめる。【2～3時間/日】	評価割合:実習先からの「実習評価票」70%、「実習日誌」と「実習レポート」30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩国短期大学実習委員会編『令和6年度実習の手引き』、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日誌と指導案のサポートブック』ナツメ社、名須川知子監修『保育者になる人のための実習ガイドブックAtoZ』萌文書林、幼稚園教育要領解説(平成30年3月文部科学省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月内閣 府・文部科学省・厚生労働省)
【持参物】　「実習の意手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	実習	1・2年次	通年	幼	C13y26	「実習の内規」に基づく。 幼稚園教諭二種免許状：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子ども(発達段階、遊び、生活等)について理解する。
到達目標(2)	幼稚園やクラスの実態について理解する。
到達目標(3)	幼稚園教諭の役割を理解し、使命感や倫理観を培う。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

1.見学・観察実習

①実習園の沿革や特色、教育方針、実習園の概要(園児数、教職員数、施設・設備等)について理解する。

②一日の生活の流れについて理解する。

③教師の子どもへの援助、関わる様子を観察し、記録する。

2.参加実習・・・実習園の生活の場に参加し、子どもと直接関わる。

①クラスでの保育活動に参加する。

②子どもと関わり、実態を理解する。

③簡単な保育活動の一部(絵本・手遊び等)を実践する。

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【子ども(発達段階、遊び、生活等)について理解する。】　(A・B・C・D)
(2)【幼稚園やクラスの実態について理解する。】　(A・B・C・D)
(3)【幼稚園教諭の役割を理解し、使命感や倫理観を培う。】　(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育実習Ⅱ	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・学生の希望する幼稚園で6月初旬の1週間の実習とする。主として参加実習を中心に実習園の生活の場に慣れ積極的に参加するとともに、部分実習を1回以上行い、子どもの指導に直接関わる。また、園内の環境、子どもの活動並びに教師の保育の方法を観察することにより、保育現場について理解を一層深める。
・履修上の注意事項
1.「実習の内規」に照らし、第2条の履修要件、第3条の履修資格を得ていること。
2.原則、2日以内の欠勤は補充する。3日以上の欠勤は実習中止とする。
3.日頃より、実習にふさわし身だしなみ(実習の手引きに準ずること)を心がける。
4.教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは順序性をもって履修する。
・課題についてのフィードバックについては、日々の日誌を書くことで振り返り反省し、分からないこと等は積極的に担当教師に質問し理解するように努める。また実習終了後は自己評価を行い次の課題を確認する。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

授業内容・計画

実習期間　：　6月上旬　1週間

1.見学・観察実習・・・実習園の生活の流れを知り、子どもの行動や活動、教師の対応を観察する。

①実習園の沿革や特色、教育方針、実習園の概要(園児数、教職員数、施設・設備等)について理解する。

②一日の生活の流れについて理解する。

③教師の子どもへの援助、関わる様子を観察し、記録する。

2.参加実習・・・実習園の生活の場に参加し、子どもと直接関わる。

①クラスでの保育活動に参加する。

②子どもと関わり、実態を理解する。

③簡単な保育活動の一部(絵本・手遊び等)を実践する。

授業で取り入れているアクティブラーニング

実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・授業で学んだことを復習し、自己課題を明らかにし目標をもって実習に臨む。絵本の読み聞かせ、手遊び歌、ピアノの弾き歌い等実践できるよう練習しておく。【30分/週】・その日の実習を振り返り、実習日誌にまとめる。【2～3時間/日】	評価割合:実習先からの「実習評価票」70%、「実習日誌」と「実習レポート」30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日誌と指導案 のサポートブック』ナツメ社
幼稚園教育要領解説(平成30年3月文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)
【持参物】「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	実習	2年次	通年	幼	C23y27	「実習の内規」に基づく。 幼稚園教諭二種免許状：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)

到達目標(1)	教育の場である幼稚園やクラスの実態について理解する。
到達目標(2)	部分実習指導案を立案し、実践をする。
到達目標(3)	教師の役割や職務内容について理解する。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

1.観察・参加実習

①実習園の沿革や特色、教育方針、概要(園児数、教職員数、施設・設備等)について

②園の一日の生活の流れ、子どもやクラスの実態について

③教師の保育、教育の方法を観察し、クラスの保育活動について

2.部分実習、園行事・地域社会との連携

①部分実習の指導案を立案、実施について

②園行事及び園の地域社会との連携について

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【教育の場である幼稚園やクラスの実態について理解する。】　(A・B・C・D)
(2)【部分実習指導案を立案し、実践をする。】　(A・B・C・D)
(3)【教師の役割や職務内容について理解する。】　(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育実習Ⅲ	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・教育実習Ⅲは、原則として教育実習Ⅱを行った同一の希望園で10月中旬2週間の実習を行う。実習先指導担当教師の下、指導案を立案し部分実習を1回以上実施する。また半日、全日の指導案を立案し、これまでの実習経験を踏まえて、責任実習を1回以上実践する。
・履修上の注意事項
1.「実習の内規」に照らし、第2条の履修要件、第3条の履修視覚を得ていること。
2.原則、3日以内の欠勤は補充する。4日以上の欠勤は実習中止とする。
3.日頃より、実習にふさわし身だしなみ(実習の手引きに準ずること)を心がける。
4.教育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは順序性を持って履修する。
・課題についてのフィードバックについては、日々の日誌を書くことで振り返り反省し、分からないこと等は積極的に担当教師に質問し理解するよう努める。また実習終了後は自己評価等を行い次の課題を確認する。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

授業内容・計画

実習期間　：　10月中旬　2週間

1.参加・部分実習・・・実習園の指導計画に沿って、30～45分の部分実習(設定保育)の指導案を立案し実践する。

①クラスの保育活動に参加し、子どもの実態を理解する。

②子どもと関わり、発達段階や実態を理解する。

③環境構成、教材教具の準備等に参加し、教師の仕事や役割を理解する。

④部分実習指導案を立案し実践し、反省・評価する。

⑤園行事及び園の地域社会との連携を理解し参加する。

2.総合(半日・全日)実習・・・子どもが登園してから降園するまでの一日又は半日の保育を実習生が担任教師の指導の下に、指導案を立案し実践する。

①子どもの発達理解と保育者の関わり方を理解する。

②半日又は全日実習の指導案を立案、実践する。

③実践した半日又は全日実習の振り返り、評価・反省する。

④保育活動する上での環境構成、保育上の配慮・留意点等具体的な教育・保育技術を学ぶ。

⑤総合的に子ども、保護者、幼稚園を理解し学んだことから今後の課題をまとめる。

授業で取り入れているアクティブラーニング

実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
授業で学んだことを振り返り復習しておく。事前準備や部分、半日、全日実習指導案を立案し、目標をもって実習に臨む。【30分/週】 その日の実習を振り返り日誌にまとめる。【2～3時間/日】	評価割合:実習先からの「実習評価票」70%、「実習日誌」と「実習レポート」30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日誌と指導案 のサポートブック』ナツメ社
幼稚園教育要領解説(平成30年3月文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)
【持参物】「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	実習	2年次	通年	幼	C23y28	「実習の内規」に基づく。 幼稚園教諭二種免許状：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)

到達目標(1)	幼稚園やクラスの実態、子ども一人一人の個性について理解する。
到達目標(2)	部分、半日、全日実習の指導計画を立案し実践する。
到達目標(3)	教師の役割や職務内容を理解し、求められる資質・能力・技術にに照らし合わせ自己の課題を明確にする。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

1.参加・部分実習

①クラスの保育活動に参加し、子どもの実態について

②子どもの発達段階について

③環境構成、教材教具の準備等に参加し、教師の仕事や役割について。

④部分実習指導案を立案し実践し、反省・評価について

⑤園行事及び園の地域社会との連携について

2.総合(半日・全日)実習

①子どもの発達理解と教師の関わり方について

②半日又は全日実習の指導案を立案、実践について

③実践した半日又は全日実習の振り返り、評価・反省について

④保育活動する上での環境構成、保育上の配慮・留意点等具体的な教育・保育技術について

⑤総合的に子ども、保護者、幼稚園を理解し学び、今後の課題について

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【幼稚園やクラスの実態、子ども一人一人の個性について理解する。】　(A・B・C・D)

(2)【部分、半日、全日実習の指導計画を立案し実践する。】　(A・B・C・D)

(3)【教師の役割や職務内容を理解し、求められる資質・能力・技術に照らし合わせ自己の課題を明確にする。】　(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
教育実習事前事後指導(1年生)	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・教育実習に臨むために必要な知識・技能・態度を習得する。教育実習Ⅰでは本学指定幼稚園、教育実習Ⅱ・Ⅲでは希望幼稚園で実習を行う。これらの実習を通して基本的な子とも観・保育観を具体的に身に付け、幼稚園教諭としての資質・能力を養う。そのために実習マナーをはじめ、実習の心得、実習日誌、指導案、保育実技(手遊び、絵本の読み聞かせ、ピアノの弾き歌い等)等の指導に重点を置く。
・履修上の注意事項
1.課題レポートの未提出や授業欠席の多い学生、著しく実習マナーを欠くと思える学生は実習に行くことができない。
2.実習後、評価によって個別指導を行う。
3.原則、教育実習Ⅲと連動して単位を認定する。
・課題についてのフィードバックについては、各実習終了後自己評価を行い、実習先の評価と照らし合わせ、PDCAサイクルを実施している。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
※実務教員による授業科目。担当者は幼稚園に長年勤務し、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能。保育現場で活かす実践力」を獲得することができる。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	幼稚園の役割と機能、実習のマナー、心得等について		月　日	出・欠
2	幼稚園観察・見学実習について		月　日	出・欠
3	幼稚園観察・見学実習・・・幼稚園の実態を理解し、今後の学習や実習に備える		月　日	出・欠
4	実習内諾について・・・依頼の手順、希望実習先調べる。	〈保育実技〉絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
5	希望実習先の確認、内諾書の記入、提出物の確認について	〈保育実技〉絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
6	教育実習Ⅰに向けて・・・心得、マナー、確認事項、個人票の記入等	〈保育実技〉　手遊び歌	月　日	出・欠
7	実習日誌の書き方①・・・時系列の記録等について	〈保育実技〉　手遊び歌	月　日	出・欠
8	事前訪問の仕方について	〈保育実技〉　手遊び歌	月　日	出・欠
9	実習自己課題の立て方・・・実習目標と自己課題の設定	〈保育実技〉　手遊び歌	月　日	出・欠
10	実習園概要等の書き方について	〈保育実技〉　手遊び歌	月　日	出・欠
11	実習日誌の書き方②・・・保育者の配慮、実習生の気づき、考察等の書き方について	〈保育実技〉　手遊び歌	月　日	出・欠
12	教育実習Ⅰ後グループワーク、自己評価・振り返りについて		月　日	出・欠
13	お礼状の書き方、今後の実習について		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題、実技、グループワーク、振り返り

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・事前にテキストを読み、授業に備える。【30分/週】 ・保育実技(絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノの弾き歌い)などを練習しておく。【30分/週】	授業態度30%、レポート・課題提出40%、保育実技30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩国短期大学実習委員会編『令和6年度実習の手引き』、名須川知子監修『保育者になる人のための実習ガイドブック AtoZ』萌文書林、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日誌と指導案のサポートブック』ナツメ社、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成 30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)、その他適宜資料を配付する。
【持参物】　「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	1年次	通年	幼	C13y29	「実習の内規」に基づく。 幼稚園教諭二種免許状:(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	教育実習の意義と心得を理解し、教師としての責任を自覚し意欲的に実習に臨む。
到達目標(2)	実習日誌の書き方を理解し、指導案を立案し実習に備える。
到達目標(3)	教育実習で得た知識と経験を振り返り、自己評価を行い、課題を明確にする。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【教育実習の意義と心得を理解し、教師としての責任を自覚し意欲的に実習に臨む。】	(A・B・C・D)
(2)【実習日誌の書き方を理解し、指導案を立案し実習に備える。】	(A・B・C・D)
(3)【教育実習で得た知識と経験を振り返り、自己評価を行い、課題を明確にする。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
教育実習事前事後指導(2年生)	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・教育実習に臨むために必要な知識・技能・態度を習得する。教育実習Ⅰでは本学指定幼稚園、教育実習Ⅱ・Ⅲでは希望幼稚園で実習を行う。これらの実習を通して基本的な子とも観・保育観を具体的に身に付け、幼稚園教諭としての資質・能力を養う。そのために実習マナーをはじめ、実習の心得、実習日誌、指導案、保育実技(手遊び、絵本の読み聞かせ、ピアノの弾き歌い等)等の指導に重点を置く。
・履修上の注意事項
1.課題レポートの未提出や授業欠席の多い学生、著しく実習マナーを欠くと思える学生は実習に行くことができない。
2.実習後、評価によって個別指導を行う。
3.原則、教育実習Ⅲと連動して単位を認定する。
・課題についてのフィードバックについては、各実習終了後自己評価を行い、実習先の評価と照らし合わせ、PDCAサイクルを実施している。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
※実務教員による授業科目。担当者は幼稚園に長年勤務し、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能。保育現場で活かす実践力」を獲得することができる。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	教育実習Ⅱ・Ⅲに向けて・・・個人票等必要な提出書類の作成、事前訪問について		月　日	出・欠
2	実習日誌の書き方・・・教師の配慮の意図、考察の記録について	〈保育実技〉　模擬保育　朝・帰り	月　日	出・欠
3	指導案の立て方・・・部分実習指導案の立て方 実習自己課題について	〈保育実技〉　模擬保育　朝・帰り	月　日	出・欠
4	部分案と模擬保育①・・・部分案についてのグループワーク	〈保育実技〉　模擬保育　朝・帰り	月　日	出・欠
5	部分案と模擬保育②・・・模擬保育の実践(季節に応じた活動内容)	〈保育実技〉　模擬保育　朝・帰り	月　日	出・欠
6	教育実習Ⅱの確認事項(直前)	〈保育実技〉　模擬保育　朝・帰り	月　日	出・欠
7	教育実習Ⅱ後のグループワーク、自己評価・振り返り	〈保育実技〉　模擬保育　朝・帰り	月　日	出・欠
8	教育実習Ⅲに向けて・・・部分・半日・全日実習等、実習自己課題について		月　日	出・欠
9	部分案と模擬保育③・・・部分案についての話し合い		月　日	出・欠
10	部分案と模擬保育④・・・模擬保育の実践(年齢や季節に応じた活動内容)		月　日	出・欠
11	教育実習Ⅲ後のグループワーク、自己評価・振り返り		月　日	出・欠
12	まとめ・・・合同授業への取り組み(ポスター制作)		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題、実技、模擬保育、グループワーク、振り返り

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・事前にテキストを読み、授業に備える。【30分/週】 ・保育実技(絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノの弾き歌い)などを練習しておく。【30分/週】	授業態度30%、レポート・課題提出40%、保育実技30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、名須川知子監修『保育者になる人のための実習ガイドブック AtoZ』萌文書林、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日 誌と指導案のサポートブック』ナツメ社、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成 30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)、その他適宜資料を配付する。
【持参物】　「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	通年	幼	C13y29	「実習の内規」に基づく。 幼稚園教諭二種免許状：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	教育実習の意義と心得を理解し、教師としての責任を自覚し意欲的に実習に臨む。
到達目標(2)	実習日誌の書き方を理解し、指導案を立案し実習に備える。
到達目標(3)	教育実習で得た知識と経験を振り返り、自己評価を行い、課題を明確にする。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【教育実習の意義と心得を理解し、教師としての責任を自覚し意欲的に実習に臨む。】	(A・B・C・D)
(2)【実習日誌の書き方を理解し、指導案を立案し実習に備える。】	(A・B・C・D)
(3)【教育実習で得た知識と経験を振り返り、自己評価を行い、課題を明確にする。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	
【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】	

授業科目名	担当者
保育実習Ⅰ（施設）	舩原 将太

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育実習指導Ⅰ（施設）の授業や1年次前期における児童福祉施設（保育所をのぞく）見学実習で、職員の方々から、施設の概要を中心に経営理念や方針・利用者への関わり方・利用者に対する援助の方法・利用者支援等について学ぶ。
・児童福祉施設における保育士の役割として、日常活動支援・グループや個別の活動支援・治療的支援等の支援や援助方法について実習を通して学びを深める。
・保育士として自らの児童観・保育観と、子どもが経験しうる虐待の問題や、その延長で施設における生活を余儀なくされている児童の状況を把握し、子どもの権利・障害児の日々の生活を中心に、現代の家庭や地域社会についての捉え方を実習の体験を通して学習する。
・履修上の注意事項として、実習の手引きを持参し、配付した資料を各自のファイルに保管・管理し、提出に備える。
・3日間以内の欠席の場合は補充実習となり、4日間以上の欠席の場合は実習中止となる。
・課題についてのフィードバックは、事後指導で行う。
・Google Classroom 、オープン教材等を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	児童福祉法に明記されている児童福祉施設（保育所をのぞく）での10日間（90時間）の実習を通して、施設保育士の日常業務を理解し、保育士としての専門性を確認できるよう事前学習および事前準備をしておく。	月　日	出・欠
2	〔前半　実習施設・事業所の把握と児童・利用者の理解に努めていく〕　　1日目からおおよそ5日目	月　日	出・欠
3	(1)施設職員の方から下記の項目について情報共有をいただき、今後の実習に備える。 ①施設の概要　②職員の業務内容　③利用者の活動支援・生活支援の状況を理解する。	月　日	出・欠
4	④実習日誌の記載に関する注意事項や提出時間や提出場所について確認しておく。 (2)事前に調べた配属先の施設に関する概要や、利用者や児童についての情報と、実際の状況とで異なった	月　日	出・欠
5	部分を整理し、その対応が可能かどうか工夫する。難しい場合は気がつき次第、実習施設の担当職員と連絡する。	月　日	出・欠
6	(3)乳幼児・児童及び利用者に自己紹介をかねて言葉かけによるコミュニケーション活動をしていくために、施設職員の方々から、コミュニケーション技術の向上のための助言を得る。	月　日	出・欠
7	(4)施設を利用している乳幼児・児童および利用者が、地域の方々とどのように関わっているのか理解する。 (5)施設を利用している乳幼児・児童および利用者の、家族との関わりの実際の場面で、気がついたことに関連して現代の家庭と照らし合わせ考察を深める。	月　日	出・欠
8		月　日	出・欠
9	〔後半　児童や利用者へ理解と、施設保育士としての専門性を考察する〕　　おおよそ6日目から10日目	月　日	出・欠
10	(1)部分実習として、絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノやオルガンでの弾き歌い、レクリエーション活動など計画的に実施するため、前半のうちに実習担当者と計画を確認しておく。	月　日	出・欠
11	(2)ひとりの児童や利用者の一日の行動を、遠くからでもよく観察して、実習日誌に各場面で気づいた行動やしぐさを記述し、乳幼児・児童および利用者の活動から実習時の様子をふり返る。	月　日	出・欠
12	(3)施設の機能・施設保育士の職務内容・業務内容について理解を深めていくため、できる限りケース会議への参加をすることで、日常業務や援助の過程を学ぶ。 (4)施設保育士としての専門性と職業倫理について理解する。	月　日	出・欠
13	(5)実習のまとめの下書きを作成し、これまでの実習における経験をふり返りながら最終日を迎える。 (6)実習終了に向けての準備（使用した部屋・ロッカーの整理整頓・食事代などの精算）を進めていく。	月　日	出・欠
14		月　日	出・欠
15		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
①実習施設で可能なレクリエーション活動や、絵本の読み聞かせ、手遊び歌、弾き歌いを準備し、参観実習に備える。予習【2時間/週】 ②その日の児童(利用者)への関わり方をふり返る。復習【2時間/週】	課題に対するレポート・小テスト（フィードバック含む）40%、受講態度20%、実技40% 合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　岩国短期大学実習委員会編(2024)『令和6年度実習の手引き』
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
その他参考文献を提示する。
【持参物】　適宜資料を配付していくため、手元のファイルに整理し、復習等に活用する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	実習	1・2年次	通年	保	C13h30	「実習の内規」に基づく。 保育士資格：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	○	○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	実習施設に関する概要と、利用者や児童についての情報を得るため、図書館や実習指導室を活用して理解を深める。
到達目標(2)	実習施設の多様な職種の職員との連携の大切さを学ぶ。
到達目標(3)	児童や利用者に対して、その人らしさを大切にしていく共感的態度を中心とした援助活動を理解する。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

前半(1)①実習施設(作業所)名

②どのような対象者が利用していますか。

前半(2)施設長または実習指導者の講話や施設の概要で印象に残ったことを記してください。

前半(3)いつごろから、どんなきっかけで乳幼児・児童および利用者と上手く関わり始められましたか。

前半(4)実習日誌を記載するうえで、日々の課題をどのような視点で前日に設定しましたか。

後半(1)レクリエーション活動や部分実習では、どのような内容を計画して実際に取り組めましたか。

後半(2)注目した、ひとりの児童や利用者の一日の行動を、遠くからでも観察したことを記載しましたか。

後半(3)実習指導者をはじめ、職員の方々から示された言葉や援助の方法で印象に残っている場面を記してください。

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【実習施設に関する概要と、利用者や児童についての情報を得るため、図書館や実習指導室を活用して理解を深める。】　(A・B・C・D)

(2)【 実習施設の多様な職種の職員との連携の大切さを学ぶ。】　(A・B・C・D)

(3)【児童や利用者に対して、その人らしさを大切にしていく共感的態度を中心とした援助活動を理解する。】　(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習Ⅰ（保育所）	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育実習Ⅰ（保育所）は、学生の希望する保育所（園）で8月中旬から10日間の実習を行う。保育所（園）の生活に参加し、子どもへの理解を深めるとともに、保育所の機能や役割、そこで働く保育士の業務について学ぶ。指導担当保育士の指示を受けながら保育活動に参加し、保育士としての資質・能力を養う。部分実習の指導案を立案し、1回以上実践する。
＜注意事項＞
1.「実習の内規」に照らし、第2条の履修要件、第3条の履修資格を得ている。
2. 3日間以内の欠勤は補充する。4日間以上の欠勤は実習中止とする。
3. 日頃より、実習にふさわしい身だしなみ（実習の手引きに準ずること）を心がける。
4. 保育実習Ⅰ（保育所）・Ⅱ又はⅢは順序性をもって履修する。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

授業内容・計画

実習期間　：　8月中旬　10日間

1.観察・参加実習

①保育所の一日の生活の流れや子どもの生活について理解する。

②保育所保育指針に基づく保育について理解する。

③子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達過程を理解する。

④保育士の子どもへの援助や関わり方を観察し理解する。

⑤子どもの生活や遊びと保育環境について学ぶ。

2.参加・部分実習

①絵本の読み聞かせ、手遊び歌、ピアノの弾き歌い等を実践し保育技術を習得する。

②保育指導計画を理解し、部分実習の指導案を立案、実施する。

③保育記録に基づき省察・自己評価する。

④保育士の役割分担や連携・協働について理解する。

⑤保育士の役割と職業倫理について理解する。

授業で取り入れているアクティブラーニング

実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
専門科目の学習内容を復習し、部分実習指導案を立案しておく。保育技術の練習をする。自己課題を明らかにし目標をもって実習に臨む。【30分/週】 その日の実習を振り返り日誌にまとめる。【2～3時間/日】	評価割合：実習先からの「実習評価票」70％、「実習日誌」と「実習レポート」30％、合計100％

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日誌と指導案 のサポートブック』ナツメ社
保育所保育指針解説（平成30年3月厚生労働省）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月内閣 府・文部科学省・厚生労働省）
【持参物】　「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	実習	2年次	通年	保	C23h31	「実習の内規」に基づく。 保育士資格：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)

到達目標(1)	子どもの観察や関わりを通して子どもについて理解する。
到達目標(2)	子どもの実態を把握し指導計画の作成、実践、評価する。
到達目標(3)	保育士の業務と職業倫理について具体的に学ぶ。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

1.観察・参加実習

①保育所の一日の生活の流れや子どもの生活について

②保育所保育指針に基づく保育について

③子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達過程について

④保育士の子どもへの援助や関わり方について

⑤子どもの生活や遊びと保育環境について

2.参加・部分実習

①絵本の読み聞かせ、手遊び歌、ピアノの弾き歌い等実践した保育技術について

②保育指導計画を理解し、部分実習の指導案を立案、実施について

③保育記録に基づき省察・自己評価について

④保育士の役割分担や連携・協働について

⑤保育士の役割と職業倫理について

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【子どもの観察や関わりを通して子どもについて理解する。】　(A・B・C・D)

(2)【子どもの実態を把握し指導計画の作成、実践、評価する。】　(A・B・C・D)

(3)【保育士の業務と職業倫理について具体的に学ぶ。】　(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習指導Ⅰ（施設）	舩原 将太

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・8月の児童福祉施設（保育所を除く）での見学実習を、翌年2月～3月の保育実習Ⅰ（施設）10日間に生かすため、施設実習の目的や意義を理解する。その上で翌年の配属施設実習の意義・目的・心構え、実習の計画、実践活動、観察記録、実習課題と活動案、実習日誌の記載の方法を学ぶ。さらに、配属実習施設からの評価方法やその内容について把握し、準備を行うことで配属実習施設に臨むようにする。
・配属された実習施設の乳幼児・児童や利用者に対して、どのように最善の利益を考慮した言動をすべきか、人権やプライバシーの保護および守秘義務について事前に学習する。さらに、乳幼児・児童や利用者との関わる際の、対人援助の手順や実習生としてのマナーについて理解を深める。
・履修上の注意事項として、実習の手引きを持参し、配付した資料を各自のファイルに保管・管理し、提出に備える。
・課題についてのフィードバックは、事後指導で行う。
・Google Classroom、オープン教材等 を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	児童福祉施設見学実習事前指導①　目的と内容および概要・実習レポートについて	月　日	出・欠
2	児童福祉施設見学実習事前指導②　施設の種類・特徴について	月　日	出・欠
3	児童福祉施設見学実習事前指導③　実施見学実習施設について・諸連絡	月　日	出・欠
4	児童福祉施設見学実習①　各見学実習施設（訪問指導教員による指導）	月　日	出・欠
5	児童福祉施設見学実習②　各見学実習施設（訪問指導教員による指導）	月　日	出・欠
6	児童福祉施設見学実習③　各見学実習施設（訪問指導教員による指導）	月　日	出・欠
7	児童福祉施設見学実習④　各見学実習施設（訪問指導教員による指導）	月　日	出・欠
8	児童福祉施設見学実習事後指導　見学実習施設ごとのふり返り	月　日	出・欠
9	保育実習指導Ⅰ（施設）実習事前指導①　実習の意義と目的	月　日	出・欠
10	障害者とのスポーツレクを体験し、施設の児童が楽しめるレクを考える	月　日	出・欠
11	保育実習指導Ⅰ（施設）実習事前指導②　実習生調書の作成と実習日誌の書き方	月　日	出・欠
12	保育実習指導Ⅰ（施設）実習事前指導③　自己課題と事前訪問について	月　日	出・欠
13	保育実習指導Ⅰ（施設）実習事前指導④　実習施設の特徴と注意	月　日	出・欠
14	保育実習指導Ⅰ（施設）実習事前指導⑤　実習直前の確認とお礼状の書き方	月　日	出・欠
15	保育実習指導Ⅰ（施設）実習事後指導　　実習報告・ふり返り	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題（演習、レポートなど）・協同学習（ペアワーク、グループワークなど）・発表（スピーチ、プレゼンテーションなど）

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
①配属実習施設に関する概要、利用者や児童についての情報を得るため、図書館・キャリア支援センター等を利用する。予習【30分/週】 ②児童福祉施策の動向に着目する。復習【30分/週】	配属実習施設に提出した「実習日誌」と「レポート」（フィードバック含む）80%、授業への積極的な参加状況20%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　岩国短期大学実習委員会編（2024）『令和6年度実習の手引き』
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
その他参考文献を提示する。
【持参物】　適宜資料を配付していくため、手元のファイルに整理し、復習等に活用する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	1・2年次	通年	保	C13h32	「実習の内規」に基づく。 保育士資格:(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	○	○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	児童福祉施設見学実習の記録や事後指導からふり返りができ、保育実習Ⅰ(施設)への目標を確かにする。
到達目標(2)	実習事前訪問に向けて実習計画書で自己課題を明確にして、実習前準備を計画的にすすめていける。
到達目標(3)	実習事後指導でふり返ることができ、2年次の保育実習Ⅰ(保育所)への目標を確かにする。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【児童福祉施設見学実習の記録や事後指導からふり返りができ、保育実習Ⅰ(施設)への目標を確かにする。】	(A・B・C・D)
(2)【実習事前訪問に向けて実習計画書で自己課題を明確にして、実習前準備を計画的にすすめていける。】	(A・B・C・D)
(3)【実習事後指導でふり返ることができ、2年次の保育実習Ⅰ(保育所)への目標を確かにする。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習指導Ⅰ(保育所)	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・子どもの最善の利益を考慮した保育、保護者支援、子どもの状態に応じた適切な関わり、保育の技術を生かした保育実践力を高めるための学習をし、保育士の専門性と職業倫理について理解する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしていく。
＜注意事項＞
1. 課題レポートの未提出や授業欠席の多い学生、著しく実習マナーを欠くと思える学生は実習に行くことができない。
2. 実習後、評価によっては、個別指導を行う。
3. 原則、保育実習Ⅰと連動して単位を認定する。
・課題についてのフィードバックについては、各実習終了後自己評価を行い、実習先の評価と照らし合わせ、PDCAサイクルを実施している。また定期試験終了後、解答の解説を行う。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。・Google Classroom、オープン教材を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
※実務教員による授業科目。担当者は幼稚園に長年勤務し、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能。保育現場で活かす実践力」を獲得することができる。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	実習指導のオリエンテーション、実習の内規と履修資格等について		月　日	出・欠
2	保育実習の意義と目的、名札作り	〈保育実技〉 絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
3	保育所見学実習について①実習先の概要、記録の書き方	〈保育実技〉 絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
4	保育所見学実習について②乳幼児との関わり方等	〈保育実技〉 絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
5	保育所見学実習①・・・保育所の実態を理解する。		月　日	出・欠
6	保育所見学実習②・・・乳幼児と関わり、発達段階を理解する。		月　日	出・欠
7	保育所見学実習③・・・保育士の乳幼児へ援助の仕方を観察し、理解する。		月　日	出・欠
8	保育所見学実習④・・・保育所の機能、保育士の役割を理解し、今後の実習に備える。		月　日	出・欠
9	保育所見学実習の振り返り、グループでの話し合い		月　日	出・欠
10	実習手続きと実習先の決定・・・希望実習先、訪問の仕方について。	〈保育実技〉 絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
11	希望実習先の確認、内諾書の記入、提出物の確認について	〈保育実技〉 絵本の読み聞かせ	月　日	出・欠
12	個人票の記入、実習自己課題の設定について	〈保育実技〉 模擬保育(朝・帰り)	月　日	出・欠
13	保育実習Ⅰ(保育所)の概要・・・実習の内容、留意点、一日の生活の流れと保育内容を理解する。	〈保育実技〉 模擬保育(朝・帰り)	月　日	出・欠
14	保育実習Ⅰ(保育所)のねらいと実習内容について	〈保育実技〉 模擬保育(朝・帰り)	月　日	出・欠
15	保育実習Ⅰ事後指導・・・保育実習を振り返り、保育実習Ⅱへの課題を明確にする。グループワーク		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

実技、課題、模擬保育、グループワーク、振り返り

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・事前にテキストを読み、授業に備える。【30分/週】 ・保育実技(絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノの弾き歌い)などを練習したり、指導案の作成をしておく。【30分/週】	授業態度30%、レポート・課題提出・保育実技40%、定期試験(試験60分、解説30分)30%、合計100% ※定期試験は、2年次の後期に実施します。

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】　1年生　岩国短期大学実習委員会編『令和6年度実習の手引き』、名須川知子監修『保育者になる人のための実習ガイドブックAtoZ』萌文書林、2年生　岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、金子智栄子監修『イラストでよくわかる0～6歳児の発達と保育』成美堂出版 1・2年生　大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる実習日 誌と指導案のサポートブック』ナツメ社、保育所保育指針解説(平成30年厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成 30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省)、その他適宜資料を配付する。
【持参物】　「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	1・2年次	通年	保	C13h33	「実習の内規」に基づく。 保育士資格:(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	子どもの観察や関わりを通して子どもについて理解する。
到達目標(2)	子どもの実態を把握し指導計画の作成、実践、評価する。
到達目標(3)	保育士の業務と職業倫理について具体的に学ぶ。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【子どもの観察や関わりを通して子どもについて理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【子どもの実態を把握し指導計画の作成、実践、評価する。】	(A・B・C・D)
(3)【保育士の業務と職業倫理について具体的に学ぶ。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習Ⅱ	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育実習Ⅰに引き続いて同一の希望する保育所(園)で9月初旬～中旬に10日間の実習を行う。Ⅰで学んだことを基盤に、更に子ども家庭の福祉ニーズに対する理解、判断力、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。部分実習の指導案を立案し、1回以上実践する。またこれまでの実習経験を踏まえて半日、全日の指導案を立案し、責任実習を1回以上実践する。
＜注意事項＞
1.「実習の内規」に照らし、第2条の履修要件、第3条の履修資格を得ている。
2. 3日間以内の欠勤は補充する。4日間以上の欠勤は実習中止とする。
3. 日頃より、実習にふさわしい身だしなみ(実習の手引きに準ずること)を心がける。
4. 保育実習Ⅰ(保育所)・Ⅱは順序性をもって履修する。
・Google Classroom、オープン教材を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

授業内容・計画

実習期間　：　9月初旬　10日間

1.観察・参加実習

①養護と教育が一体となって行われる保育について理解する。

②保育所の社会的役割と機能、責任について理解する。

③子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達過程について学ぶ。

④保育士の子どもへの援助や関わり方や子どもの生活や遊びと保育環境について実践を通して学ぶ。

⑤保護者・家庭への支援、子育て支援及び地域の保護者に対する子育て支援について理解する。

2.部分、責任(半日・全日)実習

①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について学ぶ。

②保育指導計画を理解し、部分、責任(半日・全日)実習の指導案を立案、実践する。

③保育記録に基づき省察・自己評価する。

④保育士の役割分担や連携・協働について理解する。

⑤保育士の多様な業務と職業倫理について学ぶ。

授業で取り入れているアクティブラーニング

実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
授業で学んだことを振り返り復習しておく。事前準備や部分、半日、全日実習指導案を立案し、目標をもって実習に臨む。【30分/週】 その日の実習を振り返り日誌にまとめる。【2～3時間/日】	評価割合:実習先からの「実習評価票」70%、「実習日誌」と「実習レポート」30%、合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習日誌と指導案のサポートブック』ナツメ社、保育所保育指針解説(平成30年3月　厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　(平成30年3月　内閣府・文部科学省・厚生労働省)

【持参物】 「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	実習	2年次	通年	保	C23h34	「実習の内規」に基づく。 保育士資格：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)

到達目標(1)	保育所の役割や機能について、子どもの観察や関わりを通して理解する。
到達目標(2)	子どもの実態を把握し指導計画の作成、実践、評価する。
到達目標(3)	保育士の業務と職業倫理を理解し、実習における自己課題を明確化する。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

1.観察・参加実習

①養護と教育が一体となって行われる保育について

②保育所の社会的役割と機能、責任について

③子どもの観察や関わりを通して乳幼児の発達過程につて

④保育士の子どもへの援助や関わり方や子どもの生活や遊びと保育環境について

⑤保護者・家庭への支援、子育て支援及び地域の保護者に対する子育て支援について

2.部分、責任(半日・全日)実習

①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について

②保育指導計画を理解し、部分、責任(半日・全日)実習の指導案を立案、実践について

③保育記録に基づき省察・自己評価について

④保育士の役割分担や連携・協働について

⑤保育士の多様な業務と職業倫理について

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【保育所の役割や機能について、子どもの観察や関わりを通して理解する。】　(A・B・C・D)

(2)【子どもの実態を把握し指導計画の作成、実践、評価する。】　(A・B・C・D)

(3)【保育士の業務と職業倫理を理解し、実習における自己課題を明確化する。】　(A・B・C・D)

A：よくできた　B：できた　C：あまりできなかった　D：できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習指導Ⅱ	佐々木 和美

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育実習指導Ⅰを踏まえ、更に総合的な学びを深める。子どもの最善の利益を考慮した保育、保護者支援への理解を深め、子どもの状態に応じた適切な関わり、保育の技術を生かした保育実践力を高めるための学習をし、保育士の役割、専門性と職業倫理について理解する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にしていく。
＜注意事項＞
1. 課題レポートの未提出や授業欠席の多い学生、著しく実習マナーを欠くと思える学生は実習に行くことができない。
2. 実習後、評価によっては、個別指導を行う。
3. 原則、保育実習Ⅱと連動して単位を認定する。
・課題についてのフィードバックについては、各実習終了後自己評価を行い、実習先の評価と照らし合わせ、PDCAサイクルを実施している。また定期試験終了後、解答の解説を行う。・Google Classroom、オープン教材を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。
※実務教員による授業科目。担当者は幼稚園に長年勤務し、その経験を生かして本授業を担当し、受講者は学習成果に掲げる「保育者としての専門的な知識と技能。保育現場で活かす実践力」を獲得することができる。

	授業内容・計画		実施日	出欠
1	保育実習Ⅱのねらいと実習内容について		月　日	出・欠
2	保育実践力の育成：乳児との適切な関わり方、遊びについ(グループワーク)	〈保育実技〉 模擬保育（朝・帰り）	月　日	出・欠
3	指導案の立て方・・・部分実習指導案の立て方 実習自己課題について	〈保育実技〉 模擬保育（朝・帰り）	月　日	出・欠
4	部分案、半日、全日案作成上のポイント	〈保育実技〉 模擬保育（朝・帰り）	月　日	出・欠
5	部分案と模擬保育（テーマ：音楽に関わる活動を楽しむ、十分に体を動かす活動を楽しむ）		月　日	出・欠
6	保育実習に向けて確認		月　日	出・欠
7	実習後のグループでの話し合い、報告会・・・学んだことやこれからの課題を話し合う		月　日	出・欠
8	実習の自己評価と振り返り・・・評価票に基づき実習を振り返り、反省と評価を行う		月　日	出・欠
9	実習の振り返り①（実習先の概要について）		月　日	出・欠
10	実習の振り返り②（指導案について）		月　日	出・欠
11	まとめ①・・・合同授業への取り組み（ポスター制作草案作り）		月　日	出・欠
12	まとめ②・・・合同授業への取り組み（ポスター制作）		月　日	出・欠
13	まとめ③・・・合同授業への取り組み（ポスター発表）		月　日	出・欠
14	1年生との合同授業		月　日	出・欠
15	実習の総括と課題の明確化		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

課題、模擬保育、グループワーク、発表、振り返り

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
・事前にテキストを読み、授業に備える。【30分/週】 ・保育実技（絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノの弾き歌い）などを練習したり、指導案の作成をしておく。【30分/週】	授業態度30％、レポート・課題提出・保育実技40％、 定期試験（試験60分、解説30分）30％、合計100％ ※定期試験は、2年次の後期に実施します。

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 岩国短期大学実習委員会編『令和5年度実習の手引き』、大元千種監修『書き方・あそび・保育のコツがわかる 実習日誌と指導案のサポートブック』ナツメ社
保育所保育指針解説（平成30年3月　厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成30年3月内閣府・文部科学省・厚生労働省）、その他適宜資料を配付する。
【持参物】 「実習の手引き」参照

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	通年	保	C23h35	「実習の内規」に基づく。 保育士資格:(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	保育実習の意義・目的・内容を理解し、保育士の専門性と職業倫理を理解する。
到達目標(2)	保育を計画し、保育の知識・技術を活かした保育実践力を身につける。
到達目標(3)	事後指導を通して、実習を振り返り自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【保育実習の意義と目的を理解し、保育士の専門性と職業倫理を理解する。】	(A・B・C・D)
(2)【保育を計画し、保育の知識・技術を活かした保育実践力を身につける。】	(A・B・C・D)
(3)【事後指導を通して実習を振り返り自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。】	(A・B・C・D)
A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習Ⅲ	舩原 将太

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・保育実習Ⅲにおける施設(事業所)の日々の養育・援助を軸にした支援活動を体験することで、施設保育士として必要な、資質・能力と技術・職業倫理を修得する。福祉サービス利用者の生活実態により、ひとりひとりのニーズ対応した援助に関わっていくことで、施設（事業所）運営や福祉施設の今日的役割や機能について理解する。
・履修上の注意事項として、保育実習指導Ⅰ（施設）を修得していること。実習の手引きを持参し、配付した資料を各自のファイルに保管・管理し、提出に備える。実習にふさわしい身だしなみ（実習の手引きに準ずること）を心がけておくこと。
・課題についてのフィードバックについては、訪問指導教員による日誌・レポートの指導・助言により行う。さらに、実習終了後、実習日誌と実習施設からの評価を基に行う。
・Google Classroom、オープン教材等 を活用し、実習、実習後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	児童福祉法に明記されている児童福祉施設（保育所をのぞく）での9月初旬～中旬、10日間の実習を通して、施設保育士の日常業務を理解する。そのため、専門性について事前学習による諸準備をしておく。 〔前半　実習施設(事業所)の日常業務の把握と児童(利用者)の理解に努める〕　1日目からおおよそ5日目 (1)①施設の概要、②職員の業務内容、③利用している乳幼児・児童および利用者の活動支援・生活支援の状況を把握するとともに、④実習日誌の記載に関する注意事項や提出時間や提出場所について確認する。 (2)事前に実習先の施設に関する概要、利用者や児童についての情報と、実際の状況で異なった事がらを整理し、その対応が可能かどうか工夫を試みる。難しい場合は状況の変化に気がつき次第、実習施設の担当職員と連携を図る。 (3)乳幼児・児童および利用者に自己紹介をかねて言葉かけによるコミュニケーション活動をしていくために、施設職員の方々から、コミュニケーション技術の向上のための助言を得ることでラポールを図る一歩を確認する。 (4)施設を利用している乳幼児・児童および利用者が、地域の方々とどのように関わっているのか、その日のプログラムの中から理解を深める。 (5)現代の家庭支援について理解していることを踏まえ、施設利用児者の家族との関わりの場面について考察する。	月　日	出・欠
2		月　日	出・欠
3		月　日	出・欠
4		月　日	出・欠
5		月　日	出・欠
6		月　日	出・欠
7		月　日	出・欠
8		月　日	出・欠
9	〔後半　児童や利用者の理解と、施設保育士としての専門性を理解する〕　　おおよそ6日目から10日目 (1)部分実習として、絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノやオルガンの弾き歌い、レクリエーション活動など計画的に実施するため、前半のうちに実習担当者と計画を確認しておく。 (2)ひとりの児童や利用者の一日の行動を、遠くからでもよく観察して、実習日誌に各場面で気づいた行動やしぐさを記述し、乳幼児・児童および利用者の活動から実習時の様子をふり返る。 (3)施設の機能・施設保育士の職務内容・業務内容について理解を深めていくため、できる限りケース会議へ参加をすることで、日常業務や援助の過程を学ぶ。 (4)施設保育士としての専門性と職業倫理について理解する。 (5)実習のまとめの下書きを作成し、これまでの実習の経験wおふり返りながら最終日を迎える。 (6)実習終了に向けての準備（使用した部屋・ロッカーの整理整頓・食事代などの精算）を進めていく。	月　日	出・欠
10		月　日	出・欠
11		月　日	出・欠
12		月　日	出・欠
13		月　日	出・欠
14		月　日	出・欠
15		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・実習

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
実習施設での絵本の読み聞かせ、手遊び歌、ピアノの弾き歌いによるレクリエーション活動を想定して、参観実習に備える。予習【2時間/週】・その日の児童(利用者)への関わり方をふり返る。復習【2時間/週】	実習施設からの「実習評価表」70%、提出した「実習日誌」と実習後提出した「実習レポート」30%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【テキスト】 岩国短期大学実習委員会編(2023)『令和5年度実習の手引き』
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
その他参考文献を提示する。
【持参物】 適宜資料を配付していくため、手元のファイルに整理し、復習等に活用する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
2	選択	実習	2年次	通年	保	C23h36	「実習の内規」に基づく。 保育士資格：(必修)

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)
◎	◎	○	○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	実習施設の、多様な職種の職員の方々との連携の大切さを学ぶ。
到達目標(2)	児童や利用者に対して、その人らしさを大切にする共感的態度を中心とした援助活動を試みる。
到達目標(3)	施設保育士としての専門性と職業倫理について理解する。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)

前半(1)①実習施設名

②どのような対象者が利用しているか。

前半(2)施設長または実習指導者の講話で印象に残ったことを記してください。

前半(3)いつごろから、どんなきっかけで乳幼児・児童および利用者と上手く関わり始められましたか。

前半(4)実習日誌の日々の課題はどのような視点で前日に設定しましたか。

後半(1)レクリエーション活動や部分実習ではどのような内容を計画して実際にどのように取り組みましたか。

後半(2)注目したひとりの児童や利用者の一日の行動を、どのようにして遠くからでも観察しましたか。

後半(3)実習指導者をはじめ、職員の方々から示された言葉や援助の方法で印象に残っている場面を記してください。

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価

(1)【 実習施設の、多様な職種の職員の方々との連携の大切さを学ぶ。】　(A・B・C・D)

(2)【 児童や利用者に対して、その人らしさを大切にする共感的態度を中心とした援助活動を試みる。】　(A・B・C・D)

(3)【施設保育士としての専門性と職業倫理について理解する。】　(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者
保育実習指導Ⅲ	舩原 将太

・授業の概要　　・履修上の注意事項　　・課題、試験に対するフィードバックについて

・子ども(利用者)がどのような状況にあっても、当事者や家族に最善の利益を優先していく適切な関わり方は模索しなければならない。そのため、児童福祉施設や障害者支援施設における利用児者の生活世界がどのようなものかに着目し、実習先の援助技術を生かした実践力に関心を持ち洞察力を養い、保育実習Ⅰ(施設)をふまえた総合的な学びを深めること、その上で保護者・家族支援のあり方と、施設保育士の専門性と倫理・規範的統合について理解することが重要である。
・履修上の注意事項として、保育実習指導Ⅰ(施設)を修得していること。実習の手引きを持参し、配付した資料を各自のファイルに保管・管理し、提出に備える。課題レポートの未提出や欠席の多い学生、著しく実習マナーに欠くと思われる学生は、実習延期となる場合がある。原則として保育実習Ⅲと関連させて単位認定する。
・課題についてのフィードバックについては、実習指導教員と実習施設の実習評価を基に、日誌・レポートの指導・助言とふり返りと、学生の実習総括により行う。
・Google Classroom 、オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立てることがあります。

	授業内容・計画	実施日	出欠
1	保育実習Ⅰ(施設)のふり返り　プロローグと、実習施設(作業所)の選択について	月　日	出・欠
2	実習施設(事業所)の社会的役割と、関連する機関や他の職種、地域社会との連携について	月　日	出・欠
3	保育所実習に向けてー子ども(利用者)への関わりと保護者支援ー	月　日	出・欠
4	保育実践力の育成①子ども(利用者)への受容・共感的態度の育成と、保育士の職業倫理について	月　日	出・欠
5	保育実践力の育成②子ども(利用者)の発達年齢や生活環境に関連したニーズを把握する	月　日	出・欠
6	実習生調書の作成ー実習計画の立案及び実習目標の確認ー	月　日	出・欠
7	実習計画に即した実習の展開方法と、実習日誌の記載について	月　日	出・欠
8	保育実習Ⅲの実際ー卒業生の実習体験により、子ども(利用者)との関わり方を考察するー	月　日	出・欠
9	実習先事前訪問に向けてー質問事項等の確認ー	月　日	出・欠
10	実習先に応じたレクリエーション活動の立案	月　日	出・欠
11	実習先事前訪問を終えてーデイリープログラムから考察するー	月　日	出・欠
12	実習の終了報告と、お礼状の書き方について	月　日	出・欠
13	実習の振り返り	月　日	出・欠
14	実習報告会の資料作り	月　日	出・欠
15	実習報告会　実習で体験したこと、学んだこと、これからの課題と展望について	月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

・課題(演習、レポートなど)・協同学習(ペアワーク、グループワークなど) ・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準
①レクリエーション活動の指導案を立案し、参観保育実習に備える。予習【30分/週】 ②実習施設の役割や利用者の関わり方をふり返る。復習【30分/週】	実習施設に提出した「実習日誌」と「レポート」(フィードバック含む)80%、授業への積極的な参加状況20%　合計100%

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

【参考文献】　岩国短期大学実習委員会編(2023)『令和5年度実習の手引き』
小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社
その他参考文献を提示する。
【持参物】　適宜資料を配付していくため、手元のファイルに整理し、復習等に活用する。

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件
1	選択	演習	2年次	通年	保	C23h37	保育実習Ⅰ(施設)を修得していること

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある) ○(関連がある)
◎	◎	○	○	○			

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	実習施設の、地域における社会的役割について理解を深める。
到達目標(2)	実習施設の子ども(利用者)と、それぞれの場面に応じた適切な関わりをする。
到達目標(3)	実習施設からの実習評価を基にふり返ることで、新たな課題と目標を明確にする。

学習記録 (授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【 実習施設の、地域における社会的役割について理解を深める。】	(A・B・C・D)
(2)【実習施設の子ども(利用者)と、それぞれの場面に応じた適切な関わりをする。】	(A・B・C・D)
(3)【 実習施設からの実習評価を基にふり返ることで、新たな課題と目標を明確にする。】	(A・B・C・D)
A:よくできた B:できた C:あまりできなかった D:できなかった	

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】

授業科目名	担当者

・授業の概要　・履修上の注意事項　・課題、試験に対するフィードバックについて

	授業内容・計画	実施日	出欠
1		月　日	出・欠
2		月　日	出・欠
3		月　日	出・欠
4		月　日	出・欠
5		月　日	出・欠
6		月　日	出・欠
7		月　日	出・欠
8		月　日	出・欠
9		月　日	出・欠
10		月　日	出・欠
11		月　日	出・欠
12		月　日	出・欠
13		月　日	出・欠
14		月　日	出・欠
15		月　日	出・欠

授業で取り入れているアクティブラーニング

予習・復習【学習時間の目安】オンライン支援含む	成績評価の方法・基準

テキスト・参考文献・持参物・検定料等

単位数	必選区分	学習方法	開講年次	開講期	卒幼保	ナンバリング	履修条件

学習成果(4つの資質・能力)との関連
「保育者としての専門的な知識と技能」(①保育者としての専門的な知識と技能を習得している)(②保育現場で活かす実践力が身についている)「表現力とコミュニケーション能力」(③音楽・造形・身体表現等の基本的な技能を身につけ豊かに表現することができる)(④他者との円滑なコミュニケーションを図りながら、問題を解決することができる)(⑤社会人として求められるコミュニケーション能力や、基本的な礼儀作法を身についている))「責任感と協力性」(⑥授業や行事等に積極的にかかわり、一つの目標に向かって協働して取り組むことができる)「地域貢献と敬愛の精神」(⑦ボランティア活動や行事への積極的な参加を通して地域社会に貢献することができる)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	学習成果達成のために ◎(特に関連がある)　○(関連がある)

到達目標(この授業を通して獲得を目指す知識・技能・態度)	
到達目標(1)	
到達目標(2)	
到達目標(3)	

学習記録　(授業内容と到達目標に対して、取り組んだ姿勢や達成度について記録する)
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15

到達目標(この授業を通して獲得した知識・技能・態度)についての自己評価	
(1)【　　】	(A・B・C・D)
(2)【　　】	(A・B・C・D)
(3)【　　】	(A・B・C・D)

A:よくできた　B:できた　C:あまりできなかった　D:できなかった

【この授業を通して習得した知識・技能、また反省する点について記述する。】